



Agile Product Lifecycle Management

Product Cost Management ユーザー・ガイド

v9.2.2.3

部品番号 E06157-01

2008 年 5 月

著作権および商標について

Copyright © 1995, 2008, Oracle. All rights reserved.

このプログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）には、オラクル社およびその関連会社に所有権のある情報が含まれています。このプログラムの使用または開示は、オラクル社およびその関連会社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権と工業所有権に関する法律により保護されています。独立して作成された他のソフトウェアとの互換性を得るために必要な場合、もしくは法律によって規定される場合を除き、このプログラムのリバース エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更される場合があります。オラクル社およびその関連会社は、このドキュメントに誤りが無いことの保証は致し兼ねます。これらのプログラムのライセンス契約で許諾されている場合を除き、プログラムを形式、手段（電子的または機械的）、目的に関係なく、複製または転用することはできません。

このプログラムが米国政府機関、もしくは米国政府機関に代わってこのプログラムをライセンスまたは使用する者に提供される場合は、次の注意が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the Programs, including documentation and technical data, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement, and, to the extent applicable, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software--Restricted Rights (June 1987). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このプログラムは、核、航空、大量輸送、医療あるいはその他の本質的に危険を伴うアプリケーションで使用されることを意図しておりません。このプログラムをかかる目的で使用する際、上述のアプリケーションを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。万一かかるプログラムの使用に起因して損害が発生いたしました、オラクル社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

Oracle、Agile は米国 Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の登録商標です。

このプログラムは、第三者の Web サイトへリンクし、第三者のコンテンツ、製品、サービスへアクセスすることができます。オラクル社およびその関連会社は第三者の Web サイトで提供されるコンテンツについては、一切の責任を負いかねます。当該コンテンツの利用は、お客様の責任になります。第三者の製品またはサービスを購入する場合は、第三者と直接の取引となります。オラクル社およびその関連会社は、第三者の製品およびサービスの品質、契約の履行（製品またはサービスの提供、保証義務を含む）に関しては責任を負いかねます。また、第三者との取引により損失や損害が発生いたしました、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

目次

著作権および商標について	ii
はじめに	1
Product Cost Management とは	1
部品分類とサプライヤの活用	1
共同ソーシングと価格改定管理	2
コストと供給の設計	2
新規ビジネス獲得	2
Agile クライアント アプリケーション	2
ライセンス	3
アイテム マスターおよびソーシング プロジェクト	3
出荷先の場所を把握する	4
Agile オブジェクトを検索する	5
顧客、サプライヤ、パートナーを扱う	5
ソーシング プロジェクトを使用する	7
ソーシング プロジェクトについて	7
プロジェクトのライフサイクル フェーズ	8
新規ソーシング プロジェクトを作成する	8
アイテムからの簡易作成手順	8
[プロジェクト作成] ウィザードを使用する	9
価格算出ケースを指定する	12
価格期間の日付	13
[名前を付けて保存] を使用してプロジェクトを作成する	14
他のユーザーとプロジェクトを共有する	14
BOM フィルタ	16
フィルタで BOM コンポーネントをインポートする	17
重複コンポーネントの部品番号	17
BOM フィルタの例	18
プロジェクト タブを設定する	18
プロジェクト タブの表示を設定するには	19
フィルタ ツールバーを使用する	19
プロジェクトにアイテムを追加する	20
フィルタを使用してアイテムを追加する	20

スプレッドシートからアイテム データをインポートする	21
[プロジェクト アイテムの追加] ウィザードでアイテムを作成する	22
サプライヤと共有するデータを選択する	22
[アイテム マスター] からプロジェクト コンテンツを更新する	23
価格算出ケースを変更する	24
コスト付き BOM の簡易手順	25
ロールアップ コストを実行するには	25
[ロールアップ コスト レポートの実行] での操作	26
その他のプロジェクト アクション	26
プロジェクト アイテムを管理する	27
プロジェクト アイテムについて	27
プロジェクト アイテムを管理する	27
プロジェクトに既存のアイテムを追加する	28
プロジェクトで新規アイテムを作成する	28
アイテムをプロジェクトにインポートする	29
プロジェクトからアイテムをエクスポートする	29
アイテム情報を編集する	30
アイテム数量を変更する	30
プロジェクト アイテム情報を更新する	31
アイテム数量を計算する	31
アイテム情報を表示する	32
プロジェクトからアイテムを削除する	32
[見積形式] と [コスト] の属性	33
アセンブリを展開する	33
アイテムのパートナー情報を管理する	34
プロジェクト アイテムにパートナーを追加する	34
プロジェクト アイテムからパートナーを削除する	35
プロジェクト AML	37
プロジェクト AML について	37
AML の表示と非表示	38
アイテムの属性を編集する	38
一括編集	38
AML データをフィルタリングする	39
アイテムに AML を追加する	39
AML データをインポートする	40
[アイテム マスター] から AML データを検索する	40
[AML] タブでアイテム数量を計算する	41
AML 行を削除する	41

製造元名を検証する	42
製造元部品番号を検証する	42
目標価格を設定する	43
見積依頼で目標価格を更新する	44
アイテムと製造元部品を公表する	44
プロジェクト データを分析する	47
プロジェクト データを分析する	47
プロジェクト データをフィルタリングする	48
公表価格をフィルタリングする	49
コスト付き BOM 比較を表示する	50
コスト付き BOM をエクスポートする	51
その他のコスト比較を表示する	52
分析レポートを作成する	53
アイテムの最良回答を設定する	54
回答に価格計算を適用する	55
価格情報を検索する	56
契約を検索する	56
公表価格を検索する	57
パートナー価格を検索する	58
見積履歴を検索する	59
アイテムと製造元部品の価格を公表する	60
通貨の値を変換する	62
プロジェクトから価格情報をエクスポートする	63
一括編集	64
見積依頼 (RFQ)	65
見積依頼について	65
見積依頼に使用される専門用語	66
RFQ 取引条件	67
Agile Java クライアントで RFQ 取引条件を設定する	67
バイヤー側の RFQ 取引条件設定	68
サプライヤ ビュー	68
見積依頼プロセス フロー	68
見積依頼回答と回答ラインの決定方法	69
見積依頼タスク	69
見積依頼ステータス	71
見積依頼を作成する	71

部品追加ルール	73
配布方法	73
見積依頼を送付する	75
見積依頼にアイテムを追加する	75
サプライヤとパートナーを割り当てる	75
アイテムの目標価格を更新する	75
見積依頼からアイテムを削除する	76
見積依頼を送信する	76
見積依頼を使用する	78
見積依頼を検索する	78
見積依頼を表示する	78
見積依頼ステータスを変更する	78
見積依頼を削除する	79
見積依頼変更を表示する	79
見積依頼回答を処理する	80
回答を編集する	84
回答入力フォーム	85
回答ラインを事前に見積済として設定する	86
見積を再依頼する	86
見積再依頼のステータスを表示する	86
顧客、部品分類、サプライヤを管理する	87
外部組織と提携する	87
作業を開始する前に	87
顧客とサプライヤの管理に必要な役割	87
顧客を管理する	88
顧客を作成する	88
顧客のフィールドと属性	89
顧客を編集する	90
部品分類を作成する	90
[部品分類] タブ	91
アイテムを部品分類に関連付ける	91
サプライヤを管理する	92
サプライヤ タイプ	92
パートナーとサプライヤ	92
サプライヤのライフサイクル フェーズ	93
サプライヤを作成する	93
サプライヤの識別	95
連絡先ユーザーを追加する	95
RFx 送付のルールを作成および変更する	97

製造元および部品分類提示を定義する	97
[PSR] タブを使用する	100
変更、ディスカッション、添付ファイル.....	101
アイテムと回答の変更.....	101
ディスカッション.....	102
ディスカッションを追加する	102
ディスカッションに返信する	103
ディスカッションを削除する	103
添付ファイル	104
添付ファイルを持つことのできるプロジェクト オブジェクト	104
添付ファイルを追加する	104
添付ファイルを表示する	105
価格情報を管理する.....	107
契約管理について	107
価格の概要	108
価格ルーチンのオブジェクト	108
関連する役割と権限	109
価格タイプ	109
価格情報を管理する	109
価格情報にアクセスする	110
価格を作成する	110
[価格] ページタブ	111
価格ラインを管理する	112
価格ラインを作成する	112
価格ラインを変更する	113
価格ライン情報を削除する	113
価格ラインをインポートする	113
価格変更	115
価格変更について	115
PCO を管理する	115
PCO を作成する	115
[カバー ページ] タブ	116
[対象価格] タブ	117
ワークフロー	118
関係を追加する	118

価格情報をレッドラインする	119
レッドライン モードで価格ラインを削除する	120

はじめに

Oracle|Agile マニュアル セットには Adobe® Acrobat™ PDF ファイルが含まれます。[Oracle Technology Network \(OTN\) Web サイト](http://www.oracle.com/technology/documentation/agile.html) (<http://www.oracle.com/technology/documentation/agile.html>) には、Oracle|Agile PLM の最新版の PDF ファイルがあります。この Web サイトのマニュアルは、その場で表示することもダウンロードして使用することもできます。また、使用しているネットワーク上の Oracle|Agile マニュアル フォルダに Oracle|Agile マニュアル (PDF) ファイルが格納されている場合もあります。詳細は、Agile 管理者にお問い合わせください。

注意 PDF ファイルを表示するには、Adobe Acrobat Reader™ のバージョン 7.0 以降 (無料) を使用する必要があります。このプログラムは、Adobe 社の Web サイト (<http://www.adobe.com>) からダウンロードできます。

[Oracle Technology Network \(OTN\) Web サイト](http://www.oracle.com/technology/documentation/agile.html) (<http://www.oracle.com/technology/documentation/agile.html>) は、Agile Web クライアントと Agile Java クライアントのいずれの場合も、[ヘルプ] > [マニュアル] の順に選択してアクセスできます。さらに疑問点がある場合やサポートが必要な場合は、[サポート](http://www.oracle.com/agile/support.html) (<http://www.oracle.com/agile/support.html>) にお問い合わせください。

注意 Oracle|Agile PLM マニュアルに関する問題について Agile サポートにお問い合わせいただく前に、タイトル ページにある完全な部品番号をご準備ください。

Oracle サポート サービスへの TTY アクセス

アメリカ国内では、Oracle サポート サービスへ 24 時間年中無休でテキスト電話 (TTY) アクセスが提供されています。TTY サポートについては、(800) 446-2398 にお電話ください。アメリカ国外からの場合は、+1-407-458-2479 にお電話ください。

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクル社は、障害のあるお客様にもオラクル社の製品、サービスおよびサポート ドキュメントを簡単にご利用いただけることを目標としています。オラクル社のドキュメントには、ユーザーが障害支援技術を使用して情報を利用できる機能が組み込まれています。HTML 形式のドキュメントで用意されており、障害のあるお客様が簡単にアクセスできるようにマークアップされています。標準規格は改善されつつあります。オラクル社はドキュメントをすべてのお客様がご利用できるように、市場をリードする他の技術ベンダーと積極的に連携して技術的な問題に対応しています。オラクル社のアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト <http://www.oracle.com/accessibility/> を参照してください。

Readme

Oracle|Agile PLM の最新情報は、すべて [Oracle Technology Network \(OTN\) Web サイト](http://www.oracle.com/technology/documentation/agile.html) (<http://www.oracle.com/technology/documentation/agile.html>) にある Readme ファイルに記載されています。

Agile トレーニング支援

Agile トレーニングの講義内容詳細については、[Oracle University Web ページ](http://www.oracle.com/education/chooser/selectcountry_new.html) (http://www.oracle.com/education/chooser/selectcountry_new.html) にアクセスしてください。

ドキュメント内のサンプル コードのアクセシビリティについて

スクリーン リーダーは、ドキュメント内のサンプル コードを正確に読めない場合があります。コード表記規則では閉じ括弧だけを行に記述する必要があります。しかしスクリーン リーダーは括弧だけの行を読まない場合があります。

外部 Web サイトのドキュメントのアクセシビリティについて

このドキュメントにはオラクル社およびその関連会社が所有または管理しない Web サイトへのリンクが含まれている場合があります。オラクル社およびその関連会社は、それらの Web サイトのアクセシビリティに関しての評価や言及は行っておりません。

第 1 章

はじめに

扱うトピックは次のとおりです。

■ Product Cost Management とは.....	1
■ 部品分類とサプライヤの活用	1
■ 共同ソーシングと価格改定管理.....	2
■ コストと供給の設計	2
■ 新規ビジネス獲得	2
■ Agile クライアント アプリケーション	2
■ ライセンス	3
■ アイテム マスターおよびソーシング プロジェクト	3
■ 出荷先の場所を把握する	4
■ Agile オブジェクトを検索する.....	5
■ 顧客、サプライヤ、パートナーを扱う	5

Product Cost Management とは

Agile Product Cost Management (PCM) は、製品の発端から製品の寿命に至るまで、製品のライフサイクルを通して、企業が直接材料をソーシングするためのツールです。これは、企業の目標コストに対して製品のライフサイクル コストを継続的に管理し、ライフサイクルの利益を最大化するために設計されています。

また、材料の多層ネットワークにおける必要条件と、製品を顧客に配送する際に消耗されるリソースに関する問題に対応すること、また販売/マーケティング、調達、経営、エンジニア、貿易パートナーなどにおけるキー パーソンが、製品設計の決定について互いに協力し合うことを目的としています。

Agile PCM を導入することにより、4 つの顕著なコスト削減を達成することができます。

- 部品分類とサプライヤの活用
- 共同ソーシングと価格改定管理
- 統計コストとマージンの設計
- 新規ビジネス獲得

部品分類とサプライヤの活用

企業は、サプライヤや製造元パートナーを通して活用できる機会を逃さず、製品コストを削減できます。Agile PCM は製品の予想、新製品の部品構成表 (BOM)、製品変更、コスト/見積履歴のライフサイクル表示と転送を行うことができます。入札パッケージの作成、入札と交渉プロセス、およびサプライヤ/顧客契約管理を完全に自動化できます。

Agile PCM はすべての関連プロダクト レコードを通して、製品使用の適切な表示を抽出し、集約させることができます。変更の潜在的なコスト的影響を、パートナーやサプライヤを通じて共同で、リアルタイムで分析することができます。有効なソーシング戦略は、企業のソーシング サイクル時間と直接材料支出を削減すると同時に、全体的なソーシング効果を向上させることができます。

共同ソーシングと価格改定管理

ソーシング サイクル時間と直接材料支出を削減することに加え、企業は Agile PCM を使用して、製造下請業者やサプライヤのネットワークを通して拡張するソーシング戦略を発展させることができます。Agile PCM により、企業は製造パートナーやサプライヤの多層ネットワークを通して部品構成表 (BOM) の正確性を確保することができます。

Agile PCM により、すべてのビジネス パートナーは現在の BOM を使用し、そしてマテリアルおよびその他のコスト計算の回答と分析を行うことができます。企業間のソーシング チームは、共同ソーシングの分析を通してコストダウンの機会を明らかにし、共同交渉においてきわめて優位な立場を得ることができます。定期的なスケジュールに基づき、マーケットの動向に合わせて交渉および価格のリセットを行うことができます。

コストと供給の設計

Agile PCM は、設計目的をソーシング戦略と協調させることにより、製品の目標コストを達成し、供給リスクを最低限に抑制します。コストと供給を設計する企業は、ダウンストリームの供給と製造目的に対する各設計選択を分析します。

初期設計段階において、供給およびコスト計画チームは劇的に変動する製品構造に対応していきます。各プログラムのコストを計算し、ソーシングの代案を分析し、コストの見積と時間ベースの抑制を転送することができます。プロジェクト ベースの環境において、設計およびソーシング チームは BOM、ソーシング代替提案、および価格更新について、各々からの変更を検証し記録することができます。

Agile PCM により、目標コストの達成、旧式化したコンポーネントの管理、リスクのあるアイテムやサプライヤを初期段階で認識し、ソーシング プリファレンス管理を設計段階まで進めることができます。

新規ビジネス獲得

Agile PCM は、経営管理や事務管理部門を通して新規ビジネス獲得プロセスをサポートするために使用することができます。以前の契約価格の見積、および ERP コスト フィードの再利用を自動化し、新しいコスト情報(変更、追加など)の収集機能を加えると、新しいビジネス要件に対する顧客の平均回答時間を大幅に短縮することができます。結果として、大量の価格見積を素早く処理することができ、動作効率と顧客利益率を向上させます。

Agile クライアント アプリケーション

Agile PLM は次の 2 つのクライアントを提供しています。

- Web クライアント - HTML ベースのクライアントで、Web ブラウザから実行することができます。クライアント側でのインストールは不要です。Web クライアントは Agile PCM 機能に対し完全なアクセスを提供しますが、管理機能に対するアクセスは限られています。

- Java クライアント - 複数ウィンドウなどの詳細 UI 機能を提供する Java アプリケーションであり、Agile 管理機能に対しフルアクセスが可能です。Java クライアントをローカルにインストールすると、Java WebStart を通してネットワーク上で自動的に更新されます。Agile Java クライアントは、プロジェクトや見積依頼などの Agile PCM オブジェクトの検索が可能ですが、作成はできません。

Web クライアントを使用して、ソーシング プロジェクト、見積依頼、見積依頼回答の作成など、ほとんどの Agile PCM 機能にアクセスすることができます。Java クライアントを使用して Agile PLM サーバを管理します。

特に明記されている場合を除き、このマニュアルでは Agile PCM 手順の実行に Web クライアントを一貫して使用しています。Agile Web クライアントの機能に関する一般情報は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』をご覧ください。

ライセンス

Agile PLM セットには様々なソリューションやサーバ ライセンスが含まれています。次のサーバ ライセンスは、Product Cost Management 機能を有効にします。

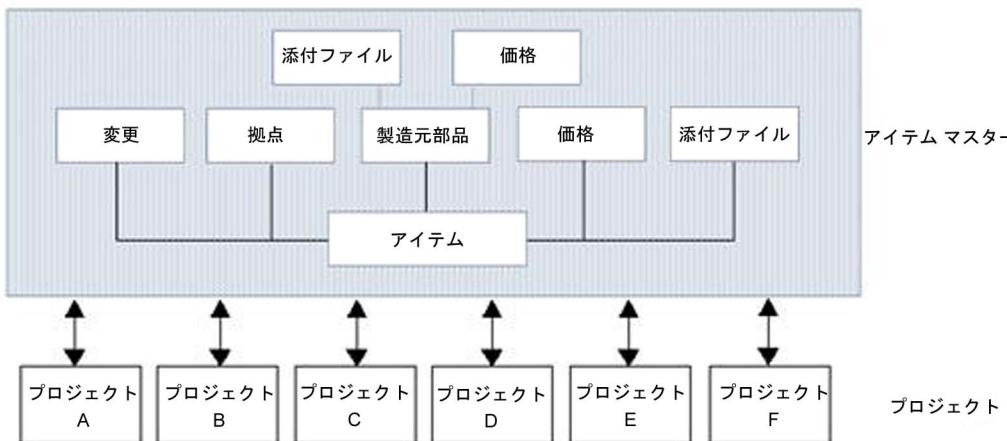
- 製品 - あらゆる企業向けの Agile 基本ライセンスであり、アイテム オブジェクト (BOM を含む)、設計変更オブジェクト、部品分類、製品およびプロセス レポートへのアクセスを可能にします。
- ソーシング - [ソーシング プロジェクト]、[見積依頼]、[見積依頼回答]、[ソーシング レポート] へのアクセスを提供します。
- 価格管理 - [価格]、[価格変更] (PCO)、[ソーシング レポート] へのアクセスを提供します。
- 組織 - サプライヤと顧客を作成し、管理することができます。
- 抱点 - [抱点] オブジェクトへのアクセスを提供します。複数の製造元抱点を定義することができます。また、[抱点毎変更] を使用し、[抱点] へ変更を管理することができます。[抱点] ライセンスは Product Cost Management には必要ありませんが、このライセンスがあると、抱点別のソーシング プロジェクトを作成することができます。

Agile PLM サーバ ライセンスの完全なリストは、『管理者ガイド』を参照してください。

アイテム マスターおよびソーシング プロジェクト

[アイテム マスター] は、プロダクト レコードとしても知られています。これは、アイテム (部品、ドキュメント、その他のアイテム クラスのユーザー定義サブクラス) の完全な集合体であり、Agile システムにおける変更管理のもとで保持されています。Agile PLM のすべてのアイテムに対し検索を実行すると、検索結果は基本的に [アイテム マスター] から取得されます。ただし、[アイテム マスター] には変更 (ECO、MCO、SCO)、抱点、製造元部品、および価格などのアイテム リビジョンに関連するすべてのオブジェクトも含まれています。

[アイテム マスター] は Agile PLM クライアント ユーザー インターフェースでは見ることができますが、Agile PCM でははっきりと示されます。ソーシング プロジェクトのほとんどのデータは、次の図に示すように、[アイテム マスター] から取得されます。また、新規プロジェクト アイテムを作成したり、外部データ ファイルからアイテムをインポートすることもできます。



ソーシング プロジェクトにデータを追加するとき、[アイテム マスター] からオブジェクトを選択することができます。プロジェクトに含まれるアイテムや製造元部品に変更を加えた場合、変更を [アイテム マスター] に公表し、次の内容を更新することができます。

- アイテム

- 部品構成表 (BOM)
- 承認済み製造元リスト (AML)

- 製造元部品

フィルタを使い、インポートする BOM アイテムを選択することができます。[アイテム マスター] へのアイテムおよび製造元部品の公表の詳細は、44 ページの「[アイテムと製造元部品を公表する](#)」を参照してください。

サプライヤとの価格交渉を完了した後、[アイテム マスター] へ価格を公表することができます。価格公表の詳細は、60 ページの「[アイテムと製造元部品の価格を公表する](#)」を参照してください。

各プロジェクトには特定の製造元拠点があり、プロジェクトには拠点に関連するアイテムしか含められないという制約があります。

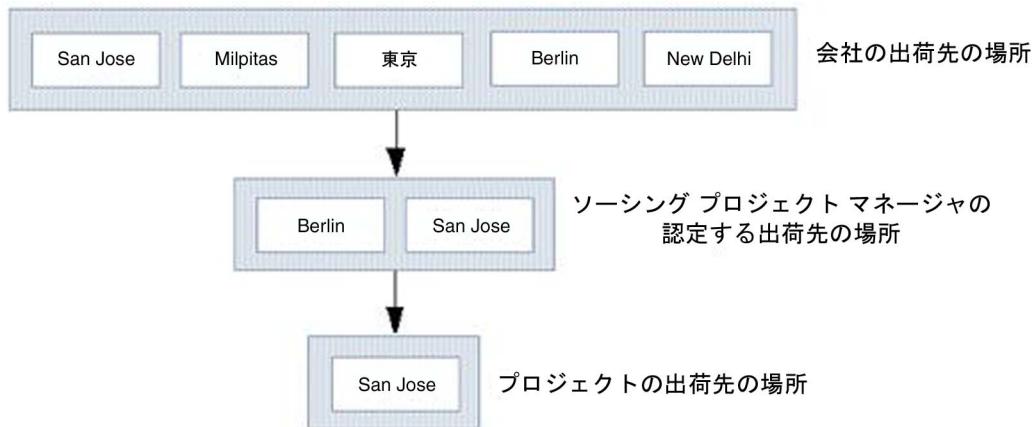
出荷先の場所を把握する

Agile PLM 管理者が Agile PCM のシステム設定を行う場合、まず出荷先の場所を定義しなければなりません。名前のとおり、出荷先の場所とは、サプライヤがあなたの会社から出された注文を達成するために直接材料を出荷できる場所を指します。出荷先の場所は、次のような理由から、製品のソーシング プロセスにとって非常に重要です。

- Agile 管理者はシステム全体の出荷先の場所を Agile Java クライアントで定義します。詳細は、『管理者ガイド』を参照してください。
- ソーシング プロジェクト マネージャは、それぞれのユーザー プロファイルで定義された認定済みの出荷先の場所を最低 1 箇所持っている必要があります。これがないと、ソーシング プロジェクトの出荷先の場所を指定することができません。

- ▣ 各ソーシング プロジェクトは特定の出荷先の場所を持っています。出荷先の場所がなければ、プロジェクト ステータスは [ドラフト] から [オープン] に変わりません。
- ▣ ソーシング マネージャがサプライヤに見積依頼を送信するとき、希望する部品、格付け、出荷先の場所と一致する製造元または部品分類提示のあるサプライヤに対してのみ、見積依頼を配布することができます。

次の図は、会社の出荷先の場所がソーシング プロジェクト マネージャに割り当てられた場合の例を示しています。このソーシング プロジェクト マネージャは、ソーシング プロジェクトのために特定の出荷先の場所を選択しています。



Agile オブジェクトを検索する

Agile PLM を使用する場合、Agile システムで、ソーシング プロジェクト、サプライヤ、製造元部品、見積依頼など、既存のオブジェクトを探す必要があります。オブジェクトは次の方法で検索できます。

- ▣ 簡易検索 - 名前、番号、説明をもとにオブジェクトを検索します。
- ▣ 詳細検索 - 定義した条件と一致するフィールドを持つすべてのオブジェクトを検索します。たとえば、[説明] フィールドに「コンピュータ」という語句が含まれている部品を検索できます。
- ▣ 保存された検索 - 以前使用したことがあり、保存されていた検索です。
- ▣ ブックマーク - よくアクセスする Agile オブジェクトのリストです。ブックマークをクリックすると、そのオブジェクトをすばやく表示できます。

Agile オブジェクトの検索方法の詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』をご覧ください。

顧客、サプライヤ、パートナーを扱う

Agile PLM を使用し、顧客、サプライヤおよびパートナーなど、会社の外部に存在する組織を管理することができます。これらの外部組織は、ソーシング、品質管理、設計などのビジネス プロセスに関与し、プログラムの各段階や活動全体にかかわりを持ちます。

顧客とサプライヤは、組織を定義する 2 つの Agile PLM クラスです。パートナーは、あなたの会社と特別な関係にあるサプライヤです。パートナーは、完全なプロジェクト BOM に対するアクセス権限を持っていますが、通常のサプライヤは見積依頼の割り当てられたアイテムに関する情報のみを閲覧することができます。

各ソーシング プロジェクトは、顧客、サプライヤ、および/またはパートナーと関連付けることができます。これらオブジェクトは、プロジェクトを作成する前に Agile システムに存在する必要があります。

顧客とサプライヤの作成および管理方法の詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』の顧客およびサプライヤの管理に関する章を参照してください。

ソーシング プロジェクトを使用する

扱うトピックは次のとおりです。

■ ソーシング プロジェクトについて	7
■ 新規ソーシング プロジェクトを作成する	8
■ 他のユーザーとプロジェクトを共有する	14
■ BOM フィルタ	16
■ プロジェクト タブを設定する	18
■ フィルタ ツールバーを使用する	19
■ プロジェクトにアイテムを追加する	20
■ [プロジェクト アイテムの追加] ウィザードでアイテムを作成する	22
■ サプライヤと共有するデータを選択する	22
■ [アイテム マスター] からプロジェクト コンテンツを更新する	23
■ 價格算出ケースを変更する	24
■ コスト付き BOM の簡易手順	25
■ その他のプロジェクト アクション	26

ソーシング プロジェクトについて

ソーシング プロジェクトはソーシングと製品価格のエントリ ポイントです。ソーシング プロジェクトでは、ソーシングと価格に必要なデータを追跡して、効果的な価格管理を行うための分析を実行します。

プロジェクト データには、アイテムとアセンブリ、部品構成表 (BOM)、および承認済み製造元リスト (AML) が含まれます。複数のユーザーが同じコンポーネントを表示し変更することができるため、複数のユーザーがチームとして作業を進め、ソーシングと価格管理を完了できます。プロジェクトを使用して、[アイテム マスター] コンテンツのライフサイクル フェーズと分析に基づいて、見積依頼 (RFQ) などのソーシング活動を実行できます。

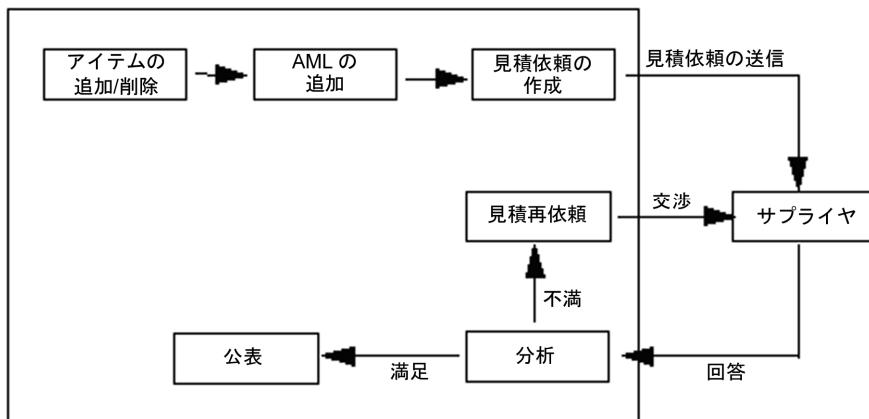
Product Cost Management (PCM) には、Product Sourcing ソリューションと Price Management ソリューションから構成されており、ビジネス プロセスにおける貴重な価格およびコスト情報を統合し、活用できるよう設計されています。PCM では、プロジェクトは  で表示されます。

ゼロからプロジェクトを作成することもでき、また [アクション]>[名前を付けて保存] コマンドを使ってプロジェクトをコピーすることもできます。コピーされたプロジェクトには、パートナー、見積依頼、サプライヤ回答、履歴などの情報は含まれていません。

注意 ソーシング プロジェクトへは、主に Agile Web クライアントを通してアクセスします。

次の図に、Product Cost Management の見積依頼、サプライヤ回答、分析フローにおいてプロジェクトがどのように機能するかを示します。

プロジェクト



プロジェクトのライフサイクル フェーズ

プロジェクトのライフサイクル フェーズには、[ドラフト]、[オープン]、[終了] があります。プロジェクトが作成された時点では、プロジェクトは [ドラフト] 状態にあります。プロジェクトが [オープン] 状態にあるときは、見積依頼の作成およびサプライヤ回答の受信が可能です。プロジェクトのステータスは、[ステータスの変更] メニューから変更することができます。

注意 [一般情報] タブの [出荷先の場所] フィールドは、プロジェクトの状態を [ドラフト] から [オープン] に変更する前に入力しておく必要があります。

プロジェクトは、プロジェクトの所有者がそのステータスを [終了] に変更するまでは、オープンのままで。

ステータス	説明
ドラフト	これは、プロジェクトの初期ライフサイクル フェーズ。この状態では、[カバー ページ] 属性、[アイテム] コンポーネント データ、[添付ファイル] のみが編集可能。ただし、この状態では、プロジェクトからの見積依頼の作成不可。
オープン	プロジェクトが [オープン] 状態になると、見積依頼の作成とサプライヤ回答はアクティブとなる
終了	プロジェクトのすべてのタスクが完了した時に、プロジェクトの所有者が設定

新規ソーシング プロジェクトを作成する

アイテムからの簡易作成手順

Agile Product Collaboration (PC) 内の [アイテム] ページから、新規プロジェクトを直接作成できます。

1. アイテムを検索して選択するか、または新規作成します。

2. [アクション] のドロップダウン メニューから、[作成 (ソーシング プロジェクト)] を選択します。
3. ソーシング プロジェクト タイプを選択します。
4. 自動割り当てが無効の場合は、番号を入力します。
5. [価格算出ケース](数量割引または有効期間のいずれか) を入力します。
6. オプションのフィールドを入力する場合は、[ウィザードの作成を継続] を選択します。

[プロジェクト作成] ウィザードを使用する

 [作成] > [ソーシング プロジェクト] を選択すると、[プロジェクト作成ウィザード] が起動し、新規プロジェクトを作成できます。ウィザードには以下のボタンがあります。

1. プロジェクトを作成します。
2. ソーシング プロジェクト情報を入力します。
3. プロジェクトにアイテムを追加します。
4. プロジェクトに添付ファイルを追加します。

ステップ 2、3、および 4 はオプションです。後からでもプロジェクトにアイテムや添付ファイルを追加できます。

注意 太字で表示された [プロジェクト作成ウィザード] フィールドは必須フィールドです。先に進むには、必須フィールドを入力してください。

プロジェクト作成ウィザード: プロジェクトを作成する

1.  [作成] > [ソーシング プロジェクト] の順にクリックします。[ソーシング プロジェクト作成ウィザード] が表示されます。
2. [ソーシング プロジェクト タイプ] のドロップダウン リストから、タイプを選択します。
3. 固有の ID 番号 (プロジェクト固有の識別子) を [番号] フィールドに入力するか、または **123>** をクリックして、プロジェクト タイプに準拠した事前定義済みの採番パターンに基づき、システムで自動的にプロジェクト番号を生成します。

注意 管理者により定義されたプロジェクト タイプが複数存在する場合、採番生成ボタンは **123>** に変わります。

4. プロジェクトの価格算出ケースを定義します。[数量割引] または [有効期間] を選択します。詳細は、12 ページの「[価格算出ケースを指定する](#)」を参照してください。
5. [数量割引] を選択した場合、ドロップダウン リストから希望の数量割引番号を選択します。プロジェクト当たり、6 つの数量割引を設定することができます。
6. [有効期間] を選択した場合、次のステップに従います。
 1. [日付期間数] ドロップダウン リストから数値を選択します。最高で 20 日間を設定することができます。
 2. [期間タイプ] ドロップダウン リストから期間タイプを選択します。利用可能な値は [毎月]、[四半期ごと]、[半年ごと]、[毎年]、[変数] です。

3. [期間タイプ] で [毎月]、[四半期ごと]、[半年ごと]、[毎年] を選択した場合、[開始日] ドロップダウン リストから有効開始日を選択してください。この日付は、構成時に設定された会社の会計年度に関係してきます。
4. [期間タイプ] で [変数] を選択した場合、各期間の開始日と終了日を指定します。
5. [期間ごとの数量割引] ドロップダウン リストから数値を選択します。
7. [続行] をクリックします。[ソーシング プロジェクト情報の入力] ページが表示されます。
8. 次のセクションに進みます。

プロジェクト作成ウィザード: ソーシング プロジェクト情報を入力する

1. [ソーシング プロジェクト情報の入力] ページで、プロジェクトに関する一般情報を入力します。下表は [ソーシング プロジェクト情報の入力] ページのフィールドを説明しています。

フィールド名	制約	説明
番号	読み取り専用	プロジェクトの固有な ID 番号
説明	オプション	プロジェクトに関する説明
ライフサイクル フェーズ	読み取り専用	プロジェクトの現在のライフサイクル フェーズ。デフォルト状態は [ドラフト]
プログラム	オプション	プロジェクトが適用されるプログラム。たとえば、特定のプログラムに必要なプログラムおよび情報を定義できる。ドロップダウン リストから作成されるプロジェクトに対してプログラムを選択する。 プログラムが選択されていない場合、回答ラインなどのアイテム情報はすべてのプログラムで利用可能
顧客	オプション	プロジェクトが適用される顧客。このフィールドのとなりの  ボタンをクリックし、検索を実行して顧客を選択できる。 このフィールドを空欄にしておくと、プロジェクト情報はすべての顧客に適用される
製造拠点	オプション	プロジェクトが処理される拠点。ドロップダウン リストから、拠点を選択できる。 プロジェクトが拠点別である場合のみ、拠点を選択すること。拠点別である場合、その拠点に属するアイテムだけがプロジェクトに追加される。拠点別でない場合、すべてのアイテムをプロジェクトに追加できる
出荷先の場所	必須 (見積 依頼作成用)	プロジェクトのアイテムが出荷される場所。プロジェクトを [オープン] ライフサイクル フェーズへ移動するには、場所を指定しなければならない [出荷先の場所] は、ユーザー プロファイルの [認定出荷先] プロパティの設定により決定される。ユーザー プロファイルが認定された [出荷先の場所] を指定していない場合、このフィールドでの値の選択は不可

フィールド名	制約	説明
プロジェクト 通貨	必須	プロジェクトの収益と支出の計算で使用されるデフォルトの通貨。ドロップダウン リストから、通貨を選択できる プロジェクト通貨は、システムの通貨換算レート テーブルに基づき、その他の通貨値(たとえば、見積依頼回答でサプライヤにより入力される見積価格)が標準化されるかを決定する デフォルト通貨は現在のユーザーの通貨により異なる
製品ライン	オプション	プロジェクトに関連付けられている製品ライン
期間数	読み取り専用	[ソーシング プロジェクト作成ウィザード] の最初のページで選択された有効な期間数
数量割引数	読み取り専用	プロジェクトにおける数量割引数
共有するデータ	オプション	見積依頼でサプライヤと共有するデータ。[サプライヤと共有するデータ] ウィンドウで [共有するデータ] フィールドの  ボタンをクリックし、サプライヤに開示するフィールドを選択
回答必須 フィールド	オプション	見積依頼について、サプライヤより要求されている回答情報。[回答必須フィールド] フィールドのとなりの  ボタンをクリックし、[回答データ必須項目] ウィンドウから必須フィールドを選択
サプライヤへの 指示	オプション	プロジェクトで作成された見積依頼において、サプライヤへ送信される指示
所有者	必須	プロジェクトに対し責任を持つ所有者。所有者のみが、プロジェクトから見積依頼を作成可能。[所有者] フィールドのとなりの  ボタンをクリックし、所有者を選択できる
作成者	読み取り専用	プロジェクトの作成者
作成日	読み取り専用	プロジェクトが作成された日付
更新日時	読み取り専用	プロジェクト情報の最終更新日
プロジェクト タイプ	読み取り専用	プロジェクトのタイプ。デフォルトでは [ソーシング プロジェクト]
権限のある ユーザー	オプション	このプロジェクトを使用する権限を持つユーザー
AML ステータス 不可	読み取り専用	プロジェクトに持ち込む必要がない部品についての AML ステータスを指定。このフィールドを使用すると、推奨されていない部品、廃止された部品、またはその他の理由で不適格である部品を自動的に排除する

注意 [プロジェクト番号]、[ライフサイクル フェーズ]、[期間数]、[数量割引数]、[作成者]、[作成日]、[更新日時] のフィールドは自動的に更新されます。

2. [完了] をクリックしてプロジェクトを保存し、その後にアイテムを追加できます。または、[次へ] をクリックしてアイテムを追加します。[アイテムの追加] ページが表示されます。
3. 次のセクションに進みます。

プロジェクト作成ウィザード: プロジェクトにアイテムを追加します。

- [ソーシング プロジェクト情報の入力] ページで、[次へ] をクリックします。[アイテムの追加] ページが表示されます。

2.  をクリックします。

- [プロジェクト アイテムの追加] ウィザードが表示されます。

注意 このボタンの下矢印の上にマウスを置くかクリックすると、[新規作成...]、[検索] または [インポート] ドロップダウン リストが表示されます。

注意 このボタンには、直前の操作が記憶されます。たとえば、このボタンをクリックせずに ドロップダウン リストから [新規作成...] を選択した場合、次に [追加] ボタンを選択すると、[アイテム説明の指定] ウィンドウがポップアップ表示されます。

- 基本検索または詳細検索を使用するか、またはショートカットに保存された検索によって既存のアイテムを探します。[追加] ドロップダウン リストから [新規作成...] または [インポート] ボタンを選択しても、新規アイテムを作成またはインポートできます。

検索またはインポートの詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』および『Agile インポートおよびエクスポート・ガイド』を参照してください。

[新規作成...] の使用方法の詳細は、22 ページの「[\[プロジェクト アイテムの追加\] ウィザードでアイテムを作成する](#)」を参照してください。

- いつでも [完了] をクリックし、新規プロジェクトを保存できます。その他の場合は、[次へ] をクリックして添付ファイルをプロジェクトに追加します。[添付ファイルの追加] ページが表示されます。
- 次のセクションに進みます。

プロジェクト作成ウィザード: プロジェクトに添付ファイルを追加する

-  ボタンをクリックして、ファイルを追加するか、または URL を追加します。または、[追加]>[検索...] をクリックし、ファイル フォルダを検索します。

注意 [追加] ボタンをクリックすると、デフォルトで [ファイルの追加...] ウィンドウがポップアップ表示されます。

注意 このボタンには、直前の操作が記憶されます。たとえば、このボタンをクリックせずに ドロップダウン リストから [URL の追加...] を選択した場合、次に [追加] ボタンを選択すると、[URL の追加...] ウィンドウがポップアップ表示されます。

- [完了] をクリックし、プロジェクトの [一般情報] タブを表示します。

注意 指定されたプロジェクトは、[ドラフト] 状態で作成されます。

価格算出ケースを指定する

プロジェクトの価格算出ケースには、[数量割引] と [有効期間] の 2 種類があります。

- 新製品など、数量のみに基づき価格を決定するには、[数量割引] を指定します。異なる数量ケースに基づき、製品コストがどのように変化するかを決定できます。[数量割引] 価格算出ケースを選択した場合、最大で 6 つの数量割引に対し価格を決定できます。

- 将来の日付に基づき価格を決定する場合は、[有効期間] を指定します。この設定は、将来期間における製品コストの算定に有効です。[有効期間] ケースは期間ごとの数量割引にも対応しており、期間ケースと数量ケースの組み合わせを作成できます。[有効期間] 価格算出ケースを選択した場合、最大 20 の価格期間に対する価格、場合によっては期間ごとに 6 つの数量割引を決定することができます。

数量割引の例

下表は [数量割引] 価格算出ケースの例を、3 つの数量割引を使って示しています。

数量割引	選択した数量割引
500	○
200	○
100	○

有効期間の例

下表は [有効期間] 価格算出ケースの例を、日付期間 4 つと、期間当たりの数量割引 1 つを使って示しています。

数量割引	01/01/05 ~ 03/31/05	04/01/05 ~ 06/30/05	07/01/05 ~ 09/30/05	10/01/05 ~ 12/31/05
500			○	
350				○
200		○		
100	○			

下表は [有効期間] 価格算出ケースの例を、価格期間 4 つと、期間当たりの数量割引 2 つを使って示しています。

数量割引	01/01/05 ~ 03/31/05	04/01/05 ~ 06/30/05	07/01/05 ~ 09/30/05	10/01/05 ~ 12/31/05
500			○	○
350		○	○	○
200	○	○		
100	○			

価格期間の日付

Agile PCM は日付に固定のカレンダーを使用していません。このため、指定されたすべての価格期間には、あらゆる開始日と終了日を含めることができます。有効な日付はすべて 12:00 P.M. GMT でタイムスタンプを押されます。システムに価格を公表すると、有効日とタイムスタンプを見ることができます。

新規プロジェクトを作成するとき、[ソーシング プロジェクト作成ウィザード] では最大 20 の価格期間を指定することができます。ただし、プロジェクトの価格期間の数には、事実上制限はありません。プロジェクトを開き、[アクション]>[価格算出ケースの変更] を選択すると、20 以上の期間を追加することができます。

注意 [価格算出ケースの変更] オプションは、プロジェクトに価格期間が存在する場合のみ、[アクション] ドロップダウン リストに表示されます。プロジェクトが数量割引により作成されている場合、このオプションは使用できません。

価格期間を削除すると、期間と、この期間に関連付けられていた価格情報はすべて削除されます。[見積履歴の自動公表] スマートルールを「可」に設定すると、価格期間が削除されたときに、システムが自動的に [見積履歴] を作成します。スマートルールの詳細は、『管理者ガイド』を参照してください。

Agile PCM には固定のカレンダーがないため、有効期間が重複することがあります。ただし、[価格ライン有効期間の重複] スマートルールが「不可」に設定されていると、価格を公表する際、重複した期間はすべてシステムに却下されます。

価格算出ケースを変更する場合、価格期間の既存範囲よりも前、または後の価格期間や、新たに追加された価格期間を削除することができます。詳細は、24 ページの「[価格算出ケースを変更する](#)」を参照してください。

[名前を付けて保存] を使用してプロジェクトを作成する

既存のプロジェクトと同じ一般情報やアイテムを持つプロジェクトを作成する必要があるとします。そのような場合は時間を省くため、既存のプロジェクトを検索し、これを別名で保存することができます。既存のプロジェクトを別の名前で保存すると、プロジェクトの一般情報、含まれるアイテム、添付ファイルも保存されます。パートナー、見積依頼、回答、回答ライン、履歴は保存されません。

プロジェクトのコピーを保存するには:

1. 新規プロジェクトの基本となるプロジェクトを開きます。
2. [アクション]>[名前を付けて保存] の順に選択します。[ソーシング プロジェクトに名前を付けて保存] ウィンドウが表示されます。
3. [番号] フィールドに、次に使用可能な番号が表示されます。 をクリックし、次のプロジェクト番号を生成するか、またはプロジェクト番号を入力することができます。
4. [保存] をクリックします。
5. [編集] をクリックし、プロジェクトの一般情報を編集します。必要に応じて、各タブをクリックしてプロジェクト情報を確認、編集します。

注意 [アクション]>[名前を付けて保存] を使って作成するプロジェクトが [有効期間] を使用する場合、価格算出ケースを変更することができます。詳細は、24 ページの「[価格算出ケースを変更する](#)」を参照してください。

他のユーザーとプロジェクトを共有する

共有とは、プロジェクトへアクセスする人々をどう定義するかを意味します。プロジェクトを共有する場合、他の Agile ユーザーやユーザー グループにあなたの役割を一部与えることになります。他のユーザーと共有できる役割は、あなた自身に割り当てられた役割や、ユーザー グループに所属することであなたが共有している役割などです。プロジェクトを共有するユーザー グループは、そのプロジェクトに対する役割で許可されたアクションのみを実行することができます。

他のユーザーと Agile オブジェクトを共有することに関する一般情報は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』を参照してください。

注意 他のユーザーがあなたと共有している役割は共有できません。

プロジェクトを共有するには:

1. プロジェクトを開きます。
2. [アクション]>[共有] の順に選択します。アクセス コントロール リスト :[ユーザーと共有] ページが表示されます。
3. [追加] をクリックします。[アクセス コントロール リストへの追加] ウィザードの [ユーザーの識別] ページがポップアップ表示されます。
4. [ユーザーの検索] セクションの [フィルタ条件] ドロップダウン リストを使用して、[すべてのユーザー]、[すべてのグループ]、または特定のグループを選択します。[検索] ボタンをクリックします。[ユーザー選択] セクションの下の [利用可能なユーザー] セルに、ユーザーまたはユーザー グループのリストが表示されます。ユーザーを個別に選択するか、または複数のユーザーまたはユーザー グループを選択できます。

ユーザーがシステム内にどのように登録されているかがわかる場合は、その名前を入力することができますが、まずグループを選択して [利用可能なユーザー] リストにデータをセットする必要があります。

[グループとして保存] ボタンをクリックすると、[選択したユーザー] リストに表示されているユーザーのグループを作成できます。このプロセスは、新規ユーザー グループを作成しますが (パーソナルまたはグローバル)、これを [共有] リストに追加することはしません。

5. [次へ] をクリックします。[役割の適用] ページが表示されます。選択したユーザーが利用可能な、このオブジェクトに関する役割を 1 つ以上選択し、右矢印ボタンを使用してそれを [選択した役割] セルに移動します。
6. [完了] をクリックして、[アクセス コントロール リスト] に戻ります。[ユーザーと共有] ページに、選択したユーザーと、その選択した役割が表示されます。
7. [戻る] をクリックします。オブジェクトに戻ります。

注意 プロジェクトの [アクセス コントロール リスト] を表示するには、もう一度 [アクション]>[共有] を選択します。[アクセス コントロール リスト] にプロジェクトにアクセス権限のあるすべてのユーザーが表示されます。

プロジェクトの [アクセス コントロール リスト] からユーザーを削除するには

1. プロジェクトを開きます。
2. [アクション]>[共有] の順に選択します。アクセス コントロール リスト :[ユーザーと共有] ページが表示されます。
3. 削除するユーザーの行をクリックします。
4. [削除] をクリックします。警告ウィンドウの [OK] をクリックして確定します。

あなたが共有しているオブジェクトを表示するには:

1. [ツール]>[個人設定]>[ユーザー プロファイル] の順に選択し、[共有] タブをクリックします。
[共有] タブには他のユーザーがあなたと共有しているオブジェクトが表示されます。
2. 自分のユーザー プロファイルから、ユーザー グループを通してあなたが共有を受けているオブジェクトがあるかどうかを確認します。[ユーザー グループ] タブをクリックします。目的のグループをクリックします。その [共有] タブをクリックします。
[共有] タブに、他のユーザーからグループとそのすべてのユーザーが共有を受けているオブジェクトが表示されます。

BOM フィルタ

BOM フィルタ機能を使用すると、フィルタを設定して、BOM 構造にインポートするコンポーネントを選択できます。

BOM フィルタには、具体的には次の 2 つの用途があります。

1. 重複したコンポーネントの削除

PC から PCM にアイテムをインポートするときに、重複コンポーネントを選択的にフィルタリングできます。

たとえば、「プロトタイプ」と「製品」など、単一の BOM に結合させる必要がある 2 つの BOM バージョンがある場合があります。ただし、フィルタを使用すると、同じ BOM のうち、特定の 1 バージョンを価格設定できます。

この機能は、重複する部品番号の BOM をサポートしています。

BOM の 2 つのバージョン (たとえばプロトタイプ BOM と製品 BOM) を結合させ、どちらか一方のみを価格設定するには、重複アイテムをフィルタ アウトします。PC 内の BOM の例には、複数の重複アイテムが含まれている可能性があります。

2. 重複コンポーネントの集約

重複コンポーネントを集約する場合、重複コンポーネントの使用個数 (QPA) 属性はともに追加され、重複コンポーネントはソーシング プロジェクトで单一アイテムとして表示されます。

BOM フィルタを使用するには、最初に、Java クライアントの [管理] タブでそれらを設定する必要があります。BOM フィルタの設定の手順は、『Agile PLM 管理者ガイド』の Product Cost Management の設定に関する章を参照してください。

注意 デフォルトでは、重複コンポーネントは上書きされます。重複コンポーネントを許可する BOM 構造の作成が有効となるスマートルールを PC で使用している場合は、PCM が複製コンポーネントのインポートを許可するよう設定する必要があります。

PC BOM から重複アイテムをインポートする場合で、複製されたアイテムをフィルタ アウトする必要がある場合は、ソーシング プロジェクトの [カバー ページ] で BOM コンポーネント フィルタを設定する必要があります。BOM フィルタの設定には、Java クライアントの [管理] タブを使用します。

アセンブリが PC アイテム マスターからソース プロジェクトへインポートされた場合、このフィルタはトップ レベルのアセンブリに継承されます。

この動きは、RFQ の [サプライヤと共有するデータ] フィールドと類似しています。これらのフィールドは、Java クライアントのソーシング プロジェクトで設定可能です。アイテムがインポートされると、フィルタ設定はそれらのアイテムに関連付けられます。

コンポーネントの更新には、アイテムのインポート中に使用されたフィルタ設定が起用されます。これらのフィルタ設定は、ソーシング プロジェクトの [アイテム] テーブルに表示されます。プロジェクト フィルタはアイテムがインポートされた後でも更新することができます。

注意 この設定はこれからインポートされるアイテムに対してのみ影響するものであり、すでにインポートされたアイテムに対しては影響しません。

フィルタは、Project AML と分析フィルタのコントロールに似た特殊なポップアップ ダイアログを通して更新されます。[アイテムの追加ウィザード] でアイテムをインポート中に、ユーザーはインポートの最終ステップのフィルタ設定を変更することができます。デフォルトでは、フィルタ設定はソーシング プロジェクトのフィルタから継承されます。

注意 [等しい] 演算子は、BOM リスト属性に対するオプションです。[条件] のドロップダウン リストから [等しい] を選択する必要があります。

フィルタで BOM コンポーネントをインポートする

[プロジェクト アイテムの追加] ウィザードでアイテムをインポートする場合、フィルタを設定して選択しながら BOM コンポーネントをインポートできます。デフォルトでは、BOM コンポーネントをインポートする際、重複コンポーネントはすべて上書きされ、整合性のない BOM 構造が作成されるようになっています。

BOM フィルタの使用方法

- [プロジェクト アイテムの追加ウィザード] でインポートを行う際に、BOM フィルタを適用します。[検索] または [詳細検索] を使用し、BOM フィルタを適用します。
- アイテムをインポートした後、フィルタはアイテムと関連付けられます。
- コンポーネントの更新には、アイテムのインポート中に使用されたフィルタ設定が使用されます。
- PCM により、このフィルタ設定はプロジェクトに対して保持されます。[プロジェクト アイテムの追加] ウィザードに [BOM フィルタ] フィールドが表示されます。



- BOM フィルタ設定は、前回インポート時のフィルタ設定に戻ります。
- ポップアップ編集管理は、[等しい] 演算子を持つ [BOM リスト] の属性にのみ対応しています。
- [単一ソーシング プロジェクト] に追加された各新規アイテムには、代替フィルタを適用することができます。

アイテム マスターにコンテンツをインポートするとき、フィルタ済みアイテムにおけるコンテンツの公表は、BOM が固有のアイテムとして定義され、アイテム マスターにインポートされたかのような扱いとなります。オーサリング モードかレッドライン モードのいずれかでインポートすることができます。

オーサリング モード

オーサリング モードでインポートを行うと、フィルタ済みのアイテムでコンテンツが更新され、その他の重複アイテムはコンテンツから削除されます。

レッドライン モード

レッドライン モードでインポートすると、コンテンツはフィルタ済みアイテムのレッドラインによる追加と、重複アイテムのレッドラインによる削除で更新されます。

重複コンポーネントの部品番号

PC では、重複コンポーネントを許可する BOM 構造を有効とするスマートルールがサポートされています。重複コンポーネントをインポートする場合、次のいずれかを実行できます。重複をフィルタ アウトして各コンポーネントにつき 1 つの部品番号のみをインポートするか、または重複コンポーネントを集約し BOM バージョンごとに特定のフィルタ名でそれぞれの BOM をマークするようフィルタを設定します。

アイテムのリスト時には、BOM フィルタごとにアイテムの数量を示す列が表示されます。1 つの使用例の顧客は、重複コンポーネントを許可する BOM 構造を設定しています。

注意 デフォルトでは、最新の社内部品番号が作成されて BOM 内に維持されるよう、これらの重複コンポーネントは上書きされます。

重複コンポーネントを使用可能にするには、[管理] タブを使用して、Java クライアントで BOM 属性フィルタを設定する必要があります。Java クライアントでの BOM フィルタの設定の詳細は、『Agile 管理者ガイド』を参照してください。

管理者により BOM フィルタ属性が設定された後は、[アイテムの追加] ウィザードを使用して BOM フィルタを設定できます。

アイテムがインポートされると、フィルタは各アイテムに関連付けられます。コンテンツの更新には、アイテムのインポート プロセスに使用された、以前に設定されたフィルタに関連付けられた設定が起用されます。

重複コンポーネントを許可する BOM 構造の作成が有効となるスマートルールを PC で使用している場合は、PCM が複製コンポーネントのインポートを許可するよう設定する必要があります。

PC の BOM データ値から PCM へ持ち込まれたデータをフィルタリングしたい場合、ソーシング プロジェクトの [カバー ページ] で BOM コンポーネント フィルタを設定する必要があります。アセンブリが PC アイテム マスタからソース プロジェクトへインポートされた場合、このフィルタはトップレベルのアセンブリに継承されます。

この動きは、RFQ の [サプライヤと共有するデータ] フィールドと類似しています。これらのフィールドは、Java クライアントのソーシング プロジェクトで設定可能です。アイテムがインポートされると、フィルタ設定はこれらに関連付けられます。

コンポーネントの更新には、アイテムのインポート中に使用されたフィルタ設定が起用されます。このフィルタ設定は、ソーシング プロジェクトの [アイテム] テーブルにも表示されます。プロジェクト フィルタはアイテムがインポートされた後でも更新することができます。

注意 設定はこれからインポートされるアイテムに対してのみ影響するものであり、すでにインポートされたアイテムに対しては影響しません。

フィルタは、Project AML と分析フィルタのコントロールに似た特殊なポップアップ ダイアログを通して更新されます。[アイテムの追加 ウィザード] でアイテムをインポート中に、ユーザーはインポートの最終ステップのフィルタ設定を変更することができます。デフォルトでは、フィルタ設定はソーシング プロジェクトのフィルタから継承されます。

注意 BOM リスト属性は、[等しい] 演算子でのみサポートされています。

BOM フィルタの例

例 1: フィルタの適用なし

ソーシング プロジェクトを作成し、PC からアイテムを追加して、重複アイテムを検索すると、結果として重複アイテムは任意に削除されます。アイテムの最初のインスタンスのみ保持されます。

例 2: BOM フィルタを適用

「Proto Load」フィルタを適用すると、「Proto」および「Any」の値がリストされた BOM を持つアイテムのみが Web クライアントに表示されます。

プロジェクト タブを設定する

ソーシング プロジェクトのいずれかのタブで、よりよいパフォーマンスと特殊なニーズなどのために、どのフィールドを表示するかを選択することができます。選択されたフィールドの情報だけが表示されます。ログインした後、初めてこれらのタブを開くと、[表示設定] ウィンドウが表示されます。この後、[ディスプレイの設定] をクリックし、タブの表示を再設定します。

次のプロジェクト タブの表示を設定することができます。

- AML
- 分析
- (見積依頼の) 回答

[表示設定] ページで、次の操作ができます。

- タブに表示されるフィールドの選択
- フィールドの順序の設定
- [アイテム] と [回答ライン] のみが表示されるよう情報をフィルタリング

プロジェクト タブの表示を設定するには

1. プロジェクトを開き、設定可能なタブ ([AML]、[分析]、見積依頼の [回答] タブ) の 1 つを選択します。[表示設定] ウィンドウが表示されない場合は、[ディスプレイの設定] をクリックします。
2. フィールドを選択する。[表示設定] ページで、[利用可能な属性] リストから、タブで表示させたいフィールドを選択します。➡ をクリックし、フィールドを [選択された属性] リストへ移動します。
3. フィールドを並べ替える。[選択された属性] リストの属性の順序は、タブで表示される順序と同様です。属性の順序を変更するには、[選択された属性] リストで属性を選択し、➡ をクリックして上へ、または ➡ をクリックして下へ移動します。
4. データをフィルタリングする。「フィルタ ツールバーを使用する」を参照してください。
5. [続行] をクリックし、新しい表示を設定します。

[AML]、[分析]、[回答] タブで利用可能な属性は、Agile PLM システムの設定方法により異なります。

フィルタ ツールバーを使用する

1. プロジェクトを開き、設定可能なタブ ([AML]、[分析]、見積依頼の [回答] タブ) の 1 つを選択します。
2.  Show Filter をクリックしてフィルタを表示します。[適用] ボタンのとなりの [-] ボタンをクリックして、これを縮小できます。



- a. [属性] ドロップダウンリストから属性を選択してください。このリストには、[すべて表示] や [見積依頼にないアイテム] など、事前定義済みのフィルタも含まれます。
- b. フィルタで使用する演算子を [条件] ドロップダウンリストから選択し、[値] フィールドで値を指定します。[属性] リストで [すべて表示] などの事前定義済みのフィルタが選択されている場合、演算子と値は必要ありません。

注意 [条件] ドロップダウンリストで、[部分的に一致する] および [部分的に一致しない] 演算子は、それぞれ、[等しい] および [等しくない] と同様に動作します。

注意 フィルタは各タブに対してのみ適用され、他のタブには影響しません。

プロジェクトにアイテムを追加する

プロジェクト作成時、または後から、プロジェクトにアイテムを追加できます。

ソーシング プロジェクトの作成時にアイテムを追加しないことを選択している場合、次の方法の 1 つまたは複数を使用してアイテムを追加できます。

- [アイテム マスター] からアイテムを検索して追加する。
- Excel ワークブックやテキスト ファイルなどの外部文書からアイテムをインポートする。21 ページの「[スプレッドシートからアイテム データをインポートする](#)」を参照してください。
- 新規アイテムを作成する。

注意 ソーシング プロジェクトでは、BOM を作成することはできません。

作成された新規アイテムは、[アイテム マスター] に自動的に追加されません。[アイテム] タブの [公表] を使用して、[アイテム マスター] を更新する必要があります。

アイテムを変更した場合は、[アイテム マスター] を更新する必要があります。詳細は、27 ページの「[アイテム](#)」(プロジェクト アイテムを管理する) を参照してください。

既存のプロジェクトにアイテムを追加するには

1. プロジェクトを開いて [アイテム] タブを選択します。
2. [アイテム]>[追加]>[検索] を順にクリックし、[アイテム マスター] からアイテムを選択して追加します。または、新規アイテム (部品またはドキュメントを含む) を作成する場合は、[アイテム]>[追加]>[新規作成...] を順にクリックします。[プロジェクト アイテムの追加ウィザード] が表示されます。詳細は、22 ページの「[\[プロジェクト アイテムの追加\] ウィザードでアイテムを作成する](#)」を参照してください。
3. 基本検索、詳細検索、保存された検索、またはアイテム ブックマークを使用し、既存のアイテムを検索します。

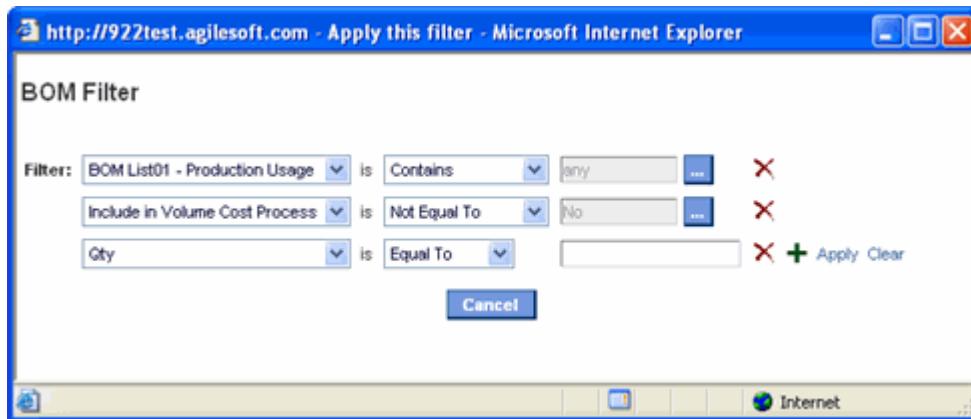
フィルタを使用してアイテムを追加する

PC アイテムをソーシング プロジェクトに追加する場合は、[プロジェクト アイテムの追加ウィザード] 内の BOM フィルタを使用します。

[プロジェクト アイテムの追加ウィザード] による BOM フィルタの使用

1. ソーシング プロジェクトを開きます。
2. [アイテム] タブをクリックします。
3. [アイテム] ドロップダウン メニューから、[追加]>[検索] を選択します。[プロジェクト アイテムの追加 ウィザード] ウィンドウがオープンします。

4. [選択済み] セルの下の [BOM フィルタ] フィールドのとなりの  をクリックして、[BOM フィルタ] ウィンドウをオープンします。



5. [フィルタ] ドロップダウン リストからフィルタを選択します。

6. [条件] ドロップダウン リストから演算子を選択します。

7.  をクリックして値を選択します。

注意 値の入力が必要な場合、 ボタンは表示されません。

8. フィルタ条件をさらに追加する場合は、[+] をクリックします。

9. [適用] をクリックします。

[プロジェクト アイテムの追加ウィザード] ページの [BOM フィルタ] フィールドに、BOM フィルタが表示されます。検索済みのアイテムは自動的にフィルタされて、[選択済み] セルにリストされます。アイテムを検索した後は、フィルタを適用することもできます。

注意 特定のフィルタを削除する場合は、[X] をクリックします。すべてのフィルタを削除する場合は、[クリア] をクリックします。

注意 フィルタを使用するには、最近追加したアイテムを検索する必要があります。[プロジェクト アイテムの追加ウィザード] では、[新規作成...] および [インポート] オプションは BOM フィルタをサポートしていません。[検索] および [詳細検索] オプションのみが BOM フィルタをサポートしています。

スプレッドシートからアイテム データをインポートする

アイテム データを XLS フォーマットで [ソーシング プロジェクト] にインポートすることができます。

XLS スプレッドシートを [ソーシング プロジェクト] へインポートするには

- ソーシング プロジェクトを開きます。
- [アイテム] タブで、[アイテム]>[インポート] を選択します。
- [ファイル タイプ] で、[Excel ワークシート] を選択します。
- [プロジェクト アイテムのみ] オプションを選択します。
- ソーシング プロジェクトに予想情報が表示されます。

注意 スプレッドシートに正しいアイテム番号と現在のバージョンの文字または数字があることを確認してください。ない場合は、インポート エラーとなります。たとえば、次の図では、スプレッドシートの [列 C] にリビジョン文字があります。

	A	B	C
1	Number	Description	Revision
2	4343.84	Voice-Activated PDA MOTHER BOARD	D
3			
4			

インポートが完了すると、[リビジョン] 欄の [ソーシング管理] でリビジョン番号または文字が表示されます。

[プロジェクト アイテムの追加] ウィザードでアイテムを作成する

[プロジェクト アイテムの追加] ウィザードで、プロジェクトでアイテムを作成できます。ウィザードで作成されたアイテムは、[アイテム マスター] へ自動的に公表されません。ただし、後から公表することができます。44 ページの「[アイテムと製造元部品を公表する](#)」を参照してください。

注意 プロジェクトで作成されたアイテムに BOM を追加することはできません。

新規アイテムを作成するには

28 ページの「[プロジェクトで新規アイテムを作成する](#)」を参照してください。

サプライヤと共有するデータを選択する

プロジェクトのデータのうち、サプライヤと共有するものを選択することができます。見積依頼で、サプライヤに対して表示される情報を制限することができます。サプライヤはそこに見える情報に対してのみ、回答を行います。

[サプライヤと共有するデータ] ウィンドウを使い、サプライヤに対する情報開示を制限します。

共有するデータのタイプには次のものが含まれます。

- [カバー ページ] フィールド
- [アイテム] および [AML] フィールド (AML 分割割合を含む)
- その他の情報 ([BOM] ビュー、見積依頼添付ファイル、アイテムと製造元部品添付ファイル、サプライヤへの補足指示)

注意 これらのフィールドは、プロジェクトの [一般情報] タブで、後から変更することができます。[共有するデータ] 属性における変更は、今後プロジェクトから作成されるすべての見積依頼に反映されます。また、見積依頼 [カバー ページ] タブを変更することもできます (見積依頼に対してのみ適用)。

サプライヤと共に用するデータを選択するには:

1. プロジェクトを開き、[一般情報] タブに移動します。
2. [編集] をクリックします。
3. [共有するデータ] フィールドのとなりの  ボタンをクリックします。[サプライヤと共に用するデータ] ウィンドウが表示されます。
4. フィールドのとなりのチェックボックスおよびその他の情報を選択し、見積依頼においてこれらの情報をサプライヤに対し開示します。

注意 社内部品番号や社内部品情報の表示は、[アイテム] と [AML] フィールドの [社内部品番号情報] のチェックボックスの選択を解除して、制限することができます。このようにしておくと、このプロジェクトに関する見積依頼を受け取ったサプライヤは、BOM を見ることができません。ただし、[AML] が指定の社内部品番号と関連付けられていない場合、サプライヤは社内部品番号情報の一部を見ることができるために、サプライヤは見積要求に回答することができます。

5. [保存] をクリックします。

注意 [パートナー] と [サプライヤ] は、[BOM ビュー] が共有されている場合のみ、BOM 構造とコスト付き BOM を表示することができます。PCM 9.2 では、AML のアセンブリを除いて、[サプライヤ] と [パートナー] の間に違いはありません。サプライヤは BOM 構造を表示できるだけでなく、回答を提出する前にコスト付き BOM をレビューすることができます。

[アイテム マスター] からプロジェクトコンテンツを更新する

プロジェクトのコンテンツは、最新バージョンの情報で更新することができます。たとえば、あなたの部門が [アイテム マスター] のアセンブリに部品を追加し、プロジェクトにはアセンブリの古いバージョンがあるとします。アセンブリは、[プロジェクト] ページの [アイテム] タブにある [アイテム マスター] の部品で更新することができます。すべての BOM、AML、アイテムおよび製造元部品情報を更新するよう指定するか、または標準コストなどの属性のみを更新するよう指定することもできます。

注意 プロジェクトコンテンツ更新に、アセンブリの新規構成が含まれる場合、更新後に新しい数量を必ず計算してください。

コンテンツ更新は、選択されたオブジェクトの属性を次のように変化させます。

- BOM - BOM 構造 (追加または削除)、アセンブリに対して要求される数量、部品のリビジョンを更新します。
- AML - 変更した AML 属性を保持するか、または [アイテム マスター] 値に対するすべての属性をリセットします。

- アイテムの属性 - 選択された属性で更新します。説明、部品分類、単位、標準コスト、カスタム部品、ユーザー設定項目などが含まれます。
- 製造元部品の属性 - 表示されるすべての説明とユーザー設定項目を更新します。

注意 目標コストは、[コンテンツの更新] ポップアップの [アイテムの属性] にはありません。[目標コスト] を更新するには、すべてのオブジェクトの更新を選択する必要があります。これは、選択して更新できない唯一のアイテム属性です。

プロジェクト コンテンツを更新するには:

1. プロジェクトを開き、[アイテム] タブに移動します。
2. [アイテム]>[アイテム マスターから更新] を選択します。警告ウィンドウが表示されます。
3. [OK] をクリックしてコンテンツを更新します。[コンテンツの更新] ウィンドウが表示されます。
4. [すべてのオブジェクトを更新] ボタンを選択し、オブジェクトに関連するすべてのオブジェクトを更新するか、または [オブジェクトの更新] ボタンを選択し、属性を手動で選択します。
5. [保存] をクリックします。更新が適用されます。
6. 更新を表示するには、[変更] タブをクリックし、[表示]>[アイテム] を選択します。

価格算出ケースを変更する

プロジェクトが [有効期間] 価格算出ケースを使用している場合、古い価格期間を削除し、新しいものを追加するか、または現在の期間をリセットすることができます。現在の価格期間がまもなく期限切れになることが通知されたら、新しいものを追加できます。

注意 プロジェクトの設定価格算出ケースは変更できません。価格を期間基準から数量基準ケースへ変更したい場合、新規プロジェクトを作成する必要があります。

価格期間を変更するには

1. プロジェクトを開きます。
2. いずれかのタブから、[アクション]>[価格算出ケースの変更] を選択します。[期間の変更] ウィンドウが表示されます。

Response Required	Start Date	End Date
<input checked="" type="checkbox"/>	01/01/2007	03/31/2007
<input checked="" type="checkbox"/>	04/01/2007	06/30/2007
<input checked="" type="checkbox"/>	07/01/2007	09/30/2007

Current Price Period: 12/31/2006 To 03/30/2007 QuantityBreak1

OK Cancel

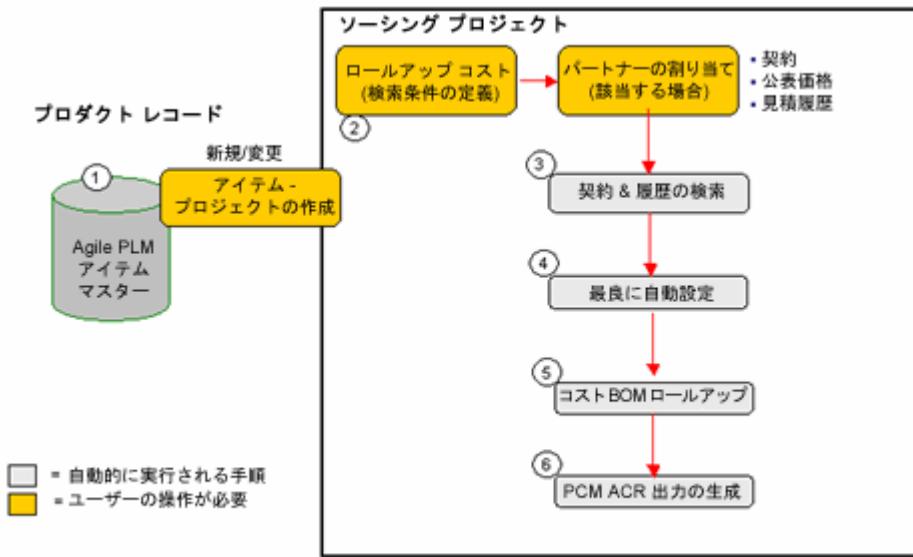
注意 [価格算出ケースの変更] コマンドは、プロジェクトの価格期間がない場合、[アクション] メニューには表示されません。

3. 価格期間を削除するには、期間最終日のとなりの [行を削除]  ボタンをクリックします。
 4. 新規価格期間を挿入するには、期間最終日のとなりの [行を挿入]  ボタンをクリックします。期間はプロジェクトの最後の期間よりも後に追加されますが、開始日と終了日を指定することができます。
 5. 価格算出ケースでサプライヤ回答を必須にする場合は、[回答必須] ボックスをチェックします。[回答必須] チェック ボックスを空白のままにした場合、ユーザーは、指定の価格算出ケースに対して回答するかしないかの自由をサプライヤに許可することになります。
- 注意** 分析目的のみで現在の価格期間を変更する場合、プロジェクトの新しい見積依頼を作成する前に、必ず元に戻してください。
6. [OK] をクリックして変更を確定します。

コスト付き BOM の簡易手順

PCM ユーザー以外の、設計、マーケティング、財務、NPI チームなどには、PCM 手順を踏まずに BOM を価格付けできる直感的なメカニズムが必要です。これは、[アクション]>[ロールアップ コスト...] 機能を使用して実行できます。

ロールアップ コストでは、自動バックグラウンド プロセスを使用して、使用可能な価格に基づき、アセンブリ コスト レポートが生成されます。これにより、フィルタ済みのデータから最低コストが選択され、[最良に設定] (ユーザ一定義またはデフォルト パラメータでの) が実行されて、コスト付き BOM ロールアップ (集約) が実行されて、ACR が生成されます。



ロールアップ コストを実行するには

1. ソーシング プロジェクトを検索して選択するか、新しいものを作成します。
2. プロジェクト (いずれかのタブ内の) で、[アクション]>[ロールアップ コスト...] をクリックします。

[ロールアップ コスト レポートの実行] での操作

[ロールアップ コスト レポートの実行] 画面では、ソーシング プロジェクトで使用可能な既存の価格か、アイテム マスターで公表されている最新の価格のいずれかを選択できます。

最新の価格を選択する場合

- [価格タイプ] フィールドのとなりの  をクリックして、1つ以上の使用可能な値を選択します。この機能により、一時的な要件などの多様なソーシング状況に対する BOM コストの設定できます。
- [サプライヤ] フィールドのとなりの  をクリックして、サプライヤを選択します。

注意 サプライヤの識別は、95 ページの「[サプライヤの識別](#)」を参照してください。

このオプションは、たとえば、[出荷先] の場所に近いサプライヤからのアイテムの調達が必要な場合に便利です。

注意 プロジェクトのコストにパートナーを含める場合は、[アイテム] タブの下の [アイテム] にそれらを追加する必要があります。34 ページの「[プロジェクト アイテムにパートナーを追加する](#)」を参照してください。

- 残りのパラメータを指定するか、またはデフォルトの設定を使用できます。
- [完了] をクリックして、レポートを作成します。

注意 レポート生成にかかる時間は、プロジェクトのサイズによって異なります。[このレポートをバックグラウンド プロセスとして生成します。] チェックボックスをクリックして、これをバックグラウンド プロセスで実行することをお薦めします。

その他のプロジェクト アクション

この章の最初に、[共有] と [名前を付けて保存] アクションの使用方法を説明しました。これらの操作はいずれも [アクション] メニューに表示されます。プロジェクトの [アクション] メニューには、次のコマンドが含まれます。

ブックマーク - ブックマークを保存すると、プロジェクトにすばやく戻ることができます。Agile クライアントで保存したブックマークを表示するには、[マイ ブックマーク] フォルダを表示します。

確認通知 - プロジェクトの確認通知を有効にすると、このオブジェクトで発生したイベントに関する確認通知を受信することができます。

削除 - プロジェクトを削除します。どのライフサイクル フェーズにおいても ([ドラフト], [オープン], [終了]) プロジェクトを削除できます。プロジェクトを削除しても、プロダクト レコードには影響を及ぼしません。

送信 - オブジェクトへのリンクを含む電子メールを送信します。プロジェクトを Agile PLM アドレス帳に記載されているユーザーに送信できます。

これらのアクションの実行の詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』を参照してください。

プロジェクト アイテムを管理する

扱うトピックは次のとおりです。

■ プロジェクト アイテムについて.....	27
■ プロジェクト アイテムを管理する.....	27
■ [見積形式] と [コスト] の属性	33
■ アセンブリを展開する	33
■ アイテムのパートナー情報を管理する.....	34

プロジェクト アイテムについて

プロジェクトにアイテムを追加し、必要とされる数量に基づき、サプライヤから条件や価格に関する情報を取得します。[アイテム マスター] に存在するアイテムを追加することができ、またプロジェクト内でアイテムを作成することもできます。プロジェクト内で作成されたアイテムは、[アイテム マスター] へ自動的に更新されません。[アイテム マスター] には手動でアイテム情報を公表する必要があります。

アイテムをプロジェクトに追加する場合、デフォルトでは、すべてのサブコンポーネントと製造元部品はプロジェクトに追加されるよう設定されています。アセンブリ アイテムは、BOM が定義されているアイテムです。

[アイテム マスター] とは異なり、ソーシング プロジェクトはアイテムのリビジョンを 1 つだけ保持することができます。プロジェクトにアイテムをインポートする場合、既存のアイテムはソース データにより上書きされます。ソース データの方が旧リビジョンの場合でも上書きされます。

アイテムについて必要な情報は、サプライヤに対し見積依頼 (RFQ) として送信することができます。サプライヤから受信した更新済みの価格は、[アイテム マスター] に公表することができます。

プロジェクト アイテムを管理する

プロジェクトでアイテムを追加、作成、インポート、表示、削除することができます。また、回答のために、アイテムの重要な見積やコストの属性を設定することもできます。

このセクションでは以下のトピックについて説明します。

- プロジェクトに既存のアイテムを追加する
- プロジェクトで新規アイテムを作成する
- アイテムをプロジェクトにインポートする
- プロジェクトからアイテムをエクスポートする
- アイテム情報を編集する
- アイテム数量を変更する
- プロジェクト アイテム情報を更新する

- アイテム数量を計算する
- アイテム情報を表示する
- プロジェクトからアイテムを削除する

プロジェクトに既存のアイテムを追加する

プロジェクトを作成する際に、プロジェクトにアイテムを追加することができますが、後から追加することもできます。次の方法で、[アイテム マスター] に存在するアイテムを追加します。

プロジェクトにアイテムを追加するには

1. プロジェクトを開いて [アイテム] タブを選択します。
2. [アイテム]>[追加]>[検索] の順にクリックします。[プロジェクト アイテムの追加] ウィザードが表示されます。
3. 検索結果ウィンドウでアイテムを選択し、これらのアイテムをプロジェクトに追加します。
4. [OK] をクリックします。アイテムはプロジェクトに追加されます。

プロジェクトで新規アイテムを作成する

プロジェクトの作成中または作成後に、プロジェクトに追加するアイテムを作成できます。新しいアイテムを作成しても、[アイテム マスター] に自動的に追加されません。ただし、[アイテム マスター] にアイテムを公表することができます。詳細は、44 ページの「[アイテムと製造元部品を公表する](#)」を参照してください。

プロジェクトでアイテムを作成するには

1. プロジェクト内の [アイテム] タブに移動します。
2. [アイテム]>[追加]>[新規作成...] を選択します。[プロジェクト アイテムの追加ウィザード] の [アイテム説明の指定] ページが表示されます。
3. [タイプ] ドロップダウン リストからオブジェクト タイプを選択します。アイテム オブジェクトとは部品またはドキュメントのことです。

注意 番号を指定する必要はありません。選択したサブクラスに基づき、[番号] フィールドのアイテムに固有の識別子が自動的に作成されます。

4. アイテムの固有の番号 (該当する場合) を入力します。リビジョンは、アイテム仕様における変更です。

注意 同じ番号を持つアイテムは、複数のリビジョンを持つことができます。各リビジョンにはそれぞれコンテンツに変更があります。

5. [説明] フィールドにアイテムの説明を入力します。
6. ドロップダウン リストから部品分類を選択します。
7. [製品ライン] フィールドのとなりの  ボタンをクリックし、[利用可能な値] リストから選択します。
8. アイテムの標準コストを入力し、ドロップダウン リストから通貨を選択します。

注意 アイテムの標準コストは拠点により異なります。

9. [次へ] をクリックします。[AML の追加] ページが表示されます。

[AML の追加] ページに AML 情報を追加するには:

1. [製造元名] フィールドのとなりの  ボタンをクリックし、目的の製造元を検索します。
2. この部品の製造元番号を [製造元部品番号] フィールドに入力します。
3. 製造元部品の説明を入力します。
4. [ステータス] ドロップダウン リストから AML のステータスを選択します。
5. [追加] をクリックします。
6. [完了] をクリックします。アイテムが [アイテム] タブに表示されます。

アイテムをプロジェクトにインポートする

プロジェクトを作成したとき、または後から、プロジェクトにアイテムをインポートすることができます。プロジェクトにインポートされたアイテムは、自動的にアイテム マスターに追加されません。ただし、[アイテム マスター] にアイテムを公表することができます。詳細は、44 ページの「[アイテムと製造元部品を公表する](#)」を参照してください。

重複したトップレベル アセンブリ アイテムはプロジェクトに追加できません。アセンブリは、BOM が定義されているアイテムです。各プロジェクトには、固有のものであれば、複数のトップレベル アセンブリを持たせることができます。アイテム番号だけで、アイテムの固有性を決定します。

ただし、スマートルールで [重複アイテム番号] が [可] に設定されている場合、重複アイテムの数量 (QPA) は、影響を受けた各アセンブリ内で単一のアイテムに集約されます。

アイテムをプロジェクトにインポートするには

1. プロジェクト内の [アイテム] タブに移動します。
2. [アイテム]>[インポート] の順に選択します。[インポート ウィザード] の [インポート ソース] ページが表示されます。

アイテムをプロジェクトにインポートする方法の詳細は、『Agile インポートおよびエクスポート・ガイド』を参照してください。

注意 オブジェクトをインポートするには、適切な権限が必要です。

プロジェクトからアイテムをエクスポートする

プロジェクトにアイテムを追加した後、アイテム フィールドを変更することができます。しかし、各アイテムを個別に編集するのではなく、プロジェクト アイテムをエクスポートし、エクスポートされたドキュメントで編集する方が簡単で効率的です。ファイルを編集した後は、修正済みのアイテムを再度プロジェクトにインポートすることができます。29 ページの「[アイテムをプロジェクトにインポートする](#)」を参照してください。

注意 エクスポートされたアイテム フィールドの中には、[状態] や [検証済み] など、利用できないものもあります。これらのフィールドは、データをプロジェクトにインポートする際にマップしないでください。

プロジェクト アイテムをエクスポートするには

1. プロジェクトを開いて [アイテム] タブを選択します。
2. [アイテム]>[エクスポート (CSV)...] または [エクスポート (Excel)...] を選択します。[ファイルのダウンロード] ウィンドウが表示されます。

CSV とは、カンマ区切り値形式で、この形式でカンマはテーブルの列の識別子として使用されます。したがって、CSV ファイルをインポートすると、Agile PLM でそのデータは適切な列に配置されます。

3. ファイルをコンピュータに保存します。
4. ダウンロード ウィンドウで [閉じる] をクリックして、プロジェクトに戻ります。

アイテム情報を編集する

部品分類、説明、単位、バイヤー、プランナなどのアイテム情報を隨時編集することができます。

アイテム情報を編集するには

1. プロジェクトを開いて [アイテム] タブを選択します。
2. 編集するアイテムの番号をクリックします。[プロジェクトアイテム情報] ページが表示されます。
3. [編集] をクリックします。
4. 必要に応じてフィールドの情報を編集します。
5. [保存] をクリックします。

注意 [プロジェクト アイテム情報] ページで編集されたアイテム情報は、[アイテム マスター] には影響しません。[アイテム マスター] の詳細は、[アイテム マスターでの表示] をクリックして見ることができます。

アイテム数量を変更する

アイテム数量、数量割引は、[アイテム] タブで編集することができます。

数量割引を変更するには

1. プロジェクトを開いて [アイテム] タブを選択します。
2. アイテムの行を選択するか、または [グローバル選択] ボタンを使用してすべての行を選択します。

注意 [グローバル選択] ボタンではすべてのページのすべてのアイテムが選択されますが、[アイテム] > [数量変更] を選択している場合、[数量の入力] ページには現在のページのアイテムしか表示されません。数量の変更後に [完了] をクリックすると、同じページに戻ります。次のページのアイテムを変更するには、ページごとに [数量変更] を実行する必要があります。[グローバル選択] はまだ有効であるため、すべてのページのすべてのアイテムは選択されたままとなります。

3. [アイテム] > [数量の編集] の順に選択します。[数量の入力] ページが表示されます。
4. 各有効期間の各数量割引について、フィールドに数量を入力します。

カラム ヘッダ内の [右方向へコピー]  ボタンを使用して、以降の数量割引のすべてに数量割引の値を入力できます。

[数量] のとなりの [上/下方向にコピー]  ボタンを使用して、現在の行の上下のすべての選択した行の [数量] に、その値をコピーできます。

5. [完了] をクリックし、プロジェクトの数量を更新します。

注意 [サブアセンブリとコンポーネントを通じて数量を計算してください] というチェックボックスが選択されていることを確認します。チェックボックスが選択されていない場合、プロジェクト アイテムの数量は更新されません。

プロジェクト アイテム情報を更新する

一部のアイテム情報は、ECO(設計変更)により変更されます。プロジェクト内のアイテムは、[アイテム マスター]にある情報で更新することができます。

プロジェクト アイテム情報を更新するには:

1. プロジェクトを開いて [アイテム] タブを選択します。
2. [アイテム]>[アイテム マスターから更新]を選択します。詳細は、23 ページの「[\[アイテム マスター\]からプロジェクト コンテンツを更新する](#)」を参照してください。

アイテム数量を計算する

アイテムがプロジェクトに追加されると、手動入力かインポートかにかかわらず、BOM と関連製造元部品も追加されます。アイテムには複数のサブコンポーネントが含まれていることがあります。BOM のあるアイテムは、すべてアセンブリと呼ばれます。各アセンブリには指定された数量があります。特定数量でアセンブリを見積もった場合、この見積にはすべてのサブコンポーネントの数量も含まれます。

ソーシング プロジェクトでは、BOM コンポーネントではなく、トップ レベルのアセンブリに対してのみ数量を指定します。ただし、コンポーネント レベルの数量は、各コンポーネントで指定されたアセンブリ数量とアセンブリごとの使用個数 (QPA) に基づき計算することができます。プロジェクトは共通アイテムのアセンブリを通して、数量を集約します。パートナー分割が指定されている場合、プロジェクトは計算された数量にも分割を適用します。

[アイテム] と [AML] タブのトップで、最後に数量が計算された日付と時刻を表示します。計算された日付と時刻が赤い場合、 をクリックして数量を再計算する必要があります。

注意 [アイテム]>[数量の編集]を選択して数量を変更した場合、[サブアセンブリとコンポーネントを通じて数量を計算してください]というボックスをチェックし、数量を計算することができます。計算された数量は、プロジェクト内のアイテムにのみ影響し、他のプロジェクトや [アイテム マスター] のアイテムには影響しません。

下表は BOM の一部を示しています。アセンブリ A1 には 1000 の数量があります。2 人のサプライヤ S1 と S2 は、それぞれ 60% と 40% の割合で分割されたアセンブリに割り当てられています。サブコンポーネント P2、P3、P4 の数量を計算した場合、結果は下表のようになります。

番号	使用個数	数量	サプライヤ / 分割	
			S1 (60%)	S2 (40%)
 A1	1	1000	600	400
 P2	1		600	400
 P3	2		1200	800
 P4	3		1800	1200

計算はきわめて単純です。たとえば、次の公式は P4 の数量を計算するために使われます。

$$[\text{P4 の数量}] = [\text{P4 の使用個数}] * [\text{A1 の使用個数}] * [\text{A1 の数量}]$$

$$[\text{P4 の数量}] = 3 * 1 * 1000 = 3000$$

サブコンポーネントに割り当てられた各パートナーの数量を出すには、サブコンポーネントの合計数量と分割パーセントで掛け合わせます。

$$[S1 \text{ の } P4 \text{ の数量}] = 3000 * 0.60 = 1800$$

$$[P2 \text{ の } P4 \text{ の数量}] = 3000 * 0.40 = 1200$$

サブコンポーネントの数量を表示するには

1. プロジェクトを開いて [アイテム] タブを選択します。
2.  をクリックし、すべての BOM コンポーネントの数量を計算します。

アイテム情報を表示する

[アイテム マスター] またはプロジェクトからアイテム情報を表示することができます。プロジェクト レベルでのアイテムへの変更は、すべて [アイテム マスター] に反映されるわけではありません。一方、[アイテム マスター] での変更は、プロジェクト内のアイテムの内容が更新されたときに、プロジェクト アイテムに影響します。

たとえば、プロジェクト レベルでアイテムを編集し、このアイテムの目標価格を設定した場合、これは [アイテム マスター] に保存された目標価格情報と異なります。

注意 アイテム情報は、ナビゲーション ウィンドウの検索機能やアイテム ブックマークを使って表示することもできます。詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』をご覧ください。

プロジェクトからアイテム情報を表示するには

1. プロジェクトを開いて [アイテム] タブを選択します。アイテムが表示されます。
2. [プロジェクト アイテム情報] ページで、詳細を見る必要があるアイテムの番号をクリックします。

注意 [プロジェクト アイテム情報] の [アイテム マスターで表示] をクリックすると、アイテム情報を表示することができます。

見積依頼からアイテム情報を表示するには:

1. 見積依頼を開き、[回答] タブを選択します。見積依頼ページの BOM が表示されます。
2. [プロジェクト アイテム情報] ページで、詳細を見る必要があるアイテムの番号をクリックします。

プロジェクトからアイテムを削除する

不注意で追加またはインポートされた不要なアイテムなどを削除するには、アイテムをプロジェクトから削除します。アイテムは、BOM 構造にサブアイテムがなければ、随時プロジェクトから削除することができます。Agile PCM 内の BOM 構造を変更することはできません。プロジェクトからアイテムを削除すると、そのアイテムはプロジェクトのすべての見積依頼から削除されます。

プロジェクトからアイテムを削除しても、[アイテム マスター] は影響を受けません。アイテムが公表されると、削除しても [アイテム マスター] には存在します。

アイテムをプロジェクトから削除するには

1. プロジェクトを開いて [アイテム] タブを選択します。
2. 削除するアイテムを選択します。

3. [アイテム] > [削除] の順に選択します。アイテムの削除を確認するメッセージが表示されます。
4. [OK] をクリックし、選択したアイテムを削除します。アイテムはアイテム リストとプロジェクトのすべての見積依頼から削除されます。

[見積形式] と [コスト] の属性

見積依頼の送信時には、アセンブリ、コンポーネント、またはカスタム コンポーネントとしてのアイテムの見積を依頼できます。アイテムのソーシング プロジェクトには、[見積形式] のオプションがあります。アイテムの価格情報は、[見積形式] と [コスト] の属性により異なります。

- [コスト] は、指定されたアイテムが見積プロジェクトに価格を持つかどうかを決定します。
 - はい: [はい] を選択した場合、回答ラインが作成されます。
 - いいえ: [いいえ] を選択した場合、回答ラインや関連付けられた製造元部品は作成されず、サプライヤは価格を見積ることができません。
- [見積形式] は、見積依頼のマテリアル価格内の回答ラインと、回答ライン内のアイテムのその他費用を定義します。
 - アセンブリ: アイテムがアセンブリとして見積られた場合、サプライヤは回答ラインのアイテムに対し、その他費用のみを指定します。その他費用には、賃率、消費税、その他の間接費が含まれます。
 - コンポーネント: アイテムがコンポーネントとして見積られた場合、サプライヤは回答ラインでマテリアル価格のみを指定します。
 - カスタム コンポーネント: アイテムがカスタム コンポーネントとして見積られた場合、サプライヤは回答ラインでマテリアルおよびその他費用の両方を指定します。

[見積形式] と [コスト] の属性は、拠点別であり、アイテム作成時に指定されます。属性情報は後からプロジェクトで変更することができます。

プロジェクトのアイテムの [見積形式] と [コスト] の属性情報を変更するには:

注意 アイテムに対して見積依頼が作成されると、[見積形式] と [コスト] の属性は、編集または変更できなくなります。

1. プロジェクトを開いて [AML] タブを選択します。
2. [見積形式] と [コスト] の属性情報を変更するアイテムの行を選択します。
3. [アイテム] > [編集] の順に選択します。[プロジェクト アイテムの編集] ウィザードが表示されます。
4. 必要に応じて属性を変更してください。
5. 複数アイテムを選択した場合は、 をクリックするか、または [完了] をクリックします。

注意 これらの属性値は、[アイテム] および [分析] タブからも変更できます。

アセンブリを展開する

アセンブリと部品が部品構成表 (BOM) を形成します。アセンブリには、アイテムとサブアイテムを含むことができます。アセンブリは、Agile PCM で  により表示されます。

アセンブリを展開するには

1. プロジェクトを開いて [アイテム] タブを選択します。プロジェクトの BOM が表示されます。
2.  アイコンのとなりにある [+] をクリックし、アセンブリを展開します。または、アセンブリの行を選択し、[アイテム]>[BOM の展開] を選択します。サブアイテムが表示されます。

注意 [アイテム]>[BOM の展開] を選択すると、このアイテムに関連付けられたすべてのアセンブリとサブアセンブリが展開します。また、 アイコンのとなりの [+] をクリックすると、そのアセンブリのみが展開します。

BOM を展開するとき、製造元部品情報は [アイテム] タブには表示されません。

アイテムのパートナー情報を管理する

パートナーは完全なプロジェクト BOM を表示することができます。一方、サプライヤは見積依頼に割り当てられたアイテムに関する情報のみを表示することができます。[BOM ビュー] がパートナーと共有されている場合、パートナーは見積依頼で表示される [BOM アイテム] も見ることができます。アイテムをパートナーに送信する見積依頼に追加するとき、プロジェクトのアイテムにパートナーを割り当てるることもできます。ただし、サプライヤを見積依頼アイテムに割り当てる場合は、見積依頼をパートナーに送信しないよう設定することができます。

複数のパートナーが選択されている場合、各サプライヤから受信したいアイテムの割合を指定し、パートナーの間で数量を分割することができます。たとえば、100 個の船舶用アンカーを要求し、2 人のパートナーがあなたに船舶用アンカーを供給する場合、両方のパートナーをリストに加え、それぞれに 50% ずつ割り当てるすることもできます。

[サプライヤと共有するデータ] ウィンドウで [BOM ビュー] のチェックボックスを選択し、パートナーに対しプロジェクト BOM が見えるようにすることができます。(プロジェクトの [一般情報] タブで、[共有するデータ] フィールドのとなりの  ボタンをクリックします。)パートナーにプロジェクトの [BOM] ビューを許可すると、パートナー側でも回答を提出するコスト付き BOM 分析を行うことができます。

注意 プロジェクトにパートナーを追加していない場合、見積依頼の作成中に [サプライヤを追加] ページにパートナーが表示されません。

プロジェクト アイテムにパートナーを追加する

プロジェクトのアイテムにパートナーを追加することができます。パートナーを見積依頼のすべてのアイテムに割り当てもできます。

プロジェクトにパートナーを追加するには:

1. プロジェクトを開き、[アイテム] タブに移動します。
2. パートナーを追加するアイテムの行を選択します。
3. [パートナー]>[追加/変更] を選択します。[パートナーの割り当てウィザード] が表示されます。
4. [パートナーを追加/削除] をクリックします。選択リストが表示されます。
5. [利用可能なパートナー] リストでサプライヤを選択し、 をクリックしてサプライヤを [選択したパートナー] リストに追加します。
6. [OK] をクリックします。[パートナー/サプライヤ] リストにパートナーが表示されます。

7. 各パートナーの数量分割の割合を入力します。
8. [残りの選択したアイテムにすべて適用] のチェックボックスを選択し、プロジェクト内で選択されたすべてのアイテムに対し、パートナーおよび分割割合情報を割り当てます。
9. [完了] をクリックします。[パートナー/サプライヤ] リストにパートナーが表示されます。

注意 また、パートナーを追加し、プロジェクトの [AML] タブで AML 分割を指定することができます。ただし、[AML] タブでパートナー分割を表示するには、タブの表示を正しく設定する必要があります。詳細は、18 ページの「[プロジェクト タブを設定する](#)」を参照してください。

プロジェクト アイテムからパートナーを削除する

プロジェクト内の選択したアイテムからパートナーを削除できます。パートナーを削除しても、見積依頼作成中に、[利用可能なサプライヤ] リストにまだこのサプライヤが表示されることがあります。

注意 オープン見積依頼のパートナーを削除すると、すべてのパートナー名が見積依頼の [回答] タブに表示されます。これは、見積依頼の状態が [ドラフト] から [オープン] に変更されたときに、見積依頼がサプライヤに送信されたためです。

パートナーを削除するには:

1. プロジェクトを開いて [アイテム] タブを選択します。
2. パートナーを削除するアイテムの行を選択します。
3. [パートナー]>[追加/変更] を選択します。[パートナーの割り当てウィザード] が表示されます。
4. [パートナーを追加/削除] をクリックします。選択リストが表示されます。
5. 削除するサプライヤを選択し、 をクリックして、[選択されたパートナー] リストから削除します。
6. [OK] をクリックします。
7. 残りのサプライヤについて、分割の割合を変更します (必要な場合)。
8. [残りの選択したアイテムにすべて適用] のチェックボックスを選択し、プロジェクト内で選択されたすべてのアイテムに対し、パートナーおよび分割割合情報を割り当てます。
9. [完了] をクリックします。

プロジェクト AML

扱うトピックは次のとおりです。

■ プロジェクト AML について	37
■ アイテムの属性を編集する	38
■ AML データをフィルタリングする	39
■ アイテムに AML を追加する	39
■ AML データをインポートする	40
■ [アイテム マスター] から AML データを検索する	40
■ [AML] タブでアイテム数量を計算する	41
■ AML 行を削除する	41
■ 製造元名を検証する	42
■ 製造元部品番号を検証する	42
■ 目標価格を設定する	43
■ 見積依頼で目標価格を更新する	44
■ アイテムと製造元部品を公表する	44

プロジェクト AML について

AML は、アイテムの [承認済み製造元リスト (AML)] を意味します。このリストには、内部部品に対応するすべての推奨および代替製造元部品が表示されています。プロジェクトのために部品を調達する場合、アセンブリ、AML、またはその両方により調達することを選択できます。



AML には推奨または代替製造元部品があります。各内部部品には、複数の製造元部品を含むことができます。このような場合、AML の割合による分割を指定できます。たとえば、コストや利用可能性をもとに、1 つの製造元部品の 70% を使用し、もう 1 つの製造元部品の 30% を使用できます。

プロジェクト AML にリストされた製造元は、すでに [アイテム マスター] に存在している必要があります。プロジェクト製造元と製造元部品はいずれも、システムのオブジェクトと情報を正しく一致させることで、検証することができます。プロジェクト AML のクリーンアップを実行した後、これらを [アイテム マスター] へ公表できます。

AML の表示と非表示

[AML] タブで、アイテムの AML を、表示、追加、削除、または変更できます。アイテムの前にある [+] の記号は、そのアイテムに AML があることを示します。

ソーシング プロジェクトでは、ビジネス決定は通常、製造元部品のデータでなくアイテムのデータに基づきます。したがって、アイテムの AML はデフォルトでは表示されません。また、AML を持つアイテムを含む大量のアイテムのリストで作業する場合、システム パフォーマンスに影響することがよくあります。

目的のアイテムの [+] 記号をクリックすることで、選択的に AML を表示できます。リスト全体のすべてのアイテムの AML を一度に表示する場合は、[AML の表示] ボタンをクリックします。表示されるとこのボタンは自動的に [AML の非表示] に切り替わり、一度クリックするだけで、リスト全体のすべての AML を非表示にできます。

アイテムの属性を編集する

承認済み製造元リスト (AML) のすべての部品構成表 (BOM) とアセンブリの最小レベルの社内部品番号を含むすべての製造元部品が表示されます。[AML] タブの [見積形式] および [コスト] などのアイテム属性を編集して、サプライヤから必要な回答を得ることができます。[見積形式] と [コスト] の属性は拠点別です。

アイテムの [見積形式] と [コスト] は見積依頼回答オブジェクトを定義します。詳細は、33 ページの「[\[見積形式\] と \[コスト\] の属性](#)」を参照してください。

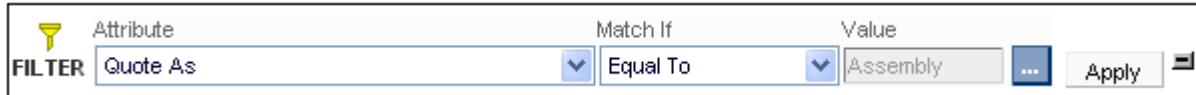
一括編集

アイテムのリスト全体、または選択したアイテムの組み合わせで、コスト、内製/購入、または見積形式など、特定の表示属性の一般的な変更を行う必要がある場合、それらに対して [一括編集] を実行できます。

1. ソーシング プロジェクトで、[AML] タブをクリックします。
2. 目的のアイテム行か、または表示されたページまたは全ページのすべての行を選択します。
3. [アイテム] ドロップダウン メニューの [一括編集] をクリックします。[一括編集] ウィンドウがオープンします。
4. [フィールド] ドロップダウン リストの下の属性を選択し、対応する [値] ドロップダウン リストから値を選択します。
5. さらに属性を変更する場合は、[追加] をクリックして、[フィールド] および [値] の行をさらにオープンします。

AML データをフィルタリングする

プロジェクト AML では、フィルタ ツールバーを使用して、任意の属性およびその属性の任意の値全体の AML データを消去できます。また、このツールバーにより、[見積依頼にないアイテム] など、あらかじめ定義されたフィルタの使用が容易になります。



数値データを、[以下]、[ヌルではない] などの詳細数値演算子を使用してフィルタリングすることができ、これにより数値の値を関連の属性に適用できます。

プロジェクトで AML データをフィルタするには

1. プロジェクトを開いて [AML] タブをクリックします。
2. [フィルタの表示] をクリックします。
3. [属性] ドロップダウン リストをクリックして、属性の 1 つまたは事前定義済みのフィルタを選択します。
4. 事前定義済みフィルタを選択した場合、[適用] をクリックします。事前定義済みのフィルタを選択した場合、他のフィールド、[条件] および [値] は不要になります。
5. 事前定義済みフィルタのかわりに属性を選択した場合
 - a. [条件] ドロップダウン リストをクリックし、フィルタの関係演算子を選択します。関係演算子のリストは選択された属性のタイプにより異なります。
 - b. フィルタ条件の値を選択します。テキスト属性については、値を入力します。リスト属性に対し、をクリックして、使用可能な値リストから单一または複数の値を選択します。
 - c. [適用] をクリックします。

アイテムに AML を追加する

各オブジェクト アイテムは複数の製造元部品を持つことができ、これらの部品に対して使用する割合分割を指定することができます。AML は、特定の製造元で作成された製造元部品を表します。製造元部品、製造元、AML ステータス ([推奨] または [代替]) を指定し、アイテムに AML を追加できます。

AML を追加する場合、指定した製造元はシステムに存在している必要があります。存在しない場合、AML は無効となり、これについて見積を出すことができません。一方、製造元部品はシステムに存在していないかもしれません。これらは、後から [アイテム マスター] に公表することができます。

アイテムに AML を追加するには

アイテムへ AML を追加する方法には 3 種類あります。

- 手動
- インポート
- [アイテム マスター] からのデータでプロジェクトを更新

注意 [アイテム マスター] からのデータでプロジェクトを更新する方法については、23 ページの「[アイテム マスター] からプロジェクト コンテンツを更新する」を参照してください。

1. プロジェクトを開いて [AML] タブを選択します。
2. AML を追加するアイテムの行を選択します。次の手順に進みます。

AML を手動でプロジェクト アイテムへ追加するには:

1. [AML]>[追加/変更...]>[手動] を選択します。[AML の追加] ウィザードが表示されます。
2. [追加] をクリックします。[アイテムの AML の追加] ウィンドウが表示されます。
3. [製造元名] フィールドのとなりにある  をクリックします。[製造元の識別] ウィンドウが表示されます。
4. 検索条件を入力し、[検索] をクリックします。検索結果が表示されます。
5. 目的の製造元を、[結果] セルから [選択済み] セルに移動します。[OK] をクリックします。製造元名が [アイテムの AML の追加] ウィンドウの [製造元名] フィールドに表示されます。
6. それぞれのフィールドへ、製造元部品番号と説明を入力します。
7. [ステータス] ドロップダウン リストから AML のステータス ([推奨] または [代替]) を選択し、[追加] をクリックします。製造元および部品の情報が [AML の追加ウィザード] テーブルに表示されます。
8. 必要に応じて、AML ステータスと分割の割合をそれぞれのフィールドで変更します。
9. [完了] をクリックします。

注意 [アイテム マスター] で製造元部品情報が確認できない場合、プロジェクトの [AML] タブの [番号] フィールドで、エラー記号  が表示されます。エラー記号をクリックし、既存の製造元部品情報を検索します。

AML データをインポートする

Agile PCM を使用すると、社内部品番号に対して AML 行に追加する製造元情報、製造元部品番号、部品分類コードを簡単にインポートすることができます。[インポート] ウィザードが、AML データのインポートをガイドします。

ビジネス プロセスによっては、[アイテム マスター] に AML データをインポートするか、またはプロジェクトに直接インポートすることができます。AML データを直接プロジェクトにインポートする場合、[アイテム マスター] には自動的に追加されません。

AML データのインポート方法の詳細は、『Agile インポートおよびエクスポート・ガイド』を参照してください。

注意 AML データは、プロジェクトにインポートされた後、検証が必要なことがあります。? の記号は、データの検証が必要であることを意味します。

[アイテム マスター] から AML データを検索する

プロジェクト アイテムの AML データは、[アイテム マスター] で更新されている可能性があります。[アイテム マスター] からプロジェクトへ、AML データを適宜検索することができます。

[アイテム マスター] から AML を検索するには

1. プロジェクトを開き、[AML] タブに移動します。
2. 1 つまたは複数のアイテムを選択します。

3. [AML]>[追加/変更...]>[アイテム マスターから検索] の順に選択します。

[アイテム マスターからの AML コンテンツの取得] ウィンドウがオープンします。このウィンドウにより、[アイテム マスターからの AML 属性の更新] または [アイテム マスターからの AML コンテンツの追加/削除]、あるいはその両方が容易になります。チェックボックスにより、[更新オプション] または [プロジェクト変更の上書き] あるいはその両方を選択でき、次の 4 つの組み合わせが可能になります。

- a. アイテム マスターからの AML 属性の更新

システムは、バイヤーにより変更されていない AML および製造元部品のみを更新します。ただし、バイヤーが製造元部品の AML 分割を変更している場合は、説明、ユーザー設定フィールドなどの製造元部品の属性のみが更新され、AML 分割および AML ステータスは更新されません。

- b. アイテム マスターからの AML 属性の更新 + プロジェクト変更の上書き

システムは、製造元部品のユーザー設定フィールド、説明などの製造元部品属性を更新する以外に、AML 分割および AML ステータスなどの既存の AML 属性を更新します。

- c. アイテム マスターからの AML コンテンツの追加/削除

- PC に追加された AML は、プロジェクトに持ち込まれます。
- PC で削除された AML は、それらの AML の一部がバイヤーによって更新されている場合でも、プロジェクトからも削除されます。
- PC には追加されずプロジェクトのみに追加された AML は、保持されます。
- PC では削除されずプロジェクトからのみ削除された AML は、再び追加されません。

- d. アイテム マスターからの AML コンテンツの追加/削除 + プロジェクト変更の上書き

- PC に追加された AML は、プロジェクトに持ち込まれます。
- PC で削除された AML は、それらの AML の一部がバイヤーによって更新されている場合でも、プロジェクトからも削除されます。
- PC には追加されずプロジェクトのみに追加された AML は、削除されます。
- PC では削除されずプロジェクトからのみ削除された AML は、再び PC の部分として戻されないかぎり、削除されたままとなります。

[AML] タブでアイテム数量を計算する

[アイテム] と [AML] タブのトップで、最後に数量が計算された日付と時刻を表示します。計算された日付と時刻が赤い場合、 をクリックして数量を再計算する必要があります。

データのインポート、AML 行の追加、または AML 分割割合の変更などを行う場合、数量を再計算する必要があります。詳細は、31 ページの「[アイテム数量を計算する](#)」を参照してください。

AML 行を削除する

プロジェクトのアイテムの AML 行を削除することができます。

AML 行を削除するには

1. プロジェクトを開き、[AML] タブに移動します。
2. AML を削除するアイテムの行を選択します。
3. [AML]>[追加/変更...]>[手動] を選択します。[AML の追加] ウィザードと AML テーブルが表示されます。

4. 削除する AML の行を選択します。
5. [削除] をクリックします。[OK] をクリックし、行の削除を確定します。
6. 必要に応じて、AML 分割の割合を調整します。[完了] をクリックします。

注意 また、AML ドロップダウン リスト オプションの [AML の削除] を使用して、AML を削除することもできます。

製造元名を検証する

検証とは、[アイテム マスター] における製造元の存在を確認するプロセスです。製造元が外部ソースからインポートされたときに、この検証は便利な機能です。たとえば、データをプロジェクトにインポートした後、これを手動で検証する必要があります。検証を必要とする製造元名のとなりに、? 記号が表示されます。また、すべての類似アイテムを一括検証してみます。手動で入力された製造元は、自動的に検証されます。

インポートされた製造元グループを [アイテム マスター] に対して検証した後、個別に検証する必要のあるアイテムの横には ! 記号が表示されます。

注意 サプライヤが、製造元が [アイテム マスター] に存在することを提案し、製造元と製造元部品を一度に検証した場合、製造元は有効と表示され、新しい製造元を作成する必要はありません。

製造元名を検証するには

1. プロジェクトを開き、[AML] タブに移動します。
2. 検証する AML の行を選択します。
3. [検証] をクリックします。情報が [アイテム マスター] にある場合、検証は成功します。
4. 製造元名のとなりの ! 記号をクリックします。[製造元の識別] ウィンドウが表示されます。
5. 既存の製造元について、検索方法を選択します。製造元名を入力するか、または詳細検索、保存された検索、アイテム ブックマークなどを使用できます。[検索] をクリックします。
6. 検索結果から製造元を選択します。
7. [完了] をクリックします。

製造元部品番号を検証する

特定のプロジェクトのアイテムについて、新規製造元部品番号が必要となる場合があります。アイテムに AML 行を追加しながら、新規製造元部品番号を入力することができます。製造元部品番号を、[アイテム マスター] の製造元部品番号に対して検証することができます。無効な製造元部品番号 ([アイテム マスター] で検出されなかった製造元番号) は識別され、! で標記されます。このアイコンをクリックすると情報を変更できます。新規製造元部品番号は、まだ [アイテム マスター] に存在しないため、! で標記されます。

製造元部品番号を検証するには

1. プロジェクトを開き、[AML] タブに移動します。
2. 検証する AML の行を選択します。
3. [検証] をクリックします。情報が [アイテム マスター] にある場合、検証は成功します。選択された製造元部品番号のいずれかについて検証が成立しなかった場合は、ステップ 5 へ進んでください。

4. 製造元部品番号のとなりの **!** 記号をクリックします。[製造元部品の識別] ウィンドウが表示されます。
5. 既存の製造元部品について、検索方法を選択します。製造元名を入力するか、または詳細検索、保存された検索、アイテム ブックマークなどを使用することができます。[検索] をクリックします。
6. 検索結果から一致した製造元部品を選択します。
7. この製造元部品に対し、製造元部品番号のすべてのインスタンスを適用する場合、[この製造元部品番号のすべてに適用してください] というチェックボックスを選択します。
8. [完了] をクリックします。

目標価格を設定する

目標価格とは、標準価格のあるアイテムを留意しながら見積を出す際の価格です。標準コストとは、アイテムまたは製造元部品のユニット当たりの市場コストです。アイテムまたは製造元部品の目標コストは、標準コストの割合で示すことができます。通常、目標コストは標準コスト以下になります。

目標価格は、アイテムが大量に発注された際に指定されます。アイテムが見積のためサプライヤに送信されると、サプライヤはそれぞれの価格状況に基づき、アイテムの価格を少し低めに、または高めに見積もることができます。

アイテムの価格は、次の 2 つの方法で入力できます。

- 自動 - 選択されたアイテムの目標価格を、標準コストに対する割合に基づき設定します。
- 手動 - 選択されたアイテムの目標価格を手動で設定します。

目標価格を設定するには

1. プロジェクトを開き、[AML] タブに移動します。
2. 目標価格を設定するアイテムの行を選択します。次の手順に進みます。

目標価格を自動設定するには

1. [アイテム]>[目標価格]>[自動設定] の順に選択します。[標準コストの目標価格の割合を入力/変更] ページが表示されます。
2. 各数量割引の [標準コストのパーセンテージ] フィールドで、[アイテム マスター] で入力した標準コストに対する割合を入力します。
3. [完了] をクリックします。目標価格は、プロジェクトの [AML] タブで更新されます。

注意 この操作は、プロジェクトに表示されている既存の目標価格を上書きします。

目標価格を手動設定するには

1. [アイテム]>[目標価格]>[手動設定] の順に選択します。[目標価格を設定 - 手動] ページが表示されます。
2. 各アイテムの目標コスト（複数アイテムが選択されている場合）をそれぞれの [目標コスト] フィールドに入力します。
3. [完了] をクリックします。目標価格は、プロジェクトの [AML] タブで更新されます。

注意 これら目標価格は新しい見積依頼で反映されます。これらの目標価格を既存の見積依頼に適用するには、[アイテム]>[目標価格]>[見積依頼目標の更新] を選択します。

見積依頼で目標価格を更新する

見積依頼のプロジェクトで設定したアイテムの目標価格を更新することができます。プロジェクト レベルでアイテムの目標価格を設定すると、この変更は見積依頼の目標価格が更新されるまで、関連の見積価格には適用されません。見積依頼の目標価格は、プロジェクトから更新できます。

注意 [アイテム マスター] に保存された目標価格は、プロジェクトでこのアイテムに対し設定された目標価格とは異なる場合があります。

見積依頼の目標価格をプロジェクトから更新するには

1. プロジェクトを開き、[AML] タブに移動します。
2. プロジェクトの見積依頼で、更新するアイテムの行を選択します。
3. [アイテム]>[目標価格]>[見積依頼目標の更新] の順に選択します。選択されたアイテムの目標価格は、プロジェクトのすべての見積依頼で更新されます。

アイテムと製造元部品を公表する

アイテムや製造元部品に変更を加えた場合、これらの変更を [アイテム マスター] に公表することができます。すでに [アイテム マスター] にあるオブジェクトを公表することもでき、またプロジェクトにのみ存在するオブジェクトも公表できます。

データを公表する場合、[レッドライン] または [オーサリング] モードを使用することができます。BOM および AML のレッドラインを作成するには、設計変更 (ECO、MCO、SCO など) を指定する必要があります。

アイテムおよび製造元部品を公表するには

1. プロジェクトを開き、[AML] タブに移動します。
2. 公表するアイテムの行を選択します。
3. [公表] をクリックします。[アイテム マスターへ公表] ウィザードが表示されます。
4. [公表オプションの設定] ページで、以下のオプションを確認します。
 - 公表するコンテンツの指定 - 公表する各コンテンツ タイプについて、このボックスをチェックします。選択したプロジェクト データに基づき、[アイテム]、[部品構成表 (BOM)]、[承認済み製造元リスト (AML)]、および [製造元部品] を選択することができます。
 - デフォルト タイプの指定 - アイテム、製造元、製造元部品のデフォルト タイプを選択します。
 - 公表モード - [レッドライン] または [オーサリング] モードのどちらかを選択します。

[レッドライン] モードを選択した場合、設計変更を指定する必要があります。[レッドライン] モードでは、名前のとおり、変更された既存の BOM や AML がすべて赤色でハイライトされます。[レッドライン] モードでインポートされたすべてのアイテムは、指定された設計変更の [対象アイテム] タブに保存されます。

[オーサリング] モードを選択した場合、未リリース アイテムを更新し、新規プレリミナリ アイテムを作成できます。アイテムに保留中の変更がある場合、[オーサリング] モードを使ってアイテムを更新することはできません。

5. [オーサリング] モードを選択した場合は、[完了] をクリックします。その他の場合は、[次へ] をクリックしてレッドライン オプションを設定します。
6. [レッドライン オプションの設定] ページで、以下のオプションを確認します。
 - 設計変更 -  をクリックし、設計変更 (ECO、MCO、または SCO) を選択します。既存の設計変更を選択するか、新しいものを作成します。
 - レッドライン モード - [データの追加および変更のみ (削除しない)] または [データの追加、変更、削除。] を選択します。

[データの追加および変更のみ (削除しない)] を選択した場合、BOM と AML は更新されますが、情報は削除されます。これはデフォルト設定です。[データの追加、変更、削除。] を選択すると、既存の BOM と AML は公表されたデータに完全に置き換えられ、BOM と AML は削除されます。
7. 公表を完了します。BOM と AML の変更が [アイテム マスター] に公表された後、プロジェクトの [AML] タブが表示されます。

注意 公表された日付と時刻が、[AML] タブの [公表日] フィールドに表示されます。[公表日] フィールドが表示されない場合、[ディスプレイの設定] をクリックし、選択した属性を変更します。

第 5 章

プロジェクト データを分析する

扱うトピックは次のとおりです。

■ プロジェクト データを分析する.....	47
■ プロジェクト データをフィルタリングする.....	48
■ コスト付き BOM 比較を表示する.....	50
■ その他のコスト比較を表示する.....	52
■ 分析レポートを作成する.....	53
■ アイテムの最良回答を設定する.....	54
■ 回答に価格計算を適用する.....	55
■ 価格情報を検索する.....	56
■ プロジェクトから価格情報をエクスポートする.....	63
■ 一括編集.....	64

プロジェクト データを分析する

Agile PCM では、価格情報や見積依頼回答情報も含めたプロジェクト アイテム内容を確認および分析することができます。プロジェクトの [分析] タブで、回答ラインとともにプロジェクト内のすべての見積依頼を通したアイテム情報を表示することができます。見積依頼を作成し、これをサプライヤに送ることができます。回答ラインの価格情報は、同じように公表することができます。コスト付き BOM 分析とその他の分析は、製品コスト情報および見積依頼回答ラインで実行することができます。

[分析] タブのテーブルには、サプライヤ名、アイテムまたは製造元部品番号、リビジョン (あれば)、製造元、製造元ステータス、回答ライン情報などの情報が表示されます。

[分析] タブでどのフィールドをご覧になるか、選択することができます。データをフィルタリングすることもできます。詳細は、「プロジェクト データをフィルタリングする」を参照してください。

[分析] タブは、次を含む、複数の分析機能をサポートしています。

- [最良回答] 選択
- コスト付き BOM 分析
- ソーシング例外
- その他のコスト分析表示とレポート

下表ではサプライヤ回答の要約とサプライヤ価格詳細の両方に対して、プロジェクトの [分析] タブのメニューとリスト ボックスについて説明しています。

メニュー/リスト ボックス	説明
分析	コスト付き BOM 比較またはその他のコスト比較による詳細の分析、分析レポートの実行

メニュー/リスト ボックス	説明
回答	自動選択とエクスポート回答、最良回答の設定、価格情報の検索、選択されたアイテムに対する価格公表
見積依頼	見積依頼の作成、アイテムの追加
AML の表示	リスト全体のすべてのアイテムの AML および関連のサプライヤ回答がある場合、それらを一度に表示または非表示。
ディスプレイの設定	タブに表示されたフィールドをクリックして選択および並び替え。
フィルタの表示	クリックしてフィルタ条件を指定。次のセクションを参照してください。
価格算出ケース	分析で使用する価格算出ケースの選択。[デフォルトの価格算出ケース]、[すべての価格算出ケース]、[選択した価格算出ケース] のいずれかを選択
通貨	標準化およびオリジナル通貨の表示

プロジェクト データをフィルタリングする

プロジェクトの [分析] タブで、フィルタ ツールバーを使用すると、表示したいプロジェクト データを隔離することができます。フィルタ ツールバーには、あらかじめ定義されたフィルタや、データのフィルタリングに使用できる属性がいくつか含まれています。



プロジェクトの [分析] タブをフィルタリングするには

1. プロジェクトを開き、[分析] タブに移動します。
2. [フィルタ] をクリックします。
3. [属性] リストをクリックし、あらかじめ定義されたフィルタ ([すべて表示]、[分割アイテム]、[価格のある部品] など)、または属性の 1 つ ([価格ソース] や [サプライヤ]) を選択します。下表には、選択可能な推奨される定義済みフィルタと属性を示しています。

事前定義済みフィルタ	属性
[すべて表示]	アイテム番号
[分割アイテム]	アイテムの説明
[見積依頼にないアイテム]	部品分類
[価格のある部品]	コスト
[サプライヤのない部品]	見積形式
[回答待ちの部品]	内製/購入
[最良価格のある部品]	製造元部品
[最良価格のない部品]	製造元
[ソーシング例外のある部品]	AML ステータス
[サプライヤにより提示された代替部品]	ソース 回答ステータス 入札参加意思 サプライヤ サプライヤ格付 輸送条件 バイヤー プランナ 価格公表日 公表価格ステータス

4. 事前定義済みフィルタを選択した場合、[適用] をクリックします。フィルタ ツールバーの他のフィルドは、事前定義済みフィルタには適用されません。
5. 属性を選択した場合
 - a. [条件] リストをクリックし、フィルタの関係演算子を選択します。関係演算子のリストは選択された属性のタイプにより異なります。例には [等しい]、[等しくない]、[空欄]、[空欄ではない]、[先頭から一致する]、[含む] などが含まれます。
 - b. フィルタ条件の値を選択します。テキスト属性については、値を入力します。リスト属性に対し、... をクリックして、使用可能な値リストから单一または複数の値を選択します。
 - c. [適用] をクリックします。

公表価格をフィルタリングする

ソーシング プロジェクトの [分析] タブで価格を公表する際には、システムにより公表日がスタンプされます。まれに公表に失敗する場合があり、そのような場合、[公表日] および [公表ステータス] は空欄になります。どの価格が公表されなかったかは、回答のページを参照しているときに偶然見つけないかぎり、知ることができません。

失敗、または成功したインスタンスを識別するために、公表価格をすべての日付およびステータスで（それぞれ [価格公表日] および [公表価格ステータス] の属性を使用）フィルタリングできます。

- 價格公表日 – 特定の日付の当日およびその前後に公表された価格をフィルタリングできます。たとえば、組織の少數のユーザーが一定数の回答を本日公表していて、その数を知る必要がある場合、この属性で知ることができます。
- 公表価格ステータス – 公表されたか、または公表されなかった価格をフィルタリングできます。公表に失敗したすべての回答のリストを確認する必要がある場合、このフィルタ属性および [ヌルではない] パラメータを選択します。すべての回答（公表済みおよび未公表）を確認する必要がある場合、[ヌル] パラメータを選択します。

コスト付き BOM 比較を表示する

コスト付き BOM 比較には、複数のパートナーまたはサプライヤの回答が表示されます。同じアイテム行に様々な回答が表示されます。[コスト付き BOM 比較] 分析を実行する際、システムは各 [コスト ロールアップ] に対し、マテリアルおよびその他のコストを計算します。

- マテリアル コストについては、システムはマテリアル価格を採用し、回答ラインで指定されたすべての価格計算を適用します。価格計算は固定コストまたはパーセントとなります。このアイテムに AML 分割がある場合、システムはマテリアル コストに対し平均を計算します。
- その他のコストについては、システムはその他のユーザー設定フィールドすべてを合計します。

複数の BOM レベルがある場合、システムは各 BOM 階層レベルのマテリアル コストをロールアップし、各サブアセンブリとアセンブリについて [マテリアル価格合計] を計算します。

注意 分析目的のみで現在の価格期間を変更する場合、プロジェクトの新しい見積依頼を作成する前に、必ず元に戻しておいてください。

下表はコスト付き BOM の例とサブアセンブリを示しています。

番号	コスト	見積形式	使用 個数	ユニット コスト 合計	マテリアル価格合計	その他価格合計
A1	はい	アセンブリ	1	20.50	18.00	2.50
P2	はい	コンポーネント	1	2.00	2.00	0.00
P3	はい	コンポーネント	2	3.00	3.00	0.00
P4	はい	コンポーネント	3	1.00	1.00	0.00
A2	はい	アセンブリ	2	3.50	2.50	1.00
P5	はい	コンポーネント	1	1.50	1.50	0.00
P6	はい	コンポーネント	1	1.00	1.00	0.00

[コスト] と [見積形式] フィールドは、コスト付き BOM に対し、価格がどのようにロールアップされるかを決定します。[コスト] フィールドが「いいえ」に設定されている場合、価格情報はこのアイテムに入力することができます。[見積形式] フィールドは、アイテムがアセンブリ、コンポーネント、カスタム コンポーネントのどの形式で設定されるかを設定します。

- [見積形式] が [アセンブリ] に設定されている場合、[マテリアル価格合計] フィールドはすべてのサブコンポーネントの [マテリアル価格合計] フィールドの合計となります。
- [見積形式] が「コンポーネント」に設定されている場合、[マテリアル価格合計] フィールドは回答ラインに入力され、計算されません。[その他価格合計] はコンポーネントに対し入力されません。
- [見積形式] が「カスタム コンポーネント」に設定されている場合、[マテリアル価格合計] フィールドは回答ラインに入力され、計算されません。[その他価格合計] フィールドも有効になります。[ユニット コスト合計] フィールドは、[マテリアル価格合計] と [その他価格合計] フィールドの合計です。

コスト付き BOM 比較を表示するには

1. プロジェクトを開き、[分析] タブに移動します。
2. [分析]>[コスト付き BOM 比較] を選択します。[コスト付き BOM] テーブルが表示され、ここに同じアイテム行が表示されます。各パートナーとベスト サプライヤに対して 1 つずつです。すべての [パートナー] および [ベスト サプライヤ] のみが [コスト付き BOM ビュー] に表示されます。
 - 分割の割合のアイテムについては、平均が計算されます。
 - 分割の割合のないアイテムについては、最低価格の回答がすべてのパートナーおよびサプライヤに対して提供されます。

注意 プロジェクトに価格期間が含まれている場合、最低コストは現在の価格期間に基づいています。[最良回答] は、[最良に設定] を実行する際に提示された条件に基づき選択されます。ただし、[最低価格回答] はすべてのパートナーおよびサプライヤには提供されず、各パートナー/サプライヤは独自の [回答ライン] を持ります。価格期間ごとに複数の数量割引がある場合、最初の数量割引が採用されます。異なる価格期間に対しコストを計算する方法については、24 ページの「[価格算出ケースを変更する](#)」を参照してください。

3. 最新のサプライヤの見積を使ってコストを計算するには、 をクリックします。
4. 選択された価格算出ケースについての情報を表示するには、[価格算出ケース] ドロップダウン リストをクリックし、[デフォルトの価格算出ケース]、[すべての価格算出ケース]、または [選択した価格算出ケース] のいずれかを選択します。
[選択した価格算出ケース] を選択した場合、[利用可能な値] リストで価格算出ケースを選択し、➡ をクリックしてこれらを [選択された値] リストに追加します。[OK] をクリックします。
5. [分析] タブに戻るには、[戻る] をクリックします。

注意 値情報が BOM コンポーネントにない場合、[マテリアル価格合計] フィールドには、値の後に 2 つのアスタリスクが表示され、コンポーネント価格の不完全なロールアップがあったことを示します。

コスト付き BOM をエクスポートする

[コスト付き BOM 比較] を作成した後、その結果をすぐにテキスト ファイルへエクスポートすることができます。

コスト付き BOM 比較をエクスポートするには:

1. プロジェクトを開き、[分析] タブに移動します。
2. [分析]>[コスト付き BOM 比較] を選択します。[コスト付き BOM] テーブルが表示され、ここに同じアイテム行が表示されます。各パートナーとサプライヤに対して 1 つずつです。

3. [エクスポート] ボタンをクリックします。[アセンブリ コストのエクスポート (ソーシング プロジェクト)] ページが表示されます。
コストを再計算するには、[レポート実行時にコストを再計算] のボックスがチェックされていることを確認します。
4. エクスポートするアセンブリ ライン、サプライヤ、価格算出ケースを選択します。
5. [完了] をクリックして、レポートを作成します。
6. [ファイルのダウンロード] ダイアログ ボックスが表示されます。
7. [保存] をクリックし、[コスト付き BOM 比較] 情報を Excel カンマ区切り値 (.CSV) またはワークシート (XLS) としてコンピュータに保存します。
8. [閉じる] をクリックします。
9. [分析] タブに戻るには、[戻る] をクリックします。

その他のコスト比較を表示する

その他の比較には、プロジェクトのすべての見積依頼に含まれている関連アイテム、および製造元部品回答ラインに関するその他コスト合計とその他コストの内訳が表示されます。この表示で、様々なサプライヤから提供されたその他のコストを比較できます。

下表はその他の比較の一例を示しています。

番号	リビ ジョン	部品 分類	サプライヤ	数量割引 1		数量割引 2	
				数量	その他合計	数量	その他合計
■ A1	A	ASSY	EMS1	100	2.50 USD	200	5.0 USD
■ A1	A	ASSY	EMS2	100	2.25 USD	200	4.0 USD
■ A1	A	ASSY	EMS3	100	2.00 USD	200	4.0 USD
■ A2	B	ASSY	EMS1	500	8.00 USD	1000	16.00 USD
■ A2	B	ASSY	EMS2	500	6.00 USD	1000	12.00 USD
■ A2	B	ASSY	EMS3	500	5.00 USD	1000	10.00 USD
■ A3	C	ASSY	EMS1	200	20.00 USD	400	40.00 USD
■ A3	C	ASSY	EMS2	200	15.00 USD	400	30.00 USD
■ A3	C	ASSY	EMS3	200	12.00 USD	400	24.00 USD

その他のコスト比較を表示するには

1. プロジェクトを開いて [分析] タブを選択します。
2. [分析]>[その他の比較] を選択します。その他のコストが表示されます。
3. 選択された価格算出ケースについての情報を表示するには、[価格算出ケース] ドロップダウン リストをクリックし、[デフォルトの価格算出ケース]、[すべての価格算出ケース]、または [選択した価格算出ケース] のいずれかを選択します。

[選択した価格算出ケース] を選択した場合、[利用可能な値] リストで価格算出ケースを選択し、➡ をクリックしてこれらを [選択された値] リストに追加します。[OK] をクリックします。

4. [分析] タブに戻るには、[戻る] をクリックします。

分析レポートを作成する

Agile PCM は分析レポートの選択肢を提供しており、プロジェクトから直接情報を提供することができます。プロジェクトの [分析] タブから、分析レポートを作成します。これら [分析] レポートには、[アイテム]、[製造元部品]、[見積依頼回答ライン] からのユーザー設定フィールドが含まれます。

注意 各分析レポートおよびその生成方法の詳細情報は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』を参照してください。

下表に、分析レポートを説明します。

レポート	説明
AML 差異レポート	検証またはサプライヤの回答を通して AML に加えられた変更の表示
アセンブリ コスト レポート	マテリアル コストとその他コストを含むコスト付き BOM の合計の設定。アセンブリ レベルおよびコンポーネント レベルの内訳の表示サプライヤのアセンブリ コスト レポートには、さらに [QPA] および [拡張コストの合計](UnitCost*QPA) フィールドあり。
コスト パレート	合計コストに大きな影響を与えるプロジェクト内のアイテムまたは部品分類の識別。80/20 分析とも呼ぶ
有効コストの比較	最低注文およびパッケージ数量の必要条件に関する有効拡張コスト アカウントの比較
サプライヤ ベース分析	複数のサプライヤの価格を比較し、推奨サプライヤに値引きを適用し分析
ソーシング例外	プロジェクト アイテムについてソーシング例外をすばやく表示することで、ソーシング上の潜在的な問題点を明らかにする。例外はサプライヤからの回答に基づき、破棄アイテム、リード タイムの長いアイテム、製造中止日、または未知の部品番号を表示
ユニット コストの比較	複数のサプライヤと内部参照コスト ソースにおけるマテリアルと他のユニット コストを比較し、すべての価格ソースの中で最低価格をハイライト

注意 [ユニット コスト比較レポート]、[有効コスト比較レポート]、[回答比較レポート] では、選択した目標コストに対する回答ラインを比較できます。オプションで、目標コストを選択できます。

分析レポートを作成するには

1. プロジェクトを開いて [分析] タブを選択します。
2. レポートに含むアイテムのチェックボックスを選択し、[分析]>[レポートと分析](レポート名) を選択します。[レポート] ウィザードが表示されます。

レポート生成の詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』を参照してください。

アイテムの最良回答を設定する

サプライヤ回答を分析し、どのサプライヤの回答が最良であるかを検出することができます。最良回答を設定することで、これをフラグ付けして選択を追跡し、他の分析機能やレポート上でこの選択を利用可能にすることができます。最良回答は、手動または自動選択プロセスを通して選択することができます。

アイテムごとに 1 つの回答のみを最良回答として設定できます。ただし、AML 分割が使用されている場合は例外です。この場合、ゼロ分割以外の各 AML は最良回答を持つことができます。

最良回答は、[最良回答] フィールドで  で表されます。[最良回答] フィールドが表示されない場合、[ディスプレイの設定] をクリックし、選択した属性を変更します。

注意 [アイテム] が分割のない [複数 AML] である場合、AML の 1 つだけが [最良回答] を持つことができます。AML に分割がある場合、ゼロ分割以外の各 AML は [最良回答] を持つことができます。

また、リードタイムなどの制約の要素も適用できるため、限定された回答が最良として設定されます。

重要 オブジェクト検索の実行後、検索結果からソーシング オブジェクトを選択できます。

手動で最良回答を設定するには

1. プロジェクトを開いて [分析] タブを選択します。
2. [分析] テーブルで、1 つ、または複数の回答ラインの行を選択します。
3. [回答]>[最良に設定]>[手動] を選択します。

最良回答を自動選択するには

1. プロジェクトを開いて [分析] タブを選択します。
2. 最良回答を検出する必要がある [分析] テーブルで、回答ラインの行を選択します。
3. [回答]>[最良に設定]>[自動選択] を選択します。[回答の自動選択] ウィザードが表示されます。

ルールを適用する価格算出ケースを選択します。自動選択を、すべてのアイテムに適用するか、または選択したアイテムに適用するかを選択します。デフォルトでは、[すべてのアイテム] が選択されています。

4. ドロップダウン リストから分析する価格算出ケースを選択します。

単一の価格算出ケースのみ選択できます。ただし、[最良回答] フラグは、回答ライン全体に適用されます。アイテムごとに 1 つの回答ラインのみを最良として設定できます。つまり、単一のサプライヤまたはパートナーのみを、そのアイテムに対する最良の回答を持つ者として選択できます。他の回答ラインがアイテムの最良回答として以前に設定されている場合は、新しく選択したものが、以前に選択された最良回答を上書きします。

注意 1 アイテムに 1 つの最良というルールには例外があります。それは、アイテムが AML 分割されている場合です。この場合、システムでは 2 つの最良回答の選択がサポートされており、分割の割合がゼロ以外の AML エントリごとに 1 つを選択できます。

5. 最良回答が必要なアイテムを識別します。
 - 全社内部品番号 - [分析] テーブル内のすべてのアイテムおよび製造元部品から最良回答を検索します。
 - 選択した社内部品番号のみ - [分析] テーブル内の製造元部品で最良回答を検索します。
6. 最良回答を見つけるための追加条件を選択します。
 - 代替部品 - このチェックボックスを選択すると、[分析] テーブルの推奨部品と代替部品の中から選択されたアイテムと製造元部品について、最良回答を検索します。
 - 見積回答履歴 - このチェックボックスを選択すると、社内部品番号の見積履歴（ある場合）から製造元部品に対する最良回答を検索します。
7. [次へ] をクリックします。[選択条件] ページが表示されます。
8. 最良回答の自動選択を行うには、次の条件の中から、最大 3 つまでのドロップダウン リストで選択します。
 - 最低成本 - 最低成本に基づいて最良回答を選択します。
 - リード タイム制約中の最低コスト - 指定されたリード タイム制約の中から（日数）、最低コストに基づいて最良回答を選択します。
 - 最短リード タイム - 最短リード タイムがあるものを基準に最良回答を選択します。
 - サプライヤ格付 - サプライヤの格付に基づき最良回答を選択します。この格付リストは優先順位を決定することができます。Agile 管理者は必要に応じてサプライヤ格付をカスタマイズすることができます。デフォルトの格付は「承認済み」、「提供 - 有効」、「提供 - 無効」、「推奨」となっています。
 - AML 推奨ステータス - AML ステータスに基づき最良回答を選択します。AML ステータス タイプのリストは優先順位を決定することができます。Agile 管理者は、必要に応じて AML ステータス タイプをカスタマイズすることができます。デフォルトの AML ステータス タイプは「推奨」と「代替」です。
9. [完了] をクリックします。

回答に価格計算を適用する

価格計算は基本的に間接比率です。価格計算は、知的財産価値、著作権使用料など、マテリアル コストとは異なる追加コスト アイテムです。また、価格計算は希望の数だけ追加することができます。Agile 管理者は、必要に応じて価格計算フィールドをカスタマイズすることができます。価格計算フィールドは、すべてのプロジェクトで共通です。

価格計算フィールドは、内部目的でサプライヤやバイヤーに対し有効化することができます。内部目的に対してのみ有効な価格計算フィールドは、見積依頼回答に適用することができます。その他のサプライヤに対して表示される価格計算フィールドは、サプライヤが見積依頼に回答したときに完成します。詳細は、『管理者ガイド』を参照してください。

サプライヤに対し価格計算フィールドが有効化されている場合、このフィールドは、見積依頼またはプロジェクトで [回答必須フィールド] の 1 として選択されている必要があります。サプライヤは、回答ラインの各数量割引について価格計算を入力できます。

部品、部品分類、またはサプライヤにより内部価格計算を適用できます。内部価格計算を適用するには (適用別)

- 部品分類 - 各部品分類が表示され、ユーザーは固有の価格計算パーセントまたはそれぞれに対する固定額を含めることができます。
- 部品 - 価格計算は選択した部品に対してのみ適用されます。

注意 一般に、価格計算に適用するために複数の部品を選択することはできません。

- サプライヤ – 選択した部品に限らず、現在のプロジェクトに関連付けられたすべてのサプライヤのリストが表示されます。価格計算は、サプライヤに関連付けられたすべての回答ライン（選択したサプライヤの行動に対するペナルティの場合など）に対して適用されます。

注意 すべてのコスト付き BOM ロールアップとレポートは、サプライヤがこのフィールドを見ることができるかどうかにかかわらず、価格計算をマテリアル コスト合計に適用します。

価格計算を適用するには

1. プロジェクトを開いて [分析] タブを選択します。
2. 価格計算を追加するアイテムの行を選択します。
3. [回答] > [価格計算の適用] で、[部品別]、[部品分類別]、または [サプライヤ] を選択します。対応する [価格計算の適用] ウィンドウが表示されます。
4. 各数量割引のアイテムに対し、価格計算情報を入力します。
5. [完了] をクリックします。

価格情報を検索する

指定した期間と数量の価格算出ケースが [アイテム マスター] 内に存在するかどうかを確認できます。存在する場合は、指定されたアイテムに対し見積依頼を作成する必要はありません。アイテムの価格情報を使用するか、または価格情報を変更し、再見積のために見積依頼をサプライヤに送信します。

Agile PCM では、3 つのタイプの価格があります。

- 契約 - サプライヤとの間の事前定義された、指定期間におけるアイテム価格についての契約。
- 公表価格 - 他のオブジェクトから [アイテム マスター] に対し公表されたアイテム価格情報。
- 見積履歴 - これまでにアイテムに対し受け取った見積価格。

特定のアイテムや製造元部品に関するデータを検索する場合、価格および回答フィールドは分析プロセスにおいて利用可能なデータにより更新されます。

注意 アイテムは複数タイプの価格を持つことができます。アイテムの価格検索を実行する場合、Agile PLM はプリファレンスの契約、公表価格、見積履歴という順序で価格を選択します。

契約を検索する

契約価格は、一定の期間において潜在的な下請業者やサプライヤにより事前定義された価格です。サプライヤとの既存の契約を検索することにより、[アイテム マスター] から直接オブジェクト BOM へ契約価格情報を取り込み、時間を省くことができます。契約情報はサプライヤ、拠点、プログラム、有効期間に対して固有となります。複数の契約が要求された条件を満たしている場合、最低単価を持つ契約からの情報が表示されます。ただし、契約情報を表示するとき、このサプライヤおよび部品に対するすべての契約を表示することができます。

注意 価格詳細の選択は、提示された [検索] 条件により異なります。[最低価格] または [最短リードタイム] または [最新回答] とすることができます。

契約を検出するには

1. プロジェクトを開いて [分析] タブを選択します。
2. 契約価格情報を検出するアイテムの行を選択します。
3. [回答]>[検索] を選択します。[回答検索ウィザード] ページが表示されます。
4. [価格タイプ] フィールドのとなりにある  ボタンをクリックし、[利用可能な値] リストで [契約] を選択します。そして  をクリックしてこれを [選択された値] リストに追加します。[OK] をクリックします。
5. [検索のために、最良価格算出ケースを指定します。] ドロップダウン リストから価格算出ケースを選択します。
6. 1 つの価格算出ケースだけでなくすべての価格算出ケースを確認する必要がある場合は、[全ての算出ケースに価格をコピーします。] で [はい] または [いいえ] を選択します。[はい] を選択すると、[検索のために、最良価格算出ケースを指定します。] ドロップダウン リストでの選択は上書きされます。

オプション

1. 検索基準は、下記により絞ることができます。
 - 指定のサプライヤ
 - 特定の出荷先場所
 - 指定のプログラム
 - 指定の顧客
2. このオプションを選択する場合は検索する期限付き設計変更の数量をパーセントで [アイテム マスター] に入力します。そうでない場合は、[数量を無視] ボタンを選択して数量を無視します。
3. 見積依頼の日付範囲から見積の受信日までの日数 (プラスまたはマイナス) を入力するか、または [開始/終了日の範囲を無視] ボタンを選択して見積の日付を無視します。
4. 複数行が検索された場合は、[最低価格]、[最短リード タイム]、または [最新回答] ボタンを選択し、結果をフィルタリングします。
5. 現在の日付からこの期間内に起きた見積を考慮する日までの日数を入力します。
7. [完了] をクリックします。

公表価格を検索する

[アイテム マスター] のアイテムに関連した価格情報は公表価格と呼ばれます。部品価格は、サプライヤとの価格交渉を完了した後に公表されます。価格公表の詳細は、60 ページの「[アイテムと製造元部品の価格を公表する](#)」を参照してください。プロジェクト内のアイテムの公表価格を使用することができます。

公表回答を検索するには:

1. プロジェクトを開いて [分析] タブを選択します。
2. 契約価格情報を検出するアイテムの行を選択します。
3. [回答]>[検索] を選択します。[回答検索ウィザード] ページが表示されます。

4. [価格タイプ] フィールドのとなりにある  ボタンをクリックし、[利用可能な値] リストで [公表価格] を選択します。そして  をクリックしてこれを [選択された値] リストに追加します。[OK] をクリックします。
5. [検索のために、最良価格算出ケースを指定します。] ドロップダウン リストから価格算出ケースを選択します。
6. 1 つの価格算出ケースだけでなくすべての価格算出ケースを確認する必要がある場合は、[全ての算出ケースに価格をコピーします。] で [はい] または [いいえ] を選択します。[はい] を選択すると、[検索のために、最良価格算出ケースを指定します。] ドロップダウン リストでの選択は上書きされます。

オプション

1. 検索基準は、下記により絞り込むことができます。
 - 指定のサプライヤ
 - 特定の出荷先場所
 - 指定のプログラム
 - 指定の顧客
2. このオプションを選択する場合は検索する期限付き設計変更の数量をパーセントで [アイテム マスター] に入力します。そうでない場合は、[数量を無視] ボタンを選択して数量を無視します。
3. 見積依頼の日付範囲から見積の受信日までの日数 (プラスまたはマイナス) を入力するか、または [開始/終了日の範囲を無視] ボタンを選択して見積の日付を無視します。
4. 複数行が検索された場合は、[最低価格]、[最短リード タイム]、または [最新回答] ボタンを選択し、結果をフィルタリングします。
5. 現在の日付からこの期間内に起きた見積を考慮する日までの日数を入力します。

7. [完了] をクリックします。

パートナー価格を検索する

ユーザーは表示する権限のあるすべての価格について、[パートナー] 価格を検索することができます。

たとえば、見積依頼を作成する前に価格情報を検索したい場合、

2 つの方法でこの機能を使用することができます。

- 価格オブジェクトには、主要サプライヤと認定サプライヤの 2 つのサプライヤがあります。検索条件のサプライヤ リストに両方のタイプのサプライヤが存在しており、[プロジェクトの検索] 中にこの価格がピックアップされた場合、プロジェクト検索は主要サプライヤの回答価格ラインを作成します。
- 検索条件に複数のサプライヤが存在し、これらがすべて価格オブジェクトの認定サプライヤ リストに含まれており、検索中に価格が使用されている場合、価格オブジェクトの認定サプライヤ リストの最初の適合サプライヤが、プロジェクトにおける回答価格ライン作成のためにピックアップされます。価格オブジェクトの認定サプライヤ リストは、[プロジェクト価格検索] 中にどのサプライヤがピックアップされるかを決定する優先リストとしても使われます。

価格検索の優先順位

1 つの価格がクエリから戻される価格検索プロセスにおいて、主要サプライヤは認定サプライヤよりも優先権があります。

価格検索優先権の順序は、認定サプライヤ リストで定義されています。

価格検索の優先順位を設定する方法の詳細は、『管理者ガイド』の Product Cost Management の設定に関する章を参照してください。

見積履歴を検索する

見積履歴は、ユーザーが回答ラインをロックしたり、閉じたりすると、サプライヤ回答から自動的に作成されます。このため、これらの価格が [アイテム マスター] に公表されなかった場合でも、サプライヤからの価格見積記録が残ります。

以下のすべてのオプションを設定することができます。

- 見積履歴を取り出す必要がある特定のサプライヤ、出荷先の場所、プログラム、および顧客
- 日付範囲
- 数量範囲
- 最低価格、最短リード タイム、最新回答

注意 Agile PCM はプロジェクトやその見積依頼回答ラインからも見積履歴を保存します。見積履歴はプロジェクトが削除されても利用することができます。

見積履歴を検索するには

1. プロジェクトを開いて [分析] タブを選択します。
2. 契約価格情報を検出するアイテムの行を選択します。
3. [回答] > [検索] を選択します。[回答検索ウィザード] ページが表示されます。
4. [価格タイプ] フィールドのとなりにある  ボタンをクリックし、[利用可能な値] リストで [見積履歴] を選択します。そして  をクリックしてこれを [選択された値] リストに追加します。[OK] をクリックします。
5. [検索のために、最良価格算出ケースを指定します。] ドロップダウン リストから価格算出ケースを選択します。
6. 1 つの価格算出ケースだけでなくすべての価格算出ケースを確認する必要がある場合は、[全ての算出ケースに価格をコピーします。] で [はい] または [いいえ] を選択します。[はい] を選択すると、[検索のために、最良価格算出ケースを指定します。] ドロップダウン リストでの選択は上書きされます。

オプション

1. 検索基準は、下記により絞り込むことができます。
 - 指定のサプライヤ
 - 特定の出荷先場所
 - 指定のプログラム
 - 指定の顧客
2. このオプションを選択する場合は検索する期限付き設計変更の数量をパーセントで [アイテム マスター] に入力します。そうでない場合は、[数量を無視] ボタンを選択して数量を無視します。
3. 見積依頼の日付範囲から見積の受信日までの日数 (プラスまたはマイナス) を入力するか、または [開始/終了日の範囲を無視] ボタンを選択して見積の日付を無視します。
4. 複数行が検索された場合は、[最低価格]、[最短リード タイム]、または [最新回答] ボタンを選択し、結果をフィルタリングします。
5. 現在の日付からこの期間内に起きた見積を考慮する日までの日数を入力します。
7. [完了] をクリックします。

アイテムと製造元部品の価格を公表する

Agile PCM は [アイテム マスター] への価格公表のショートカットを提供しています。異なるアイテムや製造元部品についてサプライヤから回答を受けた場合、これらを手動で公表することは非常に時間がかかります。各アイテムや製造元部品に関して取得した価格情報は、あるだけ公表することができます。他のソーシング プロジェクトにおけるアイテムおよび製造元部品の公表価格情報を使用することができます。

[分析] タブで、選択されたアイテムと製造元部品に対してのみ、回答ライン情報を公表することができます。ただし、回答が保留中の場合 (●) は、回答ライン情報を公表できません。

価格を公表する場合、[レッドライン] または [オーサリング] モードを使用することができます。価格ラインデータのレッドラインを作成するには、PCO を指定します。

価格公表プロセス

価格公表プロセスは、幅広い価格アイテムをサポートしています。1 回の取引で各アイテムが公表され、1 つの価格アイテムを公表できなかった場合、これが他のアイテムの公表に影響しないようになっています。

エラーはすべて、感嘆符のアイコン (!) で [価格公表ステータス] の属性に反映されます。

注意 エラー回数が多くなった場合に回答時間を向上させるため、エラーは 50 回までと制限されています。価格公表プロセスは、エラーが 50 回に達すると中断されます。

プロジェクトの価格公表に加え、アイテムと製造元部品を公表することもできます。詳細は、44 ページの「[アイテムと製造元部品を公表する](#)」を参照してください。

アイテム価格を公表するには

1. プロジェクトを開いて [分析] タブを選択します。
2. [アイテム マスター] に公表する回答ラインの行を選択します。

注意 最良回答を検索し、これを [アイテム マスター] に公表します。

3. [回答] > [選択を公表] の順に選択します。[価格の公表ウィザード] の [公表オプションの設定] ページが表示されます。
4. 次のオプションを設定します。
 - 価格タイプ - 価格タイプを選択します。Agile PLM の価格タイプは、[契約]、[公表価格]、[見積履歴] ですが、他のタイプを設定することもできます。
 - 自動採番ソース - [価格タイプ] を選択すると、このドロップダウン リストが表示されます。[価格タイプ] にデフォルトの [自動採番ソース] が含まれている場合、このリストによってその選択が容易になります。
 - 公表モード - [レッドライン] または [オーサリング] モードのどちらかを選択します。

[レッドライン] モードを選択した場合、更新価格を公表する PCO を指定する必要があります。レッドライン モードでは、名前のとおり、変更されたすべての価格ラインが赤色でハイライトされます。[レッドライン] モードでインポートされたすべての価格は、PCO の [対象価格] タブに保存されます。

[オーサリング] モードを選択した場合、親価格が未リリース状態で、保留中の PCO がない場合、既存の価格ラインを更新することができます。[オーサリング] モードは、プレリミナリ価格の価格ラインをインポートする際に便利です。価格に保留中の PCO がある場合、[オーサリング] モードを使って価格ラインを更新することはできません。

- 更新モード - (更新する場合)
- 公表する価格算出ケース - [すべての価格算出ケース] または [選択した例] を選択します。[選択した例] を選択した場合、 をクリックして、どの価格算出ケースを公表するかを指定します。
- アイテムに対する AML 価格の公表 - アイテムに対して AML 価格を公表する場合は、[はい] を選択します。これにより、[アイテム マスター] の [価格] タブに、アイテム価格および AML 価格が表示されます。[いいえ] を選択すると、AML 価格のみが公表され、アイテム価格は公表されません。この機能は、Agile PCM で ERP システムを抽出またはフィードする際に役に立ち、他のユーザー(異なる製造拠点)によるアイテム価格およびその AML 価格の参照を可能にします。
- 以降停止 - 価格公表プロセスは、様々なエラーにより停止する場合があります。これらのエラーの原因是、たとえば、PCO が閉じていない、ソーシング プロジェクトに製造元部品番号が存在しない、など様々です。システムがエラーを検出すると、即座に価格公表プロセスは終了します。

たとえば、価格公表で 100 の回答を選択していて、9 番目の回答でシステムがエラーを検出すると、プロセスは停止します。この場合、まずエラーを修正して、プロセスを最初からやり直す必要があります。その際、17 番目の回答でシステムがエラーを検出すると、再度プロセスは停止し、エラーの修正とプロセスの再起動が必要になります。その後も同じことが繰り返されます。このため、エラーのない価格すべてが公表できません。

この公表、エラー修正、再公表の循環を克服するため、[以降停止] ドロップダウン リストから 50 を選択します。これにより、システムはエラーの後にも価格公表を進行させ、50 番目のエラーが発生して初めてプロセスを停止するようになります。

ドロップダウン リストから [なし] を選択すると、システムは、検出したエラーの数に関係なく、すべての回答を公表します。

5. [オーサリング] モードを選択した場合は、[完了] をクリックします。その他の場合は、[次へ] をクリックしてレッドライン オプションを設定します。

6. [レッドライン オプションの設定] ページで、以下のオプションを確認します。

- 設計変更 -  をクリックし、[価格変更] (PCO) を選択します。既存の PCO を選択するか、新しいものを作成します。

注意 公表しようとしている既存の価格がすでに保留中の PCO の対象である場合、PCO がリリースされるまで更新された価格を公表できません。

- レッドライン モード - [価格ライン データのみを追加、変更 (削除しない)] または [価格ライン データを追加、変更、および削除] を選択します。

[価格ライン データのみを追加、変更 (削除しない)] の設定は、行を削除せずに価格ラインを更新します。[価格ライン データを追加、変更、および削除] を選択した場合、既存の価格ラインは完全に公表価格ラインにより上書きされます。

7. [完了] をクリックします。

注意 価格公表の際にエラーが発生した場合、[価格公表日] の値が赤く表示されます。日付をクリックし、エラーの詳細を見るすることができます。[価格公表日] フィールドが表示されない場合、[ディスプレイの設定] をクリックし、選択した属性を変更します。

通貨の値を変換する

Agile PCM では、現在の一般的な換算レートにより、すべての通貨をプロジェクト通貨に換算することができます。サプライヤはそれぞれの通貨でレートを見積もり、この価格を計算のためにプロジェクト通貨に換算できます。標準化された換算レート、オリジナルの換算レートの追跡と表示が可能です。

Agile PCM の通貨換算機能の中には、次のような機能を提供するものもあります。

- 換算レート保存のためのシステム全体の通貨換算テーブル
- 分析目的のためにプロジェクト換算レートのスナップショットを作成する機能
- オリジナルの見積通貨で保存されたサプライヤ回答
- スナップ ショット換算レートに基づいて標準化された回答履歴と契約の価格
- 換算レートの更新機能

注意 通貨換算レートが Agile PCM に影響を及ぼすのは、ソーシング プロジェクトの [分析] タブのみです。通貨換算は自動プロセスではありません。[分析] タブで、標準化された通貨レートと、サプライヤにより入力された本来の通貨値を切り替えることができます。Agile PCM のその他の場所では、通貨換算レートは適用されません。たとえば、アイテムの [ユーザー定義 1] または [ユーザー定義 2] の通貨フィールドを持つよう、システムを設定することができます。通貨フィールドの通貨を変更した場合 (たとえば、USD から GBP など)、フィールド値は自動的に新しい通貨に再計算されません。

ユーザーは、[見積依頼回答] タブでもオリジナルと標準化通貨を切り替えることができます。

標準化された通貨で回答を表示する

標準化された通貨はプロジェクト通貨です。通貨の標準化は、サプライヤの回答見積の値をプロジェクト通貨に換算する作業です。Agile PCM は、換算レートを適用し、回答通貨をプロジェクトで指定されたデフォルト通貨に標準化します。

注意 換算の計算は、一般的な換算レートに基づき、バックグラウンドで実行されます。

標準化された通貨レートを表示するには

1. プロジェクトを開いて [分析] タブを選択します。
2. ウィンドウ上部の [通貨] ドロップダウン リストから [標準化] を選択します。テーブルの情報は更新されます。

オリジナル通貨で回答を表示する

オリジナル通貨は、サプライヤが見積もりで使用する通貨です。サプライヤの回答を表示するとき、これらはデフォルトではサプライヤの通貨で表示されます。

オリジナル通貨レートを表示するには

1. プロジェクトを開いて [分析] タブを選択します。
2. ウィンドウ上部の [通貨] ドロップダウン リストから [オリジナル] を選択します。テーブルの情報は更新されます。

注意 デフォルトでは、通貨は [オリジナル] で表示されます。

通貨換算レートを更新する

プロジェクトを更新すると、換算レート テーブルに保存されている新しいレートに基づいて、すべての通貨が標準化されます。ただし、これはプロジェクト内の公表回答には適用されません。

さらに Agile PCM によって最新の換算レートのスナップショットが作成され、プロジェクトの通貨フィールドを再度標準化する場合に使用できます。

注意 Agile 管理者は換算レートを更新することができます。詳細は、『管理者ガイド』を参照してください。

通貨換算レートを更新するには

1. プロジェクトを開いて [分析] タブを選択します。
2. [回答]>[換算レートを表示/更新] の順に選択します。[換算レートを表示/更新] ウィンドウが表示されます。
3. [更新] をクリックし、プロジェクトの公表アイテム価格以外の回答ライン価格を更新します。

プロジェクトから価格情報をエクスポートする

ソーシングの操作を完了した後、結果をすぐに Excel ファイルにエクスポートすることができます。回答は、価格データのフラット リストまたはコスト付き BOM としてエクスポートできます。

注意 [公表ステータス] を表示する個別の欄があります。[価格] が [公表] されなかった場合、[日付] は表示されませんが、公表エラーの [理由] が [公表ステータス] の欄に表示されます。

価格情報をエクスポートするには

1. プロジェクトを開いて [分析] タブを選択します。
2. エクスポートするアイテム回答ラインを選択します。
3. [回答]>[エクスポート] を選択します。エクスポートの経過ウィンドウがポップアップ表示されます。
4. ファイル形式 ([CSV] または [Microsoft Excel ワークブック]) を選択して、価格情報をコンピュータに保存します。
5. [続行] をクリックします。[ファイルのダウンロード] ダイアログ ボックスが表示されます。
6. [保存] ボタンをクリックします。
7. 完了したら、[閉じる] をクリックして、[エクスポート] ダイアログ ボックスを閉じます。

一括編集

アイテムのリスト全体、または選択したアイテムの組み合わせで、社内部品番号、製造元部品番号、およびユーザー設定属性の一般的な変更を行う必要がある場合、それらに対して [一括編集] を実行できます。また、一括編集のブックマークを追加できます。

データを一括編集できる場所は、次の 2 つです。

- [AML] タブでは、すべての [アイテム] および [製造元部品] フィールドを編集できます。アイテムの説明、製造元部品の説明などの標準フィールドおよびユーザー設定フィールドは、このビューで一括編集できます。
- [分析] タブでは、[アイテム]、[製造元部品] および [回答] フィールドのユーザー設定フィールドを編集できます。アイテムの説明、製造元部品の説明などの標準フィールドをこのビューで一括編集することはできません。

一括編集するには

1. ソーシング プロジェクトで、[分析] タブに移動します。
2. 目的のアイテム行か表示されたページのすべての行を選択するか、または [グローバル選択] ボタンをクリックします。
3. [回答]>[一括編集] の順に選択します。[一括編集] ウィンドウがオープンします。
4. [フィールド] ドロップダウン リストから属性を選択し、対応する [値] ドロップダウン リストから値を選択します。
5. さらに属性を変更する場合は、[追加] をクリックして、[フィールド] および [値] の行をさらにオープンします。

重要 [フィールド] ドロップダウン リストには、Java クライアントで [表示] に設定されている RESPONSE_TEXT01 などの属性のみが含まれます。ユーザー設定フィールドの属性の有効化の詳細は、『管理者ガイド』を参照してください。

ソース テーブル (AML.ITEMS テーブル、AML.AML テーブル、RFQ.RESPONSE テーブル、および ANALYSIS テーブル) で有効化されているユーザー設定属性は、一括編集が可能です。たとえば、resp_text01 を一括編集するには [分析] テーブルと [RFQ Response] テーブルの両方、ipn_text01 を一括編集するには、[分析] テーブルと [AML.Items] テーブルの両方でそれぞれ有効化されている必要があります。

属性は、それらの属性が行に適用できる場合のみ更新されます。たとえば、社内部品番号のユーザー設定属性は社内部品番号行にのみ適用され、MPN 行には影響を及ぼしません、回答のユーザー設定属性は、アイテムに関連付けられているサプライヤが存在する場合のみ、適用されます。

見積依頼 (RFQ)

扱うトピックは次のとおりです。

■ 見積依頼について	65
■ 見積依頼に使用される専門用語.....	66
■ RFQ 取引条件	67
■ 見積依頼プロセス フロー	68
■ 見積依頼を作成する	71
■ 見積依頼を使用する	78
■ 回答を編集する	84

見積依頼について

サプライヤとは見積依頼 (RFQ) を通して調達の連絡をとります。見積依頼を使用すると、プロジェクトに関与しているすべてのアイテムの見積を依頼することができ、サプライヤはその依頼に回答することができます。見積依頼を作成するには、見積依頼オブジェクトに対する [作成] 権限が必要です。通常、これは [ソーシング管理者] または [見積依頼マネージャ] の役割を与えられているか、または類似した権限のあるユーザーがソーシング プロジェクトを共有していることを意味します。

見積依頼が作成されると、ソーシング プロジェクト マネージャはこれを 1 社、または複数のサプライヤに見積のために送信することができます。Agile PLM の豊富な機能で、サプライヤと価格や条件を交渉することができます。常に複数のサプライヤからの回答を分析し、最良条件を選択できます。

見積依頼を使って、次のことを実行できます。

- 見積依頼を作成、準備し、1 社または複数のサプライヤに割り当てる。
- 契約や回答の履歴情報を利用して、不必要的サプライヤへの依頼をなくす。
- 「ドラフト」の状態にある見積依頼を確認および調整する。
- 見積依頼をサプライヤに送信し、その回答ステータスを追跡する。
- サプライヤからの回答を確認、比較、および分析する。
- 交渉により、特定のサプライヤおよびライン アイテムに対し、より有利な価格または条件を設定する。
- 見積依頼を表示する前に、サプライヤが見積依頼の条件を受け入れるよう要求する。

次の表に、見積依頼のタブと各タブから実行できるアクションを示します。

タブ	説明	アクション
カバーページ	見積依頼の一般的な詳細の表示	見積依頼の詳細の表示および編集
回答	回答詳細の表示	サプライヤ回答の要約で表示 価格算出ケースを選択し回答を表示 回答詳細の表示方法のフィルタリング アイテムの削除 サプライヤの追加、自動割り当ておよび削除 回答の管理 通貨の表示
回答ステータス	見積依頼の要約およびサプライヤからの回答の表示	見積依頼の催促 Web サプライヤ以外のサプライヤ向け見積依頼のエクスポート/インポート
変更	見積依頼のアイテムや回答の変更の表示	回答詳細の表示 追加または変更されたアイテムごとのアイテム変更の要約を表示。回答と変更の要約を特定する日付を選択。[見積依頼の変更] タブでの未適用のアイテム変更の表示
ディスカッション	見積依頼に関して作成されたディスカッション オブジェクトの表示	ディスカッション一覧を返信、削除、追加のオプション付きで表示
添付ファイル	見積依頼の添付ファイルのリストの表示	添付ファイルの詳細を表示。添付ファイルの編集、削除、および追加
履歴	見積依頼のプロセス全体を通して実行したアクションの履歴を表示	各アクションに対するユーザー、日付、時刻、詳細の表示

見積依頼に使用される専門用語

このセクションでは、見積依頼に関する重要な専門用語の定義を説明します。

専門用語	説明
見積依頼	見積依頼。サプライヤからのアイテムの見積を要求する手段
回答	サプライヤが見積依頼に対して回答を送る手段。複数のサプライヤが回答を送信すると、見積依頼は複数の回答を作成
回答ライン	ユーザーとサプライヤとの間で価格条件を交渉するための回答手段。各アイテムは、回答に回答ラインを持つ。それぞれに対して設定されている [見積形式] の属性により、形式は異なる
標準コスト	アイテムに適用。アイテムの市場コストであり、拠点別。標準コストは 1 つのユニットに対して有効
目標コスト	アイテムに適用。ユーザーまたはサプライヤにより期待されているアイテムのコスト。標準コストに対する割合に基づいた設定が可能。目標コストは 1 つのユニットに対して有効

専門用語	説明
見積形式	アイテムに適用。設定したオプションに基づき見積を取得するため見積依頼で使用。次の 3 つのオプションがある <ul style="list-style-type: none"> ▫ アセンブリ - サプライヤはその他費用についてのみ見積 ▫ コンポーネント - サプライヤはマテリアル価格についてのみ見積 ▫ カスタム コンポーネント - サプライヤはマテリアル価格とその他費用の両方に対して見積。その他費用には賃率、消費税などを含む
コスト	アイテムに適用。拠点別。[コスト] を「はい」または「いいえ」に設定し、アイテムが [アイテム マスター] に価格を持っているかどうかを指定可能。この設定は後からプロジェクトで編集できる。アイテムがプロジェクトに追加されたとき、[コスト] が「はい」でも「いいえ」でもない場合、デフォルトではプロジェクトで「はい」に設定。 <ul style="list-style-type: none"> ▫ はい - サプライヤはアイテムに対し価格の見積が必要 ▫ いいえ - サプライヤはアイテムに対し価格の見積不可。見積依頼はアイテムに対する回答ラインを作成しない
返品・キャンセル不可	返品・キャンセル不可。アイテムに適用。返品・キャンセル不可は、サプライヤによって「はい」または「いいえ」に設定。ユーザーは、サプライヤ回答で [返品・キャンセル不可] 情報を要求可能。サプライヤからの回答の中で、最良条件のものを見つけるために重要な要素。 <ul style="list-style-type: none"> ▫ はい - 発注または購入したアイテムが不要になったり、欠陥があつても、返品やキャンセル不可 ▫ いいえ - 発注または購入したアイテムが不要になったり、欠陥があつた場合、返品やキャンセル可能
UOM	計測単位。アイテムの標準計測単位。たとえば、燃料はガロンで計量する

RFQ 取引条件

サプライヤに対して、見積依頼を開く前に特殊な取引条件を受け入れるよう申し渡すことができます。

Agile Java クライアントで RFQ 取引条件を設定する

サプライヤが取引条件を受け入れて初めて見積依頼を開けるようにするには、Java クライアント ノード (Java クライアントの [管理] タブから [PCM] > [取引条件] を選択) を設定して、この機能を有効にする必要があります。

注意 [RFQ 取引条件] フォームの設定方法の詳細は、『Agile PLM 管理者ガイド』の Product Cost Management の設定に関する章の RFQ 取引条件に関する項を参照してください。

Java クライアントで [RFQ 取引条件] を設定した後は、バイヤー側による RFQ 取引条件設定表示を設定できます。

バイヤー側の RFQ 取引条件設定

ユーザーは、RFQ 取引条件をプロジェクト レベルで必須にすることができます。これにより、作成されたすべての見積依頼に対して RFQ 取引条件が自動的に適用されます。[ソーシング プロジェクト] の作成時に、[見積依頼取引条件が必要です。] フィールドで [はい] を選択します。

ユーザーは、正しい権限を持っていれば、見積依頼のカバー ページにある見積依頼レベルの [見積依頼取引条件が必要です。] を上書きすることができます。

バイヤーは、取引条件承認ステータスのステータスを保守します。サプライヤ ユーザーが取引条件を承認すると、バイヤーは、[見積依頼ステータス] ページで [はい] または [いいえ] のステータスを確認できます。

The screenshot shows two pages from the PDM system:

- RFQ Status:** A table showing RFQ details. It has columns for Status, Total Lines (4), Total Responses (0), Requote (0), % Responses (0), and Due Date (08/29/2007 12:00:00 AM). There are buttons for Change Status and Actions.
- Supplier Response Status:** A table showing supplier responses. It has columns for Expedite, Import..., Export..., Supplier (Tarun Rana (SP-TR)), Contact (tarun.rana (tarunrana)), Pre-Qualified (0), Requested (4), Completed (0), Progress (0), No Bid (0), Open Requests (0), Response Currency (United States Dollar), and Last Modified (08/06/2007 03:01:56 PM BST). There are buttons for Change Status and Actions.
- RFQ Terms and Conditions:** A table showing terms and conditions. It has columns for Supplier, Accept User, Status, and Accept Date. It displays a message: "There is no data to display." There are buttons for Change Status and Actions.

サプライヤ ビュー

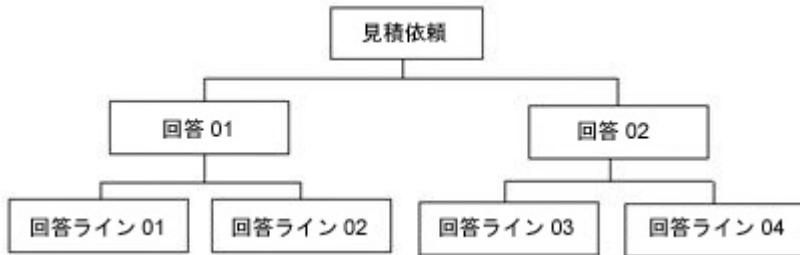
サプライヤが見積依頼を開く際には、[承認] および [拒否] ボタンとともに取引条件のフォームが開きます。サプライヤが拒否すると見積依頼はオープンしないため、サプライヤ ユーザーはそのコンテンツを見ることができません。見積依頼へのすべてのアクセス手段（通知および [ワークフロー ルーティング] からのリンク）はブロックされます。見積依頼に進むには、サプライヤは取引条件を一度だけ承認する必要があります。取引条件フォームは、その後は表示されません。

サプライヤ ユーザーが見積依頼を他のサプライヤ ユーザーに転送した場合、新しいユーザーが見積をオープンするには、まず条件を一度承認する必要があります。

見積依頼プロセス フロー

見積依頼プロセスには 3 つの関連オブジェクトが関与しています。

- 見積依頼 - サプライヤやパートナーからアイテムの見積を要求することができます。複数のサプライヤに見積依頼を送信できます。
- 見積依頼回答 - ユーザーとサプライヤとの間の通信手段です。サプライヤからの 1 つの回答には、異なるアイテムに関する複数の回答ラインを含むことができます。サプライヤが回答を提出すると、価格データは自動的にプロジェクトに追加されます。
- 回答ライン - 各回答ラインには、1 つのアイテムに関する情報のみ含むことができます。回答ラインでは、アイテムの価格と条件に関する交渉を扱っています。



見積依頼回答と回答ラインの決定方法

見積依頼回答と回答ラインは、見積依頼のアイテムと選択されたサプライヤに基づいています。アイテムについて特定のサプライヤを選択することができますが、Agile PLM がサプライヤの製造元と部品分類提示、および選択された見積依頼ルーティング ルールをもとに、自動的に見積依頼回答を配布することができます。結果として、サプライヤにはそれぞれの提示に基づき、1 つ、または複数のアイテムに対する見積依頼回答を送信されます。

下表は 3 社のサプライヤにより見積が出された 2 つのアイテムの例です。部品 A はサプライヤ 1 とサプライヤ 3 により見積がされており、部品 B はサプライヤ 1 とサプライヤ 2 により見積がされています。

アイテム	サプライヤ 1	サプライヤ 2	サプライヤ 3
部品 A	はい		はい
部品 B	はい	はい	

下図は部品 A と部品 B の回答、回答ライン、サプライヤを示しています。



見積依頼タスク

見積依頼の目標は、様々なサプライヤから部品の価格と納期についての情報を得ることです。見積依頼プロセスが完了したら、交渉した価格を [アイテム マスター] に公表することができます。以下は見積依頼プロセスを完了するためのステップです。

1. 見積依頼を作成します。
2. 見積依頼にアイテムを追加します。

3. サプライヤとパートナーを割り当てます。
4. 見積依頼をサプライヤとパートナーに送信します。
5. サプライヤからの回答ラインをレビューします。
6. 交渉と再見積(必要な場合)。
7. [アイテム マスター] に価格を公表します。

下表は、見積依頼のステータスをすばやく識別するための PCM 記号を表示しています。これらの記号は、見積依頼のオープン時に [回答] タブに表示されます。

シンボル	意味	説明
	見積依頼	見積依頼を示す
	見積済み	見積依頼に追加されたアイテムに表示
	エラー	このアイコンは、回答ラインにエラーがあることを示します。たとえば、無効なデータを入力したり、数値フィールドにテキストデータを入力したり、または必須フィールドを空欄のままにすると、フィールド行の左側にこれが表示され、その行は淡紫色でハイライトされます。エラーの性質の詳細は、アイコンをクリックして参照してください。
	未読	見積依頼がサプライヤによりまだ開かれていないことを示す
	保留中	見積依頼内のアイテムに対して表示。そのアイテムの見積依頼がサプライヤに送られ、回答が保留中であることを示す
	催促	見積依頼の回答を催促するメッセージがサプライヤに送信されたことを示す
	ロック状態	見積依頼内のアイテムに対して表示され、サプライヤが送付した回答ラインをサプライヤが変更できないことを示す。サプライヤへの見積依頼ラインを開くと、その後 [ロック解除済み] となる場合のみ編集可能。
	回答	サプライヤから回答を受信したアイテムに表示
	再見積	サプライヤに対し見積再依頼が送信されたアイテムに表示
	詳細	アイコンをクリックすると見積金額を表示する
	回答変更の表示	初回の回答以降に見積に対して変更が加えられたことを表す。アイコンをクリックすると、見積の変更内容を表示する。
	代替/推奨製造元部品	サプライヤが見積を出した製造元部品に対して代替部品を提示していることを示す。回答ラインは、アイコンと部品情報を表示

見積依頼ステータス

見積依頼のライフサイクル ステータスには、「ドラフト」、「オープン」、「ロック状態」、「終了」があります。下表はこれらのステータスに関する情報と、それぞれを示すアイコンを表示しています。

これらの記号は、ソーシング プロジェクトの [見積依頼] タブの [見積依頼番号] 列と [見積依頼詳細] 列の間に表示されます。

ステータス	説明
ドラフト (進行中)	見積依頼作成時のデフォルトのステータスは「ドラフト」です。アイテムを追加し、手動または自動割当ツールでサプライヤをアイテムに割り当てることができます。契約および回答履歴をロックします。事前に見積済みのアイテムは、サプライヤに送信しないようフラグを立てますが、分析のためにリストに残します。
オープン (進行中)	見積依頼のステータスが「オープン」に変わると、割り当てたサプライヤに見積依頼が送信されます。サプライヤはそれぞれの受信トレイで見積依頼通知を見ることができ、見積依頼アイテムに対して見積を出します。見積依頼がオープンになると、見積依頼をサプライヤに送信し、見積再依頼を要求することができます。
ロック状態 (進行中)	ユーザーは、サプライヤからの回答を分析または変更して、承認したり再見積を依頼したりすることができます。サプライヤは、一時的に見積依頼の更新ができなくなります（サプライヤからの回答は受信されません）。[見積履歴] は見積依頼がロックされても作成されます。
終了	見積依頼の最終状態です。満足のいく回答が得られたら、見積依頼を終了できます。サプライヤは見積依頼に変更を加えることができません。 注意 見積依頼を終了すると、自動的に [見積履歴] オブジェクトが作成され、見積価格（あれば）のスナップショットが保存されます。スマートルールの詳細は、『管理者ガイド』を参照してください。

見積依頼を作成する

[アイテム]、[AML] または [分析] タブから、プロジェクトの見積依頼を作成できます。複数の見積依頼を作成し、これを複数のサプライヤやパートナーへ送信することができます。見積依頼を作成するには、見積依頼オブジェクトに対する [作成] 権限が必要です。Agile は、ユーザーが見積依頼を作成するための 2 つの役割を提供しています。

- ソーシング管理者
- 見積依頼マネージャ

これらの役割を割り当てられていない場合、適切な権限を持つユーザーがあなたとソーシング プロジェクトを共有し、あなたに見積依頼の作成を許可することができます。詳細は、14 ページの「[他のユーザーとプロジェクトを共有する](#)」を参照してください。

注意 プロジェクト ステータスが「オープン」のときにのみ、見積依頼を作成することができます。

見積依頼を作成するには:

1. プロジェクトを開き、[アイテム]、[AML] または [分析] タブのいずれかに移動します。
2. 見積依頼を作成するアイテムの行を選択します。
3. [見積依頼]>[作成] を選択します。[作成 (見積依頼)] の [見積依頼番号の識別] ページが表示されます。

4. [番号] フィールドに、見積依頼の固有の ID 番号を入力するか、または  をクリックして自動生成番号を取得します。
5. [次へ] をクリックします。[見積依頼情報の入力] ページが表示されます。
6. 必須情報を入力します。
 - [見積依頼詳細] フィールドに、見積依頼の簡単な説明を入力します。
 - [締切日] カレンダーをクリックし、日付を選択します。サプライヤはこの日付までに回答を送信する必要があります。
7. オプション情報を入力します。
 - [共有するデータ] フィールドのとなりの  ボタンをクリックし、サプライヤ側で表示されるデータを選択します。
 - [回答要求事項] フィールドのとなりの  ボタンをクリックし、サプライヤから必要な回答データを選択します。
 - [サプライヤへの指示] フィールドには、サプライヤに対して重要または役に立つ指示がある場合にそれを入力します。
 - [所有者] ドロップダウン リストから、見積依頼の所有者を選択します。所有者は、デフォルトでは見積依頼を作成したユーザーです。適切な権限のあるユーザーのみが、見積依頼を作成できます。
8. [次へ] をクリックします。[部品追加ルールの選択] ページが表示されます。詳細は、73 ページの「[部品追加ルール](#)」を参照してください。
9. [次へ] をクリックします。[サプライヤの選択] ページが表示されます。

アイテムに関連付けられたすべてのパートナーが [パートナーの選択] の下に表示されます。デフォルトでは、すべてのパートナーが見積依頼を受け取るよう選択されています。一部のパートナーに対してのみ見積依頼を送信する場合は、それ以外のパートナーのチェックボックスを選択解除します。パートナーのみ、サプライヤのみ、またはその両方に見積依頼を選択するように決定できます。

注意 パートナーを選択するためのこのオプションは、アイテムに関連付けられたパートナーが存在する場合のみ表示されます。75 ページの「[サプライヤとパートナーを割り当てる](#) (サプライヤとパートナーを割り当てる)」を参照してください。

10. [サプライヤ] フィールドのとなりの  ボタンをクリックして、サプライヤ検索ウィンドウをオープンします。[サプライヤ]、[サプライヤ グループ]、またはユーザー定義のサプライヤのカテゴリがある場合はそれを選択して、検索を絞り込むことができます。目的のサプライヤまたはサプライヤ グループを [結果] リストから選択し、それを [選択済み] セルに移動します。サプライヤの容易な識別は、「サプライヤの識別」を参照してください。
11. [配布方法] のドロップダウン リストから、配布方法を選択します。詳細は、73 ページの「[配布方法](#)」を参照してください。
12. 選択したサプライヤをその格付でフィルタリングできます。これは、[利用可能な格付] リストから [選択された格付] リストに対象の格付を移動して実行します。たとえば、見積依頼の回答を承認済みサプライヤにのみ求める場合、このフィルタにより残りのサプライヤを除外できます。
13. [次へ] をクリックします。[添付ファイルの追加] ページが表示されます。
14. 添付ファイルを追加し、[完了] をクリックします。

注意 ページ中のエラーは  記号で標記されます。アイコンをダブル クリックすると、エラーの詳細を見るすることができます。

部品追加ルール

[部品追加ルールの選択] ページでは、見積依頼に対し特定のアイテムを選択することができます。下表にオプションを説明します。

オプション	説明
選択したアイテムとすべてのサブコンポーネントを追加する	選択したアセンブリ、サブアセンブリ、アイテム、およびそのサブコンポーネント (ある場合) を追加します。
選択したアイテムのみ (サブコンポーネントは除く) 追加する	選択したアセンブリ、サブアセンブリ、アイテム、およびサブコンポーネントのみを追加します。アセンブリが選択されている場合、そのサブコンポーネントも選択された場合以外、サブコンポーネントは追加されません。
選択したアイテムのサブコンポーネントのみ追加する	選択したアセンブリおよびサブアセンブリのサブコンポーネントのみを追加します。サブコンポーネントには、BOM コンポーネントとその関連製造元部品が含まれます。

注意 [バックグラウンド プロセスとしてこの見積依頼を作成する。] チェックボックスを選択します。

鍵のような画像は、[見積例の選択] の下のオプションが見積依頼内のアイテムに及ぼす影響を動的に表しています。これは、最適なオプションを決定するのに役立ちます。

配布方法

配布とは、ユーザーが指定する方法に基づき、見積依頼を該当するサプライヤに割り当てるプロセスです。サプライヤが設定する製造元や部品分類提示は、サプライヤがどの製品を販売しているかを示しています。Agile PLM は、地域によるこれらの提示の作成をサポートしており、プロジェクトの指定された出荷先の場所に関連付けることができます。

また、製品 - 出荷先の場所の関係に格付を適用することができ、これによりサプライヤがユーザーの出荷先の場所に製品を販売することが推奨または承認されているかどうかを指定できます。また、サプライヤが製品を提示しているけれどもまだ承認されていないことを指定できます。

見積依頼が配布されると、Agile PLM は各サプライヤの製造元および部品分類提示を検索し、見積依頼に対して選択されたルーティング ルールに基づき、部品をサプライヤに割り当てます。

配布方法には、サプライヤの格付も関係しています。Agile PLM で提供されているデフォルトのサプライヤ格付には次のようなものがあります。

- 承認済み
- 推奨
- 未承認 (提示可)
- 提供 - 無効

注意 Agile PLM 管理者は、サプライヤ格付を追加して定義することができます。サプライヤの格付には順序はありません。見積依頼を配布する際は、複数のサプライヤ格付を選択することができます。

見積依頼の配布方法には、以下のようなものがあります。

- 製造元 - 見積依頼は、製造元提示に基づきサプライヤに割り当てられます。
- 部品分類 - 見積依頼は、部品分類提示に基づきサプライヤに割り当てられます。
- すべて - 見積依頼は、製造元や部品分類提示にかかわらず、すべてのサプライヤに割り当てられます。

例 - 製造元による配布

プロジェクト: PRJ

部品: 部品 A

製造元: Acme

出荷先の場所: San Jose

サプライヤ格付推奨

以下はサプライヤおよびその製造元提示です。

サプライヤ	製造元	出荷先の場所	格付
サプライヤ A	Acme	San Jose	承認済み
サプライヤ B	Acme	バンガロール	推奨
サプライヤ C	Acme	San Jose およびバンガロール	推奨

配布方法が [製造元] であり、サプライヤの格付が [推奨] である場合、サプライヤ C には一致する製造元提示があるため、見積依頼はサプライヤ C に割り当てられます。

例 - 部品分類による配布

プロジェクト: PRJ

部品: 部品 A

部品分類: 部品分類 1

出荷先の場所: San Jose

格付: 承認済み

以下はサプライヤおよびその部品分類提示です。

サプライヤ	製造元	出荷先の場所	格付
サプライヤ A	部品分類 1	San Jose	承認済み
サプライヤ B	部品分類 1	バンガロール	推奨
サプライヤ C	部品分類 1	San Jose	推奨

配布方法が [部品分類] であり、サプライヤの格付が [承認] である場合、サプライヤ A には一致する部品分類提示があるため、見積依頼はサプライヤ A に割り当てられます。サプライヤ B は San Jose で部品分類 Comm1 を提供していますが、その格付が [推奨] であるため、回答ラインが割り当てられていません。

見積依頼を送付する

見積依頼の作成時に入力した情報により、見積依頼を受け取るサプライヤが決定されます。これは、サプライヤと最良の取引をするために役立ちます。見積依頼が正しいサプライヤ組織に送信されるよう、すべての製造元および部品分類提示が最新であり、サプライヤに格付がされていることを確認します。

すべてのサプライヤ組織は、それぞれの地域に基づき、見積依頼が特定のユーザーにどのように送付されるかを決定する [RFx 送付] テーブルを持っています。見積依頼がサプライヤに送信されると、これは自動的に組織内の適切なユーザーに送付されます。出荷先の場所がサプライヤの [RFx 送付] テーブルで指定されている場所と一致しない場合、見積依頼回答はサプライヤのデフォルトの受信者に送付されます。

見積依頼にアイテムを追加する

見積依頼を作成した後、すでに見積依頼をサプライヤへ送信した後でも、その他のアイテムを追加することができます。

見積依頼にアイテムを追加するには:

1. プロジェクトを開き、[アイテム] タブに移動します。
2. 見積依頼に追加するアイテムの行を選択します。
3. [見積依頼] > [アイテム追加] の順に選択します。[見積依頼へのアイテムの追加] の [見積依頼の選択] ページが表示されます。
4. 選択したアイテムを追加する見積依頼の行を選択します。
5. [次へ] をクリックします。[部品追加ルールの選択] ページが表示されます。詳細は、73 ページの「[部品追加ルール](#)」を参照してください。
6. [次へ] をクリックします。[サプライヤの選択] ページが表示されます。
7. サプライヤまたはサプライヤ グループを選択します。
8. [配布方法] のドロップダウン リストから、配布方法を選択します。詳細は、73 ページの「[配布方法](#)」を参照してください。
9. [完了] をクリックします。

サプライヤとパートナーを割り当てる

見積依頼のすべてのアイテムについて、サプライヤやパートナー情報を割り当てる必要があります。これは、RFx 送付を設定する手順です。

パートナーとは、基本的には、トップ レベル アセンブリの AML へのアクセスというメリットを持つサプライヤです。サプライヤは、アセンブリのみを表示でき、AML は表示できません。パートナーを [アイテム] タブのアイテムに割り当てることができます。詳細は、34 ページの「[プロジェクト アイテムにパートナーを追加する](#)」を参照してください。

また、サプライヤを見積依頼の [回答] タブに割り当てることもできます。詳細は、81 ページの「[サプライヤを割り当てる](#)」を参照してください。

アイテムの目標価格を更新する

プロジェクト レベルでアイテムの目標価格を設定すると、この変更は見積依頼の目標価格が更新されるまで、関連の見積価格には適用されません。見積依頼のアイテムの目標価格を、プロジェクトまたは見積依頼で更新することができます。

注意 アイテムの目標価格は、プロジェクトの [AML] タブで編集できます。アイテム マスターへの価格公表の詳細は、60 ページの「[アイテムと製造元部品の価格を公表する](#)」を参照してください。

プロジェクト レベルの更新

プロジェクト レベルの更新は、選択されたアイテムを含むすべての見積依頼に影響します。

プロジェクトから見積依頼のアイテムの目標価格を更新するには:

1. プロジェクトを開き、[AML] タブに移動します。
2. 見積依頼で目標価格を更新するアイテムの行を選択します。
3. [アイテム]>[目標価格]>[見積依頼目標の更新] の順に選択します。

見積依頼レベルの更新

見積依頼レベルの更新は、プロジェクト レベルの目標価格を持つ、選択された見積依頼のアイテムにのみ影響します。

見積依頼から、見積依頼のアイテムの目標価格を更新するには:

1. 要件を開き、[回答] タブに移動します。
2. プロジェクトから目標コストを更新するアイテムの行を選択します。
3. [アイテム]>[目標価格をプロジェクトより更新] を選択します。

注意 目標価格は、ドラフトまたはロック状態の回答、またはロックされた見積依頼の回答でのみ設定できます。

見積依頼からアイテムを削除する

アイテムについて同じ価格情報をそのまま続行することと決定し、サプライヤからの見積を依頼する必要がなくなった場合は、見積依頼からアイテムを削除できます。

注意 すでにサプライヤに対し見積もりのため送信された見積依頼からは、アイテムを削除できません。

見積依頼からアイテムを削除するには:

1. 要件を開き、[回答] タブに移動します。
2. 削除するアイテムの行を選択します。
3. [アイテム]>[削除] を選択します。

注意 アイテムは見積依頼からのみ削除されます。これらは、プロジェクトからは削除されません。

見積依頼を送信する

見積依頼を Web サプライヤに送信したり、または見積依頼を Excel ワークシートまたはカンマ区切り値ファイルにエクスポートし、これを電子メールの添付ファイルまたはハードコピーとして Web サプライヤ以外のサプライヤに送付することができます。

注意 要件のすべてのアイテムの準備が整う前に、要件の準備ができている個別のライン アイテムを送信することができます。

ステータスを変更し、見積依頼を送信する

見積依頼は、そのステータスが [オープン] でなければ、サプライヤやパートナーに送信することはできません。

ステータスを変更して見積依頼を送信するには:

1. プロジェクト内の [見積依頼] タブに移動します。
2. 見積依頼を開きます。
3. [ステータスの変更]>[開く] を選択します。

見積依頼通知が Web サプライヤに送信されます。

見積依頼でライン アイテムを送信する

見積のために送信する準備が整っているアイテムを送信することができます。見積依頼のすべてのアイテムの送信準備が整うまで待つ必要はありません。

重要 各ライン アイテムにサプライヤが割り当てられていることを確認します。

見積依頼のライン アイテムを送信するには:

1. 見積依頼の [回答] タブで、送信するアイテムの行を選択します。
2. [回答]>[サプライヤへの回答ラインの開示] を選択します。

注意 これで、選択されたライン アイテムのみがサプライヤへ送信されます。

Web サプライヤ以外のサプライヤの見積依頼をエクスポートする

Web サプライヤ以外のサプライヤは、オンラインで取引を行わない企業です。彼らは Web アクセスを持たないため、Agile Web クライアントを使って見積依頼に回答することができません。Web サプライヤ以外のサプライヤには、見積依頼のステータスを [オープン] に変更したり、ライン アイテムを開いたりして、見積依頼を送信することもできません。Web サプライヤ以外のサプライヤに見積依頼を送信するには、見積依頼をエクスポートし、電子メールで送信するか、または適切な方法でハードコピーを送付します。

注意 サプライヤが Web サプライヤ以外のサプライヤである場合、サプライヤの [一般情報] タブにある [Web サプライヤ] ステータスが [いいえ] となります。

Web サプライヤ以外のサプライヤの見積依頼をエクスポートするには:

1. 見積依頼を開き、[回答ステータス] タブに移動します。
2. [サプライヤ回答ステータス] セクションで、見積依頼を送信する Web サプライヤ以外のサプライヤの行を選択します。
3. [エクスポート] をクリックします。[エクスポート ファイル] ウィンドウが表示され、そこで CSV(カンマ区切り) または Microsoft Excel ワークブックのいずれかを選択できます。
4. [続行] をクリックします。[ファイルのダウンロード] ダイアログ ボックスが表示されます。
5. [保存] をクリックして、コンピュータにファイルを保存します。
6. ダウンロードが完了したら、[エクスポート ファイル] ウィンドウで [閉じる] をクリックします。

注意 ファイルを添付ファイルとして電子メールを送信するか、または見積依頼のハードコピーを適切な方法で Web サプライヤ以外のサプライヤへ送信します。

見積依頼を使用する

このセクションの内容は以下のとおりです。

- 見積依頼を検索する
- 見積依頼を表示する
- 見積依頼ステータスを変更する
- 見積依頼を削除する
- 見積依頼変更を表示する
- 見積依頼履歴を表示する

見積依頼を検索する

すべての見積依頼は特定のソーシング プロジェクトに関連付けられています。プロジェクトの見積リストを一覧表示するには、プロジェクトを開き、[見積依頼] タブに移動します。

その他の Agile オブジェクトと同じように、検索を利用して見積依頼を探すことができます。簡易検索、詳細検索、保存された検索、ブックマークを使い、見積依頼を検索できます。

検索結果では、見積依頼の名前と ID 番号、見積依頼の説明、ステータスなどが表示されます。[見積依頼番号] をクリックし、見積依頼に関する情報を表示または編集できます。

割り当てられた見積依頼を検索するには:

1. 左ウィンドウの [検索] の下で、[サプライヤ見積依頼検索] を展開して、[私が所有する見積依頼要求] をクリックします。他に検索基準がある場合は、必要に応じて使用できます。

見積依頼を表示する

特定のプロジェクトで作成された見積依頼は、そのプロジェクトの [見積依頼] タブで表示できます。[見積依頼] タブにあるドット記号は、プロジェクトに見積依頼があることを示します。

[見積依頼] タブのテーブルには、見積依頼の説明、ステータス、回答割合、回答したサプライヤの数などを含む情報が表示されます。

プロジェクトで見積依頼を表示するには:

1. プロジェクトを開き、[見積依頼] タブに移動します。
2. 要求番号をクリックし、見積依頼情報を表示します。

見積依頼ステータスを変更する

回答ラインを編集するとき、回答をサプライヤへ送信するとき、または見積依頼を終了するときなどは、見積依頼のステータスを変更する必要があります。

見積依頼のステータスを変更するには:

1. プロジェクトを開き、[見積依頼] タブに移動します。
2. ステータスを変更する見積依頼の行を選択します。
3. [見積依頼ステータスの変更] をクリックし、任意のステータスを選択します。

見積依頼を削除する

見積依頼を削除する場合もあります。たとえば、アイテムを別の目標コストや別の AML で再見積したい場合、見積アイテムを削除し、新規見積依頼を作成できます。見積依頼は、そのステータスが [ドラフト] か [終了] の場合のみ削除可能です。オープンまたはロック状態の見積依頼は削除できません。見積依頼を削除する場合、見積依頼から [アイテム マスター] へこれまでに公表された価格は影響を受けません。

見積依頼を削除するには:

1. 見積依頼を開きます。
 2. [ステータスの変更] をクリックし、見積依頼のステータスを [ドラフト] または [終了] に変更します。
-
- 注意** 見積依頼ステータスを [ドラフト] または [終了] に変更すると、この見積依頼に関連付けられていたサプライヤやパートナーの自動的に通知が送信されます。
3. [アクション]>[削除] を選択します。見積依頼を削除するかどうかを確認するメッセージが表示されます。
-
- 注意** 見積依頼を開くと、もう [ドラフト] 状態へ変更することはできません。
4. [OK] をクリックし、見積依頼を削除します。

見積依頼変更を表示する

見積依頼変更を表示することによって、追加、削除、または変更されたアイテムを追跡したり、回答変更を監視したりできます。[変更] タブには、プロジェクト アイテムの更新の結果として見積依頼に適用された変更のリストが表示されます。プロジェクトのアイテムを変更し、それによって既存の見積依頼の内容が影響を受ける場合は、見積依頼変更通知が作成されます。

[変更] タブでは、見積依頼のアイテム変更や回答変更を見るすることができます。追加、変更、削除されたアイテムを個別に表示するには、[変更] タブでフィルタを使うことができます。また、見積依頼にアイテムが存在していれば、[未適用のアイテム変更] を表示できます。

注意 [変更] タブの内容は、アクションが実行されると自動的に更新されます。

見積依頼変更を表示するには:

1. 見積依頼の [変更] タブで、[表示]>[回答] を選択し、見積依頼の回答変更を表示するか、または [表示]>[アイテム] を選択し、見積依頼のアイテム変更を表示します。
-
- 注意** デフォルトでは、[未適用のアイテム変更] が表示されます。
2. 変更は日付に基づいて表示することもできます。
 - [アイテム] 表示で、ページ情報の [この日以降の変更] リストから日付と時刻を選択します。
 - [回答] 表示で、[この日以降の変更] カレンダーから日付を選択します。
 3. 変更をフィルタリングするには、[フィルタ]>[追加済み]、[フィルタ]>[変更済み]、または [フィルタ]>[削除済み] を選択します。
-
- 注意** [アイテム] 表示でのみ変更をフィルタリングできます。

見積依頼履歴を表示する

[履歴] タブには、アクションを実行したユーザーの名前、アクションの日付や時刻、各アクションの説明など、見積依頼に関する情報が表示されます。

見積依頼履歴を表示するには:

1. 見積依頼を開きます。
2. [履歴] タブをクリックします。

見積依頼が作成されてから発生したアクションや取引を表示できます。

見積依頼回答を処理する

サプライヤは、回答としてアイテムに対する見積を入力し、提出します。見積依頼の [回答] タブには、すべてのアイテム、BOM、および見積依頼のアイテムの製造元部品が表示されます。各回答ラインのステータス、サプライヤからの回答の詳細、および回答に加えられた変更が表示されます。

このセクションの内容は以下のとおりです。

- 見積依頼回答をフィルタリングする
- サプライヤを割り当てる
- 見積依頼回答を催促する
- 別の通貨で回答を表示する
- 價格情報を検索する

見積依頼回答をフィルタリングする

見積依頼の [回答] タブで、フィルタツールバーを使用すると、表示したい回答を隔離することができます。フィルタツールバーには、事前定義済みフィルタや、データのフィルタリングに使用できる属性がいくつか含まれています。

見積依頼の [回答] タブをフィルタリングするには:

1. 見積依頼を開き、[回答] タブに移動します。
2. [フィルタの表示] をクリックします。
3. [属性] リストをクリックし、事前定義済みフィルタ ([すべて表示]、[分割アイテム]、[価格のある部品] など)、または属性の 1 つ ([価格ソース] や [サプライヤ]) を選択します。下表には、選択可能な推奨される事前定義済みフィルタと属性を示しています。

事前定義済みのフィルタ	属性
[すべて表示]	アイテム番号
[分割アイテム]	アイテムの説明
[価格のある部品]	部品分類
[サプライヤのない部品]	コスト
[回答待ちの部品]	見積形式
[ソーシング例外のある部品]	内製/購入
[サプライヤにより提示された代替部品]	製造元部品
[サプライヤによる代替提示]	製造元
[価格管理が不完全なアイテム]	AML ステータス ソース 回答ステータス 入札参加意思 サプライヤ サプライヤ格付 輸送条件 バイヤー プランナ

4. 事前定義済みフィルタを選択した場合、[適用] をクリックします。フィルタ ツールバーの他のフィルドは、事前定義済フィルタには適用されません。

5. 事前定義済フィルタのかわりに属性を選択した場合

- a. [条件] リストをクリックし、フィルタの関係演算子を選択します。関係演算子のリストは選択された属性のタイプにより異なります。例には [等しい]、[等しくない]、[空欄]、[空欄ではない]、[先頭から一致する]、[含む] などが含まれます。

注意 [条件] 演算子の [含む] により、属性リストでの複数選択 ([サプライヤ]、[製造元]、[部品分類]、[サプライヤ格付] など) が可能となります。

- b. フィルタ条件の値を選択します。テキスト属性については、値を入力します。リスト属性については、 ボタンをクリックし、リストから値を選択します。
- c. [適用] をクリックします。

サプライヤを割り当てる

[回答] タブには、アイテム、BOM、製造元部品に関するサプライヤからの回答ラインがすべて表示されます。回答ラインには、サプライヤから要求したデータ (価格管理情報や価格変更情報など) が含まれます。サプライヤは、それぞれに割り当てられたアイテムの見積依頼を受信します。

[回答] タブから、アイテムに対し手動または自動でサプライヤを追加できます。

サプライヤを手動で割り当てる

すべてのアイテムに対し、任意のサプライヤを手動で追加できます。Agile PLM は配布方法を無視し、選択されたサプライヤを、選択されたすべてのアイテムに割り当てます。

サプライヤを手動で割り当てるには:

1. 見積依頼の [回答] タブで、サプライヤを割り当てるアイテムの行を選択します。
2. [サプライヤ]>[追加] を選択します。
3. [利用可能なサプライヤ] リストからサプライヤを選択し、右矢印をクリックして [選択されたサプライヤ] リストに移動します。
4. [OK] をクリックします。

注意 サプライヤの識別は、95 ページの「[サプライヤの識別](#)」を参照してください。

AML レベルでサプライヤを割り当てる

サプライヤをアイテムの AML レベルで割り当てるすることができます。これにより、サプライヤは自身が供給するアイテムに関してのみ、見積依頼を受け取り回答することになるため、見積依頼の処理はより効率的になります。

バイヤー側の視点から見れば、この機能により、アイテムのうち、サプライヤが供給しない AML を不要に表示しないで済むため、その情報を保護することができます。

AML レベルでサプライヤを割り当てるには:

1. 見積依頼の [回答] タブで、サプライヤを割り当てるアイテムの AML の行 ([アイテム] 行を含む) を選択します。
2. [サプライヤ]>[追加] を選択します。[サプライヤおよびサプライヤ グループの識別] ウィンドウが表示されます。
3. 検索を実行して、その結果からサプライヤを選択します。右矢印をクリックして、サプライヤを [選択済み] リストに移動します。
4. [OK] をクリックします。

注意 サプライヤの識別は、95 ページの「[サプライヤの識別](#)」を参照してください。

サプライヤを自動で割り当てる

見積依頼でアイテムに対しサプライヤを自動的に割り当てる場合、アプリケーションはユーザーが選択した配布および格付条件を満たすすべてのサプライヤを検出します。オリジナルの見積依頼が作成された後に、アイテムに対しサプライヤを自動割当する場合は、追加自動割当ルールを指定することができます。自動割当は、現在のサプライヤの割り当てを削除しませんが、ユーザーが定義した条件に基づき、新しい割り当てを追加します。

アイテムにサプライヤを自動的に割り当てるには:

1. 見積依頼の [回答] タブで、サプライヤを割り当てるアイテムの行を選択します。
2. [サプライヤ]>[自動割当] を選択します。[サプライヤの自動割り当て] ウィンドウが表示されます。
3. [サプライヤ] フィールドのとなりの  ボタンをクリックします。[サプライヤおよびサプライヤ グループの識別] ウィンドウが表示されます。

4. 検索を実行して、その結果からサプライヤを選択します。右矢印をクリックして、サプライヤを [選択済み] リストに移動します。

注意 サプライヤの識別は、95 ページの「[サプライヤの識別](#)」を参照してください。

5. [見積依頼の配布方法] ドロップダウン リストから、配布方法を選択します。
 6. [利用可能な格付] リストから、格付を選択します。右矢印をクリックして、格付を [選択された格付] リストに移動します。
 7. [OK] をクリックします。

注意 サプライヤの自動割当は、社内部品番号レベルでのみ機能し、AML レベルには適用できません。

見積依頼回答を催促する

サプライヤからの回答ステータスの追跡や遅れているサプライヤからの回答の催促は、見積依頼プロセスの重要な作業です。見積依頼の状態を素早く確認し、サプライヤに対し見積回答が保留中であることを指摘する通知メールを送信することができます。指定された締切日の後でも、回答を要求することができます。

見積依頼回答を催促するには:

1. 見積依頼の [回答ステータス] タブから、回答を要求するサプライヤの行を選択します。
2. [催促] をクリックします。[催促] ウィンドウが表示されます。
3. [件名] のラインに件名を入力し、[メッセージ] フィールドにメッセージを入力します。
4. [送信] をクリックします。

注意 通知は、まだ見積依頼に回答していないサプライヤに対して送信されます。[サプライヤ回答ステータス] テーブルの 2 列目に [催促済み]  記号が表示されます。

Web サプライヤ以外のサプライヤの回答をインポートする

Web サプライヤ以外のサプライヤとは、インターネットや Agile Web クライアントを使用していないサプライヤを指します。このため、見積依頼は電子メールの添付ファイルとして、またはハードコピーをなんらかの方法で送付する必要があります。サプライヤは、添付ファイルとして、またはハードコピーで、回答ラインを返信します。

サプライヤが Web アクセスを持っていないことを特定するため、サプライヤ マネージャはサプライヤの [一般情報] タブで [Web サプライヤ] フィールドを [いいえ] に設定します。Agile Web クライアントでは、Web サプライヤ以外のサプライヤは  アイコンで表示されます。

Web サプライヤ以外のサプライヤが電子メールの添付ファイルとして回答ラインを送信してきた場合は、このファイルを直接プロジェクトにインポートできます。Web サプライヤ以外のサプライヤがハードコピーで回答ラインを送付してきた場合は、この情報を電子ファイルに打ち込み、インポートする必要があります。Web サプライヤ以外のサプライヤからの回答ラインのみ、インポートが可能です。なんらかの理由で、Web アクセスを持つサプライヤからの回答ラインをインポートする必要がある場合は、サプライヤ マネージャに対し、このサプライヤの [一般情報] タブで、Web サプライヤのステータスを一時的に [いいえ] に変更するよう要請してください。

Web サプライヤ以外のサプライヤからの回答をインポートする方法については、『Agile インポートおよびエクスポート・ガイド』を参照してください。

別の通貨で回答を表示する

回答ラインは、見積依頼の [回答] タブで表示することができます。サプライヤは見積依頼に対し、自分たちの通貨で回答することができますが、この通貨はプロジェクト通貨とは異なる場合があります。この場合、見積情報をサプライヤ（本来の）通貨、またはプロジェクト（標準化）通貨のいずれかで表示し、分析することができます。標準化通貨を使用すると、すべての回答を 1 つの通貨で分析できます。

表示を選択すると、Agile PLM は通貨換算レートに基づき価格情報を計算し、表示します。プロジェクトの [分析] タブから行うのと同じ方法で、[回答] タブから通貨表示を選択し、通貨換算レートを更新します。詳細は、62 ページの「[通貨の値を変換する](#)」を参照してください。

価格情報を検索する

プロジェクトの [分析] タブから価格情報を検索するときと同じ方法で、[回答] タブから価格情報を検索することができます。詳細は、56 ページの「[価格情報を検索する](#)」を参照してください。

注意 サプライヤがこのアイテムに割り当てられている場合のみ、価格を検索し、これを見積依頼回答で表示することができます。

回答を編集する

サプライヤと交渉を行ったり、または同じアイテムに対してサプライヤから見積を再依頼する場合などは、サプライヤの回答を編集する必要があることもあります。たとえば、回答ラインで変更を指定しながら、リードタイムの短縮やコストの削減を要請することもできます。サプライヤは、再見積を出すか、または前回の見積を維持するかを選択できます。

見積依頼と回答ラインが [ドラフト] 状態にあるとき、回答ラインを編集することができます。その他の状態では、割り当てられたサプライヤのみが回答ラインを編集できます。

回答ラインをロックするには:

1. 見積依頼の [回答] タブで、ロックする回答の行を選択します。
2. [回答]>[回答ラインのステータス変更]>[ロック] を選択します。

回答をロックすると、回答ラインを編集することができます。

回答ラインを編集するには:

1. 見積依頼の [回答] タブで、編集するロック状態の回答ラインの行を選択します。
2. [回答]>[編集] の順に選択します。[回答入力フォーム] が表示されます。詳細は、85 ページの「[回答入力フォーム](#)」を参照してください。
3. 必要に応じて情報を編集します。
4. 複数の回答ラインを選択した場合は、 をクリックするか、または [完了] をクリックします。

注意 [選択したすべての回答に適用する] チェックボックスを選択している場合、[保存して次のアイテムへ移動] ボタンはグレーで表示されます。

注意 複数の回答ラインを選択した場合、[回答入力フォーム] ページの [移動] をクリックして、すべてのアイテムの回答情報を選択および編集することができます。

[回答] タブで、編集した回答ラインの [ソース] 列に、「ソーシング マネージャにより編集済み」と表示されます。これは、この回答ラインが編集されたことを示します。

回答入力フォーム

これは動的な入力フォームで、必要な計算が即座に実行されます。たとえば、[マテリアル価格] フィールドに数値を入力し、それを他の数値に変更すると、[マテリアル価格合計] の値は即座に変更されます。

Response Entry Form

RFQ
RFQ00261

Item 1 of 2 BL1458-01 Go To... < > Cancel Finish

For each response line, fill out the form below. Click the View link at the top right to see the list of responses in a table view. From the table view, you can access item-level attachments, comments, and costed BOM views. Click the Go To... button to jump directly to another response line.

Apply to all the selected response lines

Number: BL1458-01
Description: SPRING STYLUS - SLV
Rev:
Manufacturer: BELKIN
Commodity:
UOM:
Bid Decision: Bid
Currency: USD (United States Dollar)
Inventory Available: 200
Valid Until: 07/26/2007 12:00:00 AM BST
Attachment: No

	Cost Category	Quantity/Break1
<input checked="" type="checkbox"/>	Recurring Costs	Quantity: 1 Target Cost: 3,000
<input checked="" type="checkbox"/>	Total Material Price	3,000
	Material Price:	3,000
Total Non-Material Price		

Item 1 of 2 BL1458-01 < > Cancel Finish

このフォームには、次の 3 つのチェックボックスがあります。

- 選択したすべての回答に適用する – これを選択すると、現在のアイテムに対して入力したデータ（出荷可能な在庫数、マテリアル価格、有効期限日など）は、編集用に選択したすべての他の回答ラインに対して適用されます。
- [コスト カテゴリ] の左にあるチェックボックスは、すべての価格フィールドの選択または選択解除に使用します。これは、[すべての価格フィールドをチェック] チェックボックスともいいます。
- 価格フィールドのそれぞれ ([マテリアル価格] など) にチェックボックスがあります。[すべての価格フィールドをチェック] チェックボックスを選択している場合、値をその他の回答ラインには適用しない価格フィールドを選択的に選択を解除することができます。

[すべての価格フィールドをチェック] チェックボックスが未選択、または [価格詳細] のすべてのチェックボックスが未選択で、[選択したすべての回答に適用する] チェックボックスが選択されている場合、[出荷可能な在庫数] などの他のすべての値は、残りの回答ラインに適用されます。

この機能は、複数の価格詳細属性を持つ多数の回答ラインを編集する必要がある場合に役に立ちます。

回答ラインを事前に見積済として設定する

事前見積回答ラインは、すでに公表された価格や既存の契約価格などを使用しているため、サプライヤからの見積は不要です。見積済に対し回答ラインを設定する場合、これらが新たな見積のためにサプライヤに送信されることはありません。

回答ラインを事前に見積済として設定するには:

1. 見積依頼の [回答] タブで、事前見積として設定する回答ラインの行を選択します。
2. [回答] > [回答ラインのステータス変更] > [事前見積に設定] を選択します。

見積を再依頼する

アイテムに関する見積を再度提出するよう、サプライヤに交渉することができます。

見積を再依頼するには:

1. 見積依頼の [回答] タブで、見積再依頼が必要な回答の行を選択します。
2. [回答] > [回答ラインのステータス変更] > [ロック] を選択します。
3. [回答] > [編集] の順に選択します。[回答入力フォーム] ウィンドウが表示されます。詳細は、85 ページの「[回答入力フォーム](#)」を参照してください。
4. 複数の回答ラインを選択した場合は、 をクリックするか、または [完了] をクリックします。
5. [選択したすべての回答に適用する] チェックボックスを選択すると、現在のアイテムの価格および条件情報を、選択したすべての回答ラインに対して使用できます。(オプション)
6. [回答] > [回答ラインのステータス変更] > [見積再依頼] を選択します。

注意



アイコンは、見積再依頼の回答ラインを示します。

見積再依頼のステータスを表示する

アイテムの見積再依頼のステータスは、見積依頼の [回答ステータス] タブで確認できます。[サプライヤ回答ステータス] セクションの [オープン状態の見積再依頼] フィールドに、サプライヤがまだ回答していない見積再依頼数が表示されます。

見積再依頼のステータスを表示するには:

1. 見積依頼を開きます。
2. [回答ステータス] タブを選択します。

[見積依頼ステータス] セクションの [見積再依頼] の欄で、見積再依頼の合計数を確認することができます。また、[サプライヤ回答ステータス] セクションの [オープン状態の見積再依頼] の欄でサプライヤからの回答待ちの見積再依頼数を確認できます。

顧客、部品分類、サプライヤを管理する

扱うトピックは次のとおりです。

■ 外部組織と提携する	87
■ 顧客とサプライヤの管理に必要な役割.....	87
■ 顧客を管理する	88
■ 部品分類を作成する	90
■ サプライヤを管理する	92
■ [PSR] タブを使用する.....	100

外部組織と提携する

組織には、会社、部署、部門、グループ、チームなどがあります。これらの組織は、ソーシング、品質管理、設計などのビジネス プロセスに関与し、プログラムの各段階や活動全体にかかわりを持ちます。組織の管理は、自社組織以外の組織（顧客、サプライヤ、パートナーなど）に対しても行うことが可能です。

競争の激化に伴い、製品のライフサイクルが短くなっている一方で、顧客は質の高い製品を納期どおりに最小のコストで入手することを求めています。Agile では、複数の組織が関与する以下のビジネス プロセスを効率的にサポートしています。

- 顧客のために価格見積とソーシング提案を入手する。
- 見積依頼を送信して、サプライヤから価格見積を取得する。
- 顧客から報告される品質問題を把握する。
- サプライヤが提供する部品またはサービスに起因する品質問題を報告する。

作業を開始する前に

この章の内容は、製品サービス依頼 (PSR) を使用して問題レポートと不具合レポート (NCR) を管理する処理について知識があることを前提としています。製品サービス依頼の詳細は、『Product Quality Management ユーザー・ガイド』を参照してください。

顧客とサプライヤの管理に必要な役割

ユーザーが顧客とサプライヤを管理する際に、次の役割が必要となります。

- 組織マネージャ - 顧客とサプライヤを作成し、管理します。
- サプライヤ管理者 - 組織のプロファイル、ユーザー、RFx 送付、およびサプライヤ組織のライン カードを管理します。
- 適合性管理者 - サプライヤへのマテリアル デクラレーションの送付を担当します。また、PG&C オブジェクトを作成および管理し、PG&C レポートを実行します。

役割と権限の詳細は、『Agile PLM 管理者ガイド』を参照してください。

顧客を管理する

顧客とは、会社の得意先のことです。顧客には、製品サービス依頼 (PSR)、品質変更依頼 (QCR)、ソーシングプロジェクトと見積依頼、および価格を関連付けることができます。ユーザーは、Agile SDK またはインポートツールを使用して、CRM システムからインポートできます。

顧客を作成する

顧客を作成するには、適切な権限が必要です。その権限は組織マネージャの役割に含まれています。顧客は、他の Agile PLM オブジェクトと同じように作成できます。[新規オブジェクト] ボタン、[作成] アイコン、または [名前を付けて保存] 機能を使用してください。

Java クライアントで顧客オブジェクトを作成するには:

1. [新規オブジェクト]  ボタンをクリックします。
[新規] ダイアログ ボックスが開きます。Agile PLM では前回作成したオブジェクトのタイプが記憶されており、[タイプ] フィールドには、前回のタイプが表示されます。
2. [タイプ] リストから顧客タイプを選択します。
3. [顧客番号] フィールドで番号を入力するか、[自動採番]  ボタンをクリックしてシステムにより生成される番号を入力します。
4. [顧客名] フィールドに名前を入力します。[OK] をクリックします。顧客が作成され、[一般情報] タブが表示されます。
5. そのタブのフィールドにデータを入力します。[顧客名] および他のフィールドの詳細は、89 ページの「[顧客のフィールドと属性](#)」にある、顧客の [一般情報] タブ フィールド テーブルを参照してください。

ファイルや URL は、[添付ファイル] タブで顧客に添付できます。ファイルを添付するには、[フォルダ参照の追加] アイコンの横の下矢印をクリックして、[ファイル追加] をクリックします。URL を添付するには、[フォルダ参照の追加] アイコンの横の下矢印をクリックして、[URL の追加] をクリックします。

Java クライアントで、[名前を付けて保存] 機能を使用して顧客オブジェクトを作成するには

1. 開いている顧客のウィンドウ内の任意の場所で右クリックして、[名前を付けて保存] を選択します。
[名前を付けて保存] ダイアログ ボックスが表示されます。[タイプ] と [顧客番号] フィールドには、元の顧客で表示されていたデータが Java クライアントにより自動入力されます。
2. 必要に応じて、[タイプ] リストから他の顧客タイプを選択します。[OK] をクリックします。顧客が作成されます。
3. 必要に応じてフィールドの情報を変更することができます。[顧客名] および他のフィールドの詳細は、89 ページの「[顧客のフィールドと属性](#)」を参照してください。

Web クライアントで顧客オブジェクトを作成するには

1. メイン ツールバーから [作成]>[顧客] の順にクリックします。[作成 (顧客)] ウィンドウが表示されます。
2. ドロップダウン リストから顧客タイプを選択します
3. [番号] フィールドで番号を入力するか、[自動採番] 123 ボタンをクリックしてシステムにより生成される番号を取得します。
4. [顧客名] フィールドに名前を入力します。[続行] をクリックします。[顧客作成ウィザード] の [タイトル ブロック情報の入力] ページが表示されます。
5. そのページのフィールドにデータを入力します。これらのフィールドの詳細は、89 ページの「[顧客のフィールドと属性](#)」を参照してください。
6. [次へ] をクリックして、[添付ファイルの追加] ページを表示します。または、[完了] をクリックして顧客を作成すると、その顧客の [一般情報] タブが表示されます。

ファイルや URL は、[添付ファイル] タブで顧客に添付できます。ファイルを添付するには、[追加]>[ファイル] の順にクリックします。URL を追加するには、[追加]>[URL] の順にクリックします。追加する既存の添付ファイルを検索することもできます。

Web クライアントで、[名前を付けて保存] 機能を使用して顧客オブジェクトを作成するには:

1. 開いている顧客オブジェクト ウィンドウで、[アクション]>[名前を付けて保存] の順に選択します。[名前を付けて顧客を保存...] ページが表示されます。
2. [顧客番号] フィールドで番号を入力するか、[自動採番] 123 ボタンをクリックしてシステムにより生成される番号を入力します。
3. 新しい [顧客名] を入力します。
4. [保存] をクリックします。Web クライアントにより顧客が作成され、顧客の [一般情報] タブに表示されます。

Java クライアントでは、顧客ウィンドウの下部に表示される以下のボタンを使用できます。

- [保存] ボタンをクリックすると、アクティブなウィンドウのフィールドに加えられた変更が保存されます。
- [更新] ボタンをクリックすると、ウィンドウが更新され、Agile データベースの最新の情報が表示されます。
- [閉じる] ボタンでアクティブなウィンドウを閉じます。

Web クライアントで顧客の一般情報を編集するには、顧客ページの [一般情報] タブにある [編集] ボタンを使用します。

顧客のフィールドと属性

次の表で、Web クライアントの顧客の [一般情報] タブにあるフィールドについて説明します。

フィールド	入力方法	内容
顧客番号	作成時に番号を入力するか、[自動採番] ボタンを使用します。顧客は、この番号で識別されます。(必須)	顧客の作成時に顧客に割り当てる番号。自動採番を適用することもできます。
顧客タイプ	手動 (必須)	顧客タイプのドロップダウン リスト
顧客名	手動 (必須)	顧客の名前

フィールド	入力方法	内容
説明	手動	顧客の説明。最大バイト数は Agile 管理者が設定します。スペースと改行 (改行は 2 バイト) を含め、1023 バイトまでの入力が可能です。
D-U-N-S 番号	手動	業界標準のデータ ユニバーサル ナンバリング システム (DUNS) の番号
アドレス	手動	顧客の住所
市町村	手動	顧客の住所の市町村区名
郵便番号	手動	顧客の郵便番号
担当者	手動	顧客側の連絡担当者名
電子メール	手動	顧客の電子メール アドレス
電話	手動	顧客の連絡先電話番号
ファックス	手動	顧客のファックス番号
URL	手動	顧客の Web サイトの URL
ライフサイクル フェーズ	手動	顧客のライフサイクル フェーズ。たとえば、このライフサイクル フェーズでは [アクティブ] または [停止] です。

顧客を編集する

作成した顧客は、いつでも表示して顧客情報を編集できます。

顧客を編集するには

1. 編集する顧客を開いて、[一般情報] タブを表示します。
2. Web クライアントでは、[編集] ボタンをクリックして、目的のフィールドのデータを入力します。
Java クライアントでは、フィールドの情報を適宜変更します。
詳細は、89 ページの「[顧客のフィールドと属性](#)」を参照してください。
3. 入力が完了したら、[保存] をクリックします。

顧客については、変更管理が行われません。必要な権限を持つユーザーは顧客をいつでも編集できます。変更是ただちに有効になります。

部品分類を作成する

[部品分類] を使用すると、ユーザーはソーシングと分析プロセス用に部品を分類できます。[部品分類] は、アイテム (部品とドキュメント) に関連付けられており、部品分類コードは、アイテムの承認済み製造元リスト (AML) の一部を構成します。このコードによって、類似したアイテムをグループ分けすることができます。各アイテムを部品分類と関連付けることにより、ユーザーは部品分類に基づいてサプライヤに見積依頼を配布することができます。

[部品分類] はアクティブまたは停止にすることができます。その他の Agile PLM ビジネス オブジェクトとは異なり、部品分類にはワークフローがありません。単純にアイテムのグループを分類するために使用されます。

会社が Product Governance & Compliance (PG&C) ライセンスをお持ちの場合、部品分類を使用して、部品ファミリに対する規制されたサブスタンスの情報を収集することができます。PG&C において [部品分類] を使用するための詳細は、別途『Product Governance & Compliance ユーザー・ガイド』をご覧ください。

Web クライアントを使って部品分類を作成することができます。Java クライアントでは部品分類を検索することができますが、作成はできません。

注意 部品分類を作成するには、部品分類に対する [作成] 権限が必要です。権限がない場合は、Agile 管理者にお問い合わせください。

Web クライアントで部品分類を作成するには:

1. グローバル メニュー バーで [作成] > [部品グループ] の順に選択します。[部品グループの作成] ウィンドウが表示されます。
2. [タイプ] リストで、[部品分類] を選択します。部品グループ サブクラスの他のタイプも使用できます。
3. 省略することのできる、固有の部品分類名を指定します (たとえば、「Translator」は「Trans」など)。この名前で大文字と小文字は区別されません。[続行] をクリックします。[部品分類作成] ウィザードが表示されます。
4. 説明などの一般情報を入力します。[ライフサイクル フェーズ] フィールドが「アクティブ」に設定されていることを確認します。重量フィールドはオプションです。Product Governance & Compliance にのみ関連しています。[完了] をクリックします。
新しい部品分類が、[一般情報] タブとともに表示されます。
5. 他のタブをクリックして、部品分類に関する情報をさらに追加します。

[部品分類] タブ

部品分類には次のタブがあります。

- 一般情報 - 部品分類に関する一般情報を提供します。
- 部品 - この部品分類カテゴリに属する部品を表示します。
- 適合性 - 部品分類の含有基準および組成を表示します。
- 添付 - この部品分類を供給しているサプライヤを表示します。
- 添付ファイル - この部品分類の添付ファイルを表示します。
- 履歴 - 部品分類に関連しているイベント履歴を表示します。

注意 [適合性] タブは、Product Governance & Compliance (PG&C) でのみ使用されています。会社が PG&C ライセンスを所有していない場合、このタブは表示されないことがあります。

アイテムを部品分類に関連付ける

部品分類の [部品] タブには、これに関連付けられたすべてのアイテムが表示されます。部品分類により見積依頼が配布されたときに、サプライヤがどの部品を見積もるべきかを決定する上で、部品分類とアイテムの間の関連性は非常に重要です。

注意 [部品] の [タイトル ブロック] タブで、[部品ファミリ] または [部品分類] 属性は、この部品が関連付けられている部品グループを示しています。これらの属性のどれかを有効にできます。どちらも読み取り専用です。

Web クライアントでアイテムを部品分類に関連付けるには:

1. 処理する部品分類を開いて、[コンテンツ] タブに移動します。
2. [追加] をクリックします。[コンテンツ追加ウィザード] ウィンドウが開きます。
3. 既存のアイテムを検索し、[結果] からアイテムを選択し、それらを [選択済み] セルに移動して部品分類に関連付けます。[OK] をクリックします。
4. [警告およびエラー] ウィンドウが表示され、[新しく追加された行を編集します] ページが表示されます。
5. 検索結果が出たら、部品分類に関連付けるアイテムを選択し、[次へ] をクリックします。[情報] ページが表示されます。
6. [情報] ページでは、各アイテムに対する換算係数を入力します。換算係数はオプションです。これは、PG&C にのみ関連があります。[完了] をクリックしてください。

サプライヤを管理する

組織管理者は、組織の PSR をチェックインし、グローバルなサプライヤ グループをセットアップします（このグループは、適切な役割を持つユーザーが活用できます）。ユーザーは、顧客のために価格見積や価格提案を入手し、見積依頼を送付してサプライヤから価格見積を入手できます。

PCM サプライヤ組織の管理に関する情報は、『管理者ガイド』の Product Cost Management の設定に関する章を参照してください。

サプライヤ タイプ

サプライヤとして次の 5 種類が用意されていますが、別のサプライヤを Agile PLM システムに追加することもできます。

- 部品メーカー - 単体の部品またはコンポーネントを販売します。
- 受託製造業者 - 製品の製造元です。ただし、自社で技術設計を行っているとはかぎりません。
- ディストリビュータ - 製品を購入して再販します。
- メーカー代理店 - 製造元の顧客向け直営代理店です。
- ブローカー - 取引先パートナーに対して製品とサービスの供給を担当します。

パートナーとサプライヤ

供給者になれるのは、パートナーまたはサプライヤです。パートナーは、見積依頼のアイテムの完全な部品構成表 (BOM) を受け取りますが、サプライヤが受け取るのは割り当てられた部品に関してのみです。パートナーは Agile 管理者によって作成されます。管理者は、サプライヤ グループも作成することができ、ユーザーは見積依頼プロセスにおいて簡単に複数のサプライヤを選択することができます。

サプライヤのライフサイクル フェーズ

サプライヤのライフサイクル フェーズは、「アクティブ」または「停止」です。

ステータス	説明
アクティブ	サプライヤは現在アクティブで、見積依頼を受け取ることができます。
停止	サプライヤは現在アクティブではありません。このステータスのサプライヤを、新規の見積依頼や価格オブジェクトに対して指定することはできません。

サプライヤを作成する

[サプライヤ作成] ウィザードを使用してサプライヤ会社を作成します。

Web クライアントでサプライヤを作成するには:

- グローバル メニュー バーで [作成]>[サプライヤ] の順に選択します。[サプライヤ作成] ウィザードが表示されます。
- [サプライヤ タイプ] リストで、[プローカー]、[部品メーカー]、[受託製造業者]、[ディストリビュータ]、または [メーカー代理店] を選択します。すべての必須フィールドがサプライヤ作成ウィザードに表示されます。
- サプライヤの一意な番号と名前を指定します。[次へ] をクリックします。
- ユーザー設定フィールドの詳細を含む一般情報を入力します。
93 ページの「[サプライヤのフィールドと属性](#)」に、ウィザードの次に開くページのフィールドに関する説明があります。[次へ] をクリックしてコンタクト ユーザーを追加します。[完了] をクリックすると、開いているのがどのページの場合でも、この操作を終了できます。新規に作成したサプライヤは、[一般情報] タブに表示されます。
- 他のタブをクリックして、サプライヤに関する情報をさらに追加します。詳細は、この章の関連セクションを参照してください。
- [添付ファイル] タブでは、作成するサプライヤにファイルや URL を添付できます。ファイルを添付するには、[追加]>[ファイル] の順にクリックします。URL を添付するには、[追加]>[URL] の順にクリックします。添付ファイルの追加が完了したら、[完了] をクリックします。

サプライヤのフィールドを編集するには、[編集] ボタンをクリックします。一部のフィールドの内容は編集できない場合があります。

サプライヤのフィールドと属性

サプライヤの情報も、他の Agile オブジェクトの場合と同様に、一連のタブに表示されます。各タブには、そのサプライヤに関する情報や関連する情報が含まれます。

注意 管理者によって一部のタブが使用不可に設定されている場合もあります。

[一般情報] タブには、デフォルトで、次の表に示すフィールドが含まれます。Agile 管理者は [一般情報] タブに独自のクラスおよびサブクラス フィールドを追加することができます。

フィールド	説明
名前	サプライヤの名前。
サプライヤ タイプ	<p>次のいずれかのサプライヤ タイプを示します (この値は自社で設定可能です)。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 部品メーカー □ 受託製造業者 □ プローカー □ ディストリビュータ □ メーカー代表者
ライフサイクル フェーズ	<p>サプライヤが「アクティブ」か「停止」かを示します。</p> <p>注意: アクティブな [サプライヤ] だけが、製品ソーシング活動に参加することができます。</p>
番号	作成時に割り当てるサプライヤ番号
DUNS	業界標準のデータ ユニバーサル ナンバリング システム (DUNS) の番号
表示名	表示名を示します。
説明	サプライヤを説明するテキスト。最大長は Agile 管理者により設定されます。
Web サプライヤ	サプライヤが Web クライアントにログインするかどうかを示します ([はい] または [いいえ])。[いいえ] の場合は、オフラインで連絡が行われます。
会社通貨	この会社のデフォルトの通貨。見積依頼は、デフォルトでは、割り当てられた会社通貨で回答されます。サプライヤ ユーザーは独自のデフォルト通貨を設定できます。
アドレス	アドレス
市町村	市町村
郵便番号	郵便番号
電話	電話番号
ファックス	ファックス番号
URL	サプライヤの Web サイトの URL
コンタクト ユーザーの最大数	このサプライヤに対して作成可能なサプライヤ ユーザーの最大数
ライセンスのあるコンタクト ユーザーの最大数	同時使用ユーザー ライセンスを割り当て可能なサプライヤ ユーザーの最大数
パワー コンタクト ユーザーの最大数	パワー ユーザー ライセンスを割り当て可能なサプライヤ ユーザーの最大数

[一般情報] タブのボタン

[一般情報] タブには、次のボタンがあります。

- [編集] - [一般情報] タブが編集モードでない場合に表示されます。[一般情報] タブを編集するには、[編集] をクリックします。

- ▣ [保存] - [一般情報] タブが編集モードの場合に表示されます。編集モードで行ったタブに対する変更を保存するには、[保存] をクリックします。
- ▣ [キャンセル] - [一般情報] タブが編集モードの場合に表示されます。編集モードで行ったタブに対する変更を元に戻すには、[キャンセル] をクリックします。

以下のセクションでは、その他のタブについて説明します。

サプライヤの識別

組織が、同じ名前を持つ複数のサプライヤを持つ場合があります。システムでは、すでに存在するサプライヤの名前を付けることができ、独自の ID 番号で内部的に区別されます。ただし、ユーザーが、同一のサプライヤ名のリストから目的のサプライヤを区別することは容易ではありません。

Agile PLM 9.2.2.2 では、サプライヤのリストの名前の横に、括弧で囲んだ ID 番号が表示されます。ソーシング プロジェクトの [回答] および [分析] タブ、サプライヤ回答のエクスポート ファイル、およびサプライヤの検索結果でこれを確認できます。

サプライヤ リストを昇順または降順でソートすると、最初にサプライヤ名、次にサプライヤ番号でソートされます。

たとえば、Agile1 (SJ001)、Agile1 (AG015)、Agile1 (sup001)、および Agile1 (A0001) というサプライヤがリストにある場合、昇順ソートでは次のように表示されます。

Agile1 (A0001)

Agile1 (AG015)

Agile1 (SJ001)

Agile1 (sup001)

連絡先ユーザーを追加する

[連絡先ユーザー] タブは、どのユーザーが Agile PLM にログインし、サプライヤを代表することができるかを決定します。サプライヤ ユーザーには、見積依頼の回答を行うための、Agile PLM に対する制限付きの権限があります。

Web クライアントで新規サプライヤ ユーザーを作成するには:

1. サプライヤを開き、[連絡先ユーザー] タブをクリックします。
2. [ユーザーの作成] をクリックします。
3. [ユーザーの作成] ウィンドウが表示されます。
4. ユーザー名を入力します。ログイン パスワードを入力し、再入力します。
5. ユーザー詳細 (名、姓、および電子メール) を入力します。
6. [完了] をクリックします。[ウィザードで作成を継続] をチェックしている場合は、[続行] をクリックします。[ユーザーの作成] ウィンドウの [[一般情報] タブの情報を入力] ページが表示されます。必須 フィールド (太字で表示) を入力し、[次へ] をクリックします。

[ステータス] フィールドが [アクティブ] に設定されていることを確認してください。以下に変更を考慮すべき他のフィールドを示します。

- 役割 - ユーザーの役割割り当て。このプロパティにより、ディスカバリ ポイント以降から Agile PLM 内のオブジェクトへのユーザー アクセスが決定されます。

- ユーザー カテゴリ - Agile PLM には、3 つのタイプのユーザー ライセンスがあります。[パワー]、[同時接続]、[制限付き] です。制限付きユーザーは社外（サプライヤなど）の担当者で、Agile PLM システムへの限定アクセスを指定されています。パワー ユーザーは同時接続のカウントに制約されないため、いつでもログインできます。[制限付きユーザー] および [パワー ユーザー] は見積依頼に回答することが可能ですが、レポートを生成および表示できるのは [パワー ユーザー] のみです。
- 拠点とデフォルトの拠点 - 拠点は分散型製造の場合に使用され、ユーザーが関与している会社の場所すべてを示します。[デフォルトの拠点] は、ユーザーの本拠地です。
- 認定出荷先とホーム出荷先 - [認定出荷先] は、ユーザーがソーシング活動を開始することのできる会社の場所すべてを示します。[ホーム出荷先] は、ユーザーがソーシング活動の責任者となる主な場所です。

ユーザー詳細の設定が完了したら、[次へ] をクリックします。[コンタクト ユーザーの追加] ページが表示されます。

7. [システム プリファレンス]、[フォーマット プリファレンス]、[表示プリファレンス] を指定します。[完了] をクリックして、連絡先ユーザーを作成します。

既存の PC サプライヤを Web クライアントの PCM サプライヤとして追加するには:

1. 目的の制限付きサプライヤ役割をユーザーに割り当てます。
2. サプライヤをオープンします。

注意 パワー ユーザーは、[パワー コンタクト ユーザーの最大数] フィールドがサプライヤの [一般情報] タブで 0（または、空欄）以外の値に設定されている場合のみ [連絡先ユーザー] タブに追加できます。それ以外の場合、[制限付き] ユーザー ライセンスを持つユーザーのみをサプライヤに割り当てることができます。

3. ユーザーを検索し、それをサプライヤの [コンタクト ユーザー] タブに追加します。
4. 適用可能な場合は、[RFx 送付] タブで、ユーザーを [デフォルトの受取者] として選択します。
5. ユーザー プリファレンスの下の表示プリファレンスでは、[回答編集モード] が [詳細ウィザード編集] または [詳細テーブル編集] に変更されます。

注意 [回答編集モード] が [基本] に設定されている場合、ユーザーは PC 関連のタスクにアクセスできません。

既存のユーザーを Web クライアントのサプライヤに追加するには

1. サプライヤを開き、[連絡先ユーザー] タブをクリックします。
2. [ユーザーの追加] をクリックします。
- [单一値選択] ウィンドウが表示されます。
3. 名、姓、ユーザー名で既存のユーザーを検索します。

注意 パワー ユーザーは、[パワー コンタクト ユーザーの最大数] フィールドがサプライヤの [一般情報] タブで 0（または、空欄）以外の値に設定されている場合のみ [連絡先ユーザー] タブに追加できます。それ以外の場合、[制限付き] ユーザー ライセンスを持つユーザーのみをサプライヤに割り当てることができます。

4. 1 人のユーザーを選択して、[OK] をクリックします。
- [連絡先ユーザー] タブにユーザーが表示されます。

RFx 送付のルールを作成および変更する

[RFx 送付] タブでは、どのサプライヤ担当者がどの見積依頼を担当するかが定義されます。見積依頼に回答する担当者は、出荷先の場所で指定します。これらの送付ルールは地域情報に基づきます。

送付ルールを指定する場合は、サプライヤの連絡先ユーザーを地域情報に関連付けます。その連絡先ユーザーは、指定された地域に出荷先が含まれる見積依頼を担当することになります。地域情報は、「大陸」、「国」、および「地域」で定義されます。ルールは、大陸別や地域別というように幅広く指定できます。

サプライヤの作成時には、最初に追加する連絡先ユーザーが見積依頼のデフォルトの受取者になります。デフォルトの受取人は、送付ルールに基づいて送信されなかった見積依頼を受け取ります。デフォルトの受取人はいつでも変更できます。

新規の送付ルールを追加するには:

1. [RFx 送付] タブで、デフォルトの受取者を選択します。[作成] ボタンをクリックします。[見積依頼ルーティングの追加] ウィザードが表示されます。
2. 大陸、国、都道府県/州/地域、および所有者を指定し、連絡先ユーザーに地域情報を関連付けて、[完了] をクリックします。

ルールを編集するには:

1. 変更する送付ルールを [RFx 送付] タブで選択します。[編集] ボタンをクリックします。
2. 必要な箇所を変更します。[RFx 送付] タブに対して編集モードで行った変更を保存するには、[保存] をクリックします。[RFx 送付] タブに対して編集モードで行った変更を元に戻すには、[キャンセル] をクリックします。

ルールを削除するには:

1. 削除する送付ルールを選択します。
2. [RFx 送付] タブの [削除] ボタンをクリックします。送付ルールを削除するかどうかを確認するメッセージが表示されます。送付ルールを削除するには、確認メッセージに対して [OK] をクリックします。

デフォルトの受取者を変更するには:

1. [RFx 送付] タブの [デフォルトの受取者] フィールドの  ボタンをクリックします。
2. [ユーザーの選択] ウィンドウが開きます。デフォルトの受取者を選択して、[OK] をクリックします。新しいデフォルトの受取者が [RFx 送付] タブの [デフォルトの受取者] フィールドに表示されます。

製造元および部品分類提示を定義する

各サプライヤはそれぞれ異なる製造元と部品提示を持つことができます。

- [製造元提示] は、サプライヤ保有するグッズの製造元を、それらの製品を調達できる特定の地理的場所へマッピングします。サプライヤはこの方法で、特定の地域に提供できる製品の製造元を示すことができます。たとえば、ACME という名前のサプライヤが Motorola と Kemet の製品を販売している場合があります。
- [部品分類提示] は、サプライヤが販売する製品カテゴリを定義します。たとえば、ACME という名前のサプライヤが、ヒューズ、IC、レジスタなどの商品を販売している場合があります。部品分類提示は、1 つのサプライヤが保持する各部品分類を、それらの製品が調達できる特定の地域にマッピングします。

製造元と部品分類提示は、ユーザーが指定する条件に基づきフィルタリングすることができます。たとえば、特定の地域に関する提示のみを見たい場合もあります。

製造元と部品分類提示の格付けは、どのサプライヤが見積依頼を受信するかを決定します。Agile PLM で提供されているデフォルトのサプライヤ格付には次のようなものがあります。

- 承認済み
- 推奨
- 未承認 (提示可)
- 提供 - 無効

注意 Agile PLM 管理者は、サプライヤ格付を追加して定義することができます。サプライヤの格付には順序はありません。見積依頼を配布する際は、複数のサプライヤ格付を選択することができます。

新規製造元提示を作成する

[製造元] タブで製造元提示を作成する場合は、その提示に関する一般情報を指定できます。製造元ラインカードは、製造元、サプライヤ、出荷先場所の固有の組み合わせで定義されます。サプライヤは、1 つの製造元に対して複数のラインを設定し、それぞれのラインに別々の出荷先を関連付けることができます。製品が調達できる地域に変更がある場合、サプライヤ管理者は、サプライヤ組織の製造元ラインカードを編集できます。

Web クライアントで、新規の製造元提示を作成するには:

1. 処理するサプライヤを開いて、[製造元] タブをクリックします。
2. [作成] ボタンをクリックします。

製造元提示の作成ウィザードが開き、最初の [製造元提示の定義] ページが表示されます。

3. [製造元名] で、 ボタンをクリックし、1 つ、または複数の製造元を選択します。製造元を検索し、選択したら、[完了] をクリックして [製造元提示ウィザードの作成] へ戻ります。
4. [定義方法] については、該当するラジオ ボタンを選択して、地域と出荷先のどちらに基づいて提示を作成するか指定します。
5. [定義方法] で [所在地] を選択した場合、[大陸]、[国/地域]、[都道府県/州/地域] のとなりの  ボタンをクリックし、地理的範囲を選択します。地理的範囲に含まれるすべての地域を含むには、[すべて] のボックスをチェックします。
6. [定義方法] で [出荷先] を選択した場合、[出荷先] のとなりの  ボタンをクリックし、場所を選択します。
7. サプライヤの格付を選択します（「承認済み」や「提供 - 有効」など）。
8. [完了] をクリックして操作を終了します。新しい製造元ラインカードの定義がリストに表示されます。

新規部品分類提示を作成する

サプライヤの [部品分類] タブから、サプライヤに対する部品分類提示に関する情報を指定することができます。部品分類ラインカードは、部品分類、サプライヤ、出荷先場所の一意な組み合わせで定義されます。サプライヤは、1 つの部品分類に対して複数のラインを設定して、それぞれのラインに別々の出荷先を関連付けることができます。製品が調達できる地域に変更がある場合、サプライヤ マネージャは、サプライヤ組織の部品分類ラインカードを編集できます。

サプライヤの部品分類提示を指定する前に、Agile PLM システムで部品分類を定義する必要があります。90 ページの [「部品分類を作成する」](#) を参照してください。

Web クライアントで、新しい部品分類提示を作成するには:

1. 処理するサプライヤを開いて、[部品分類] タブをクリックします。
2. [作成] ボタンをクリックします。

[部品分類提示の作成] ウィザードの最初のページである [部品分類提示の定義] ページが表示されます。

3. [部品分類コード] で、 ボタンをクリックし、1 つ、または複数の部品分類を選択します。
4. [定義方法] については、該当するラジオ ボタンを選択して、地域と出荷先のどちらに基づいて提示を作成するか指定します。
5. [定義方法] で [所在地] を選択した場合、[大陸]、[国/地域]、[都道府県/州/地域] のとなりの  ボタンをクリックし、地理的範囲を選択します。地理的範囲に含まれるすべての地域を含むには、[すべて] のボックスをチェックします。
6. [定義方法] で [出荷先] を選択した場合、[出荷先] のとなりの  ボタンをクリックし、場所を選択します。
7. サプライヤの格付を選択します（「承認済み」や「提供 - 有効」など）。
8. [完了] をクリックして操作を終了します。新しい部品分類ラインカードの定義がリストに表示されます。

製造元および部品分類格付を更新する

[製造元] タブと [部品分類] タブの各行には、サプライヤ、製造元または部品分類、出荷先、格付の組み合わせを示しています。格付は、1 行ずつ変更することも複数行を一度に変更することもできます。

注意 製造元または部品分類提示を格付できるのは、[出荷先] の場所が指定され、タイプが [格付] の場合のみです。

Web クライアントで製造元と部品分類格付を更新するには:

1. サプライヤの [製造元] または [部品分類] タブで、テーブル内で更新するラインのチェックボックスを選択します。
2. [格付を更新] をクリックします。[格付を選択] ウィンドウが表示されます。
3. ドロップダウン リストから格付を選択します。更新されたライン カードの定義が新しい格付でリストに表示されます。

[PSR] タブを使用する

顧客の [PSR] タブには、顧客またはサプライヤから報告があったすべての PSR (製品サービス依頼) が表示されます。このタブで、製品に対する顧客の満足度を評価できます。このタブは読み取り専用で、この顧客が PSR に追加されるたびに、タブの情報が自動的に設定されます。

PSR は次の方法で終了する（「完了」ステータスに昇格する）ことができます。

- Agile 管理者は、関連問題点が終了したときに PR (問題レポート) が自動的に終了するようにシステムを設定できます。
- Agile 管理者は、関連する PSR が終了したときに PSR (PR または問題点) が自動的に終了するようにシステムを設定できます。
- 適切な権限を持つ組織マネージャまたはサプライヤ管理者は、手動で PSR を終了できます。

PSR の詳細（開始方法や管理方法など）については、『Product Quality Management ユーザー・ガイド』を参照してください。

変更、ディスカッション、添付ファイル

扱うトピックは次のとおりです。

■ アイテムと回答の変更	101
■ ディスカッション	102
■ 添付ファイル	104

アイテムと回答の変更

ソーシング プロジェクトはアイテム、BOM、AML、見積依頼、回答の知識リポジトリとしての役割を果たす他、これらオブジェクトに関する変更にもかかわっています。プロジェクトのアイテムと回答への変更は、[変更] タブで確認することができます。アイテムと回答に加えられた変更を別々に表示することができ、さらにデータをフィルタリングすることで、追加、削除、変更されたアイテムのみを表示することもできます。

アイテムと回答への変更を行うには、様々な方法があります。

- プロジェクトに含まれる [アイテム マスター] のアイテムについて新しい設計変更 (ECO、MCO、SCO) が提出されたとき。[アイテム マスター] からの情報でプロジェクトを更新しないかぎり、これらの変更は [未適用の変更] となります。
- アイテムの [使用個数] (QPA) を、[アイテム マスター] からの情報で更新するとき。アイテムの説明またはユーザー設定フィールドに対するその他の変更は、[変更] タブに記録されません。
- プロジェクト アイテムを、手動で、または [インポート] ウィザードを使って追加、変更、または削除するとき。
- 見積依頼回答がサプライヤにより提出されたとき。

未適用アイテムの変更を表示するには:

1. プロジェクトを開いて [変更] タブを選択します。
2. [変更] タブのデフォルト表示は [未適用のアイテム変更] です。ECO、MCO、SCO などの未適用の変更はすべて、このテーブルに表示されます。各変更の対象アイテムは、[対象アイテム] の欄に表示されます。

なんらかの理由で、製造部門が特定出力におけるアイテム内容を変更した場合、変更はこの表示に記録されます。ECO、MCO、SCO の詳細にリンクすることができます。変更の詳細を表示したら、プロジェクトを [アイテム マスター] からの最新情報で更新するかどうかを決定します。

アイテムの変更を表示するには:

1. プロジェクトを開いて [変更] タブを選択します。
2. [表示]>[アイテム] を選択して、アイテムの変更を表示します。デフォルトでは、[変更の要約] テーブルと [追加済み] アイテムが表示されます。[変更の要約] テーブルには、プロジェクト内でアイテムに加えられた変更数が表示されます。

3. [この日以降の変更] ドロップダウン リストから日付を選択し、この日付以降のプロジェクト アイテムへの変更を表示します。
4. [追加] をクリックし、[変更済み] または [削除済み] をクリックして、プロジェクトにおける追加、変更、削除済みのアイテムを表示します。

注意 プロジェクトの作成以降に行われた、プロジェクトでのアイテムの変更を表示できます。

回答の変更を表示するには:

1. プロジェクトを開いて [変更] タブを選択します。
2. [表示]>[回答] を選択して、アイテムの変更を表示します。プロジェクトでの回答の変更がテーブルに表示されます。アイテム番号をクリックし、プロジェクト アイテム情報を編集することができます。
3. [この日以降の変更カレンダー] ドロップダウン リストから日付を選択し、選択した日付以降の回答への変更を表示します。

注意 [この日以降の変更カレンダー] から日付を選択して、[回答] テーブルを更新できます。選択した日付以降の変更がテーブルに表示されます。

ディスカッション

サプライヤや顧客と交渉しているとき、形式にとらわれない会話を積み重ねて見積を作成し、プロジェクトや見積依頼に関する問題を話し合い、その他様々な情報を共有することになります。

Agile PLM のディスカッションは、従来の電子メール メッセージ サービスに代わる役割を果たします。ディスカッションには電子メールに似た機能があり、件名行、メッセージ エリア、指定可能なプロパティ、通知リストなどがあります。ディスカッションに対しては電子メールと同じように返信できます。ディスカッションは、受信者の受信トレイに通知として送信されます。ディスカッションに参加できるのは、Agile ユーザーのみです。

[ディスカッション] タブには、返信数、メッセージ、作成者、通知リストなど、各メッセージに関する情報が表示されます。

ディスカッションを追加する

ディスカッションは、様々な用件について追加できます。たとえば、MMY サプライヤが Agile PLM を購入し、あなたは「ウェルカム レター」とともにプロジェクト情報を送信する必要があると想定します。このようなときは、プロジェクト ディスカッションを通して「ウェルカム レター」を送信することができます。プロジェクトには、いくつでもディスカッションを追加できます。

ディスカッションを追加するには

1. プロジェクトを開いて [ディスカッション] タブを選択します。
2. [追加] をクリックします。[ディスカッションの追加ウィザード] が表示されます。
3. [作成] ボタンを選択し、ドロップダウン リストからディスカッション タイプを選択します。
4. [次へ] をクリックします。[一般情報の入力] ページが表示されます。
5. [件名] フィールドに件名を入力します。
6. [メッセージ] フィールドにディスカッションのテキストを入力します。

7. [優先度] のドロップダウン リストからメッセージの優先度を選択します。
8. [通知リスト] フィールドのとなりの  ボタンをクリックし、受信者の名前を選択します。
9. [完了] をクリックします。それぞれのサプライヤまたは顧客にディスカッションが通知として送信されます。

ディスカッションに返信する

ディスカッションの返信は電子メールの返信と同じように行います。ディスカッションの通知は受信トレイに送られます。ディスカッションに返信するには、ディスカッション参加者としての役割が割り当てられている必要があります。

ディスカッションに返信するには:

1. ナビゲーション ウィンドウで、受信トレイから [通知と依頼] をクリックします。
2. 受信トレイの [通知と依頼] ページで、[事項] 欄で件名をクリックします。ディスカッションの [カバー ページ] タブが表示されます。
3. [返信] タブを開きます。
4. [追加] をクリックします。[ディスカッションの返信] ウィンドウが表示されます。
5. [メッセージ] フィールドに返信内容を入力します。
6. 受信者リストを変更するには、[通知リスト] フィールドのとなりの  ボタンをクリックします。受信者の名前を選択し、[OK] をクリックします。
7. [保存] をクリックします。

注意 ディスカッションでは、返信の数は制限されていません。プロジェクトの [ディスカッション] タブで、件名のとなりの [+] をクリックし、返信リストを表示します。

ディスカッションを削除する

プロジェクトからディスカッションを削除できるのはプロジェクトの所有者のみです。[制限付き] ディスカッション参加の役割を持っている場合、個別のメッセージ、返信などをディスカッションから削除することができます。

ディスカッションを削除するには:

1. プロジェクトを開いて [ディスカッション] タブをクリックします。
2. 削除するディスカッションのとなりのオプションボタンを選択します。
3. [削除] をクリックします。

注意 ディスカッションを削除すると、その返信もすべて削除されます。

ディスカッション内のメッセージを削除するには:

1. プロジェクトを開いて [ディスカッション] タブをクリックします。
2. ディスカッション件名の左側にある [+] をクリックし、メッセージ リストを展開します。
3. 削除するメッセージのとなりのオプションボタンを選択します。
4. [削除] をクリックします。

添付ファイル

添付ファイルは、プロジェクト、アイテム、変更、その他のオブジェクトに関する情報を含んだ電子ファイルです。どんな形式のファイルでも添付ファイルとして扱うことができます。たとえば、機械装置の青写真 (CAD 図)、フローチャートの構造説明 (MS Word ファイル)、オブジェクトに関するプレゼンテーション ファイル (.PPT、オーディオ、ビデオ) なども添付ファイルとなることができます。Agile は、Agile Viewer を使ってあらゆるタイプのファイルを表示することができます。ファイルをダウンロードするか、またはそのままの場所から表示することができます。

オブジェクトに追加された添付ファイルは、デフォルトでは固有のフォルダに保存されます。同じファイルの別バージョンを追加したり、適切なバージョンを随時表示することもできます。

プロジェクトに関するファイルや URL を、プロジェクトの [添付ファイル] タブで参照することができます。

添付ファイル機能の詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』を参照してください。このセクションでは、ソーシング プロジェクトで添付ファイルがどのように使用されるかについて、簡単な説明をします。

添付ファイルを持つことのできるプロジェクト オブジェクト

プロジェクト自身の他に、プロジェクト内の次のオブジェクトは添付ファイルを持つことができます。

- アイテム
- 製造元部品
- RFQ

添付ファイルを追加する

ほとんどのタイプのファイルを添付できますが、ファイルを表示する側のユーザーは、コンピュータに適切なソフトウェアがインストールされていなければ、添付ファイルを開くことができません。

たとえば、ファイルが Microsoft® Excel (.XLS) ファイルである場合、このファイルを表示するには Microsoft® Excel がコンピュータにインストールされている必要があります。[添付ファイル] タブの情報には、ファイルの説明、名前、バージョン、タイプ、サイズ、そしてファイルが変更されたり、表示された日付も含まれます。

添付ファイルを追加するには:

1. 添付ファイルを追加するオブジェクトを開きます。
2. [添付ファイル] タブを表示します。
3. [追加]>[ファイル追加] をクリックします。[ファイル追加] ウィンドウが表示されます。
4. ファイル名を入力し、ステップ 6 へ進みます。または、[参照] をクリックします。[ファイルの選択] ダイアログ ボックスが表示されます。
5. ファイルを選択し、[開く] をクリックしてファイルをアップロードします。
6. [ファイル追加] ウィンドウの [説明] フィールドで、添付ファイルの説明を入力します。
7. [参照] をクリックし、他のファイルを追加します。
8. [すべてのファイルを 1 つのファイル フォルダに追加] のチェックボックスを選択すると、選択したファイルがすべて 1 つのフォルダに追加されます。
9. [完了] をクリックします。

添付ファイルを表示する

添付ファイルは Agile Web クライアントから表示することができますが、ファイルを自分のコンピュータにダウンロードし、表示や編集を行うこともできます。

Agile Viewer で添付ファイルを表示するには

1. 添付ファイルを表示するオブジェクトを開きます。
2. [添付ファイル] タブを表示します。
3. 表示するファイルの名前をクリックします。Agile Viewer でファイルが開きます。

添付ファイルを保存するには:

1. 添付ファイルを表示するオブジェクトを開きます。
2. [添付ファイル] タブを表示します。
3. ダウンロードする添付ファイルの [取り出し]  ボタンをクリックします。[添付ファイルの取り出し] ウィンドウが表示され、次に [ファイルのダウンロード] ダイアログ ボックスが表示されます。
4. [このファイルをディスクに保存する] を選択し、[OK] をクリックします。[名前を付けて保存] ダイアログ ボックスが表示されます。
5. 場所を選択して、[保存] をクリックします。ファイルが保存されます。

価格情報を管理する

扱うトピックは次のとおりです。

▪ 契約管理について	107
▪ 価格の概要	108
▪ 価格情報を管理する	109
▪ 価格ラインを管理する	112

契約管理について

契約管理は、製品コストを管理するための重要なコンポーネントです。製品コストを効率よく削減するには、組織全体で確立された価格および条件に関する情報を評価し活用することが必要です。Agile PCM では、こうした操作のために、制御された单一プロセスを提供しています。

異なる価格に関する情報は、異なるアイテムに保存することができます。ソーシング プロジェクトから [アイテム マスター] へ価格情報を公表することができます。組織全体における各部門のユーザーは、この情報にアクセスし、アイテムや製造元部品の価格を最終決定する際に使用することができます。価格を最終決定するプロセスの一環として、1 つの会社からの新しい価格情報を別の会社と共有することができます。

たとえば、価格マネージャがあるサプライヤから特定のアイテムに関する価格変更の情報を受けたとします（新たに削減されたアイテム価格）。この価格マネージャは、新しい価格ラインを作成して価格情報を変更し、これをリポジトリに公表し、さらにこれをサインオフのためにワークフローを通して送付します。

ソーシング プロジェクトで次のアクションが実行されると、自動的に価格オブジェクトが作成されます。

- 価格公表 - プロジェクトから [アイテム マスター] へ価格を公表すると、[アイテム マスター] のアイテムと製造元部品に関連した価格オブジェクトを自動的に作成することができます。どのタイプの価格オブジェクトを作成するかを選択します。契約、公表価格、見積履歴などのタイプがあります。[オーサリング] または [レッドライン] モードで価格を公表できます。[レッドライン] モードを使用する場合、PCO を指定しなければなりません。価格公表の詳細は、60 ページの「[アイテムと製造元部品の価格を公表する](#)」を参照してください。
- 見積依頼回答ラインをロックまたは閉じる - 見積依頼で回答ラインをロックまたは閉じると、[見積履歴] オブジェクトを作成することにより、その見積価格のスナップショットが自動的に作成されます。

注意 [見積履歴] が自動的に作成されるかどうかは、[見積履歴の自動公表] のスマートルールがどう設定されているかによります。このスマートルールが [不可] と設定されている場合、見積依頼回答ラインをロックしたり、閉じたりしても、[見積履歴] は自動的に作成されません。スマートルールの詳細は、『管理者ガイド』を参照してください。

価格の概要

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- 価格ルーチンのオブジェクト
- 関連する役割と権限
- 価格タイプ

価格ルーチンのオブジェクト

価格ルーチンは、すべてのアイテムや製造元部品の価格情報のフローを示します。この価格情報はサプライヤが提供します。この情報をそれぞれのアイテムまたは製造元部品へ公表することができます。価格ルーチンには、Agile PCM の 3 つの基本オブジェクトが関連しています。

- 価格
- 価格ライン
- 価格変更 (PCO)

価格

価格は、サプライヤ、顧客、プログラム、製造拠点などとの関連に基づき、アイテムと製造元部品の価格および条件を記録する場所であるオブジェクトです。アイテムや製造元部品に対する価格を作成します。価格は送信可能なオブジェクトですので、ワークフローに従います。価格オブジェクトは複数の価格ラインを持つことができます。新しい PCO を作成することなく、すべての PCO にこれを追加できます。

価格オブジェクトには特定の制限があります。

- 価格オブジェクトは、1 つの保留中 PCO しか持つことができません。価格オブジェクトの PCO がすでに存在し、保留中である場合、同じ価格オブジェクトの PCO を作成することはできません。
- [(制限付き) 価格調整者] の役割はサプライヤ ユーザー用です。[価格調整者] は、そのアイテムと製造元部品の公表価格と PCO のみを作成することができます。

価格ライン

価格ラインには、アイテムや製造元部品に関する主要価格情報が含まれています。主要価格情報の数量、出荷先の場所、有効期間はどれも固有のものです。価格オブジェクト内では必要なだけ価格ラインを作成することができますが、すべてを固有に識別してください。価格ラインには、価格オブジェクトの一般情報が含まれます。

価格ラインには特定の制限があります。

- [価格管理者] または [価格マネージャ] の役割を持つユーザーは、価格オブジェクトの作成についても責任を負うため、価格ラインを作成することができます。
- 価格調整者は、そのアイテムや製造元部品に対してのみ価格ラインを作成することができます。

価格変更 (PCO)

価格変更、つまり PCO は、オブジェクトに関する価格情報を修正または削除するためのプロセスです。PCO は、[プレリミナリ] から [サインオフ] フェーズへのワークフローに従います。PCO は複数の価格オブジェクトを持つことができ、価格はすべての既存 PCO に追加することができます。PCO を使用し、すべての価格オブジェクトの価格ラインをレッドラインすることができます。

PCO の詳細は、115 ページの「[価格変更](#)」を参照してください。

関連する役割と権限

Agile PCM では、3 つの重要な役割を通じて、価格情報を管理することができます。これらの役割の権限は、Agile 管理者により割り当てられます。同じ役割を持つ別々のユーザーには、異なる権限が与えられることもあります。

[契約管理] に関する役割は次のとおりです。

- (制限付き) 価格調整者 - この役割のユーザーは、価格および価格変更の作成を通して、価格情報を管理するための制限付き権限を持っています。この役割は、通常サプライヤに提供されます。
- 価格管理者 - この役割のユーザーは、価格変更プロセスを含む契約管理アクティビティを管理するための権限を持っています。この役割を持つユーザーは、[承認者] とも呼ばれます。彼らは、PCO のレビューやリリース権限も所有しています。
- 価格マネージャ - この役割のユーザーは、価格および価格変更の作成を通して、価格情報を管理するための権限を持っています。これらのユーザーは PCO をレビューまたはリリースできませんので、PCO の承認者にはなれません。

価格タイプ

Product Cost Management での価格は、3 つの異なるタイプに分類されます。

- 契約 - 契約価格とは、特定のアイテムや製造元部品のサプライヤにより提供される価格です。この価格情報は、指定された期間にのみ適用され、すべてのプロジェクトに適用することができます。
- 公表価格 - 公表価格は、見積依頼への回答としてサプライヤにより提供された価格で、プロジェクトから公表されたものです。公表価格情報は、その他のプロジェクトでも使用できます。
- 見積履歴 - 見積履歴価格は、サプライヤの回答からの保存された価格です。見積依頼の回答ラインへの変更はすべて回答履歴に保存され、いつでも使用することができます。

価格情報を管理する

価格情報の管理は、すべての組織にとって非常に重要です。価格管理者は、アイテムの価格について常に注意を払い、[アイテム マスター] でこれを更新します。

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- 価格情報にアクセスする
- 価格を作成する
- [価格] ページタブ

価格情報にアクセスする

各アイテムや製造元部品には、関連付けられた価格情報があります。アイテムから必要なだけ価格オブジェクトを作成することができ、また価格オブジェクトでは必要なだけ価格ラインを作成することができます。これらは、出荷先の場所、数量、有効期間の固有の組み合わせにより認識されます。

アイテムの価格情報にアクセスするには

1. アイテムを開き、[価格] タブを選択します。価格が表示されます（あれば）。
2. 行内の [価格番号] をクリックします。価格の [一般情報] ページがオープンします。詳細を表示するには、[価格ライン] タブに移動します。

価格を作成する

Agile PCM は、プロジェクトから [アイテム マスター] へ価格が公表されたときや、見積依頼回答ラインがロックまたは閉じられたときに、自動的に価格を作成します。また、[価格作成] ウィザードを使用して、アイテムや製造元部品の価格を作成することもできます。

注意 価格を作成するには、価格に対する [作成] 権限が必要です。Agile は、ユーザーの価格作成管理する役割として、[価格管理者] と [価格マネージャ] の 2 つの役割を提供しています。

アイテムの価格を作成するには

1. アイテムを開き、[価格] タブに移動します。
2. [作成] をクリックします。[価格の作成] ウィンドウが表示されます。
3. [価格作成] ウィザードの [サブクラスの選択、名前の識別] ページが表示されます。
4. [価格タイプ] ドロップダウン リストから価格タイプを選択します。選択した価格タイプをもとに、[番号] フィールドに、システム生成の固有の番号が自動的に入力されます。この番号を変更したり、自分で番号を指定できます。または、 をクリックして新しい番号を生成できます。
5. [アイテム/製造元部品] ドロップダウン リストからオブジェクト タイプ ([アイテム] または [製造元部品]) を選択します。
6.  ボタンをクリックし、アイテムまたは製造元部品を [オブジェクトの検索] ウィンドウから検索および選択します。これにより、フィールドには対応する部品番号が入力されます。
[アイテム/製造元部品] で [アイテム] を選択している場合、[リビジョン] ドロップダウン リストが表示され、そこから [初版] などのリビジョンを選択できます。
[アイテム/製造元部品] で [製造元部品] を選択している場合、そのリビジョンはユーザーにより管理できないため、[リビジョン] ドロップダウン リストは表示されません。
7. ドロップダウン リストから [製造拠点] を選択します。
製造拠点を選択した場合、アイテム価格情報は、この拠点で製造されているアイテムまたは製造元部品に対してのみ適用されます。このフィールドが空欄の場合、価格情報は、製造拠点にかかわらず、アイテムや製造元部品に適用されます。
8.  ボタンをクリックして、[サプライヤの識別] ウィンドウから [サプライヤ] を選択します。

価格情報を提出したサプライヤのみを選択することができます。その他のサプライヤの選択はシステムにより許可されません。選択すると、エラー メッセージがポップアップ表示されます。

9. ドロップダウン リストから [プログラム] を選択します。

プログラムを選択すると、アイテム価格情報はこのプログラムに対してのみ適用されます。[すべて] が選択されると、アイテム価格情報はすべてのプログラムに対して適用されます。

10. ドロップダウン リストから [顧客] を選択します。

顧客を選択すると、アイテム価格情報はこの顧客に対してのみ適用されます。[すべて] が選択されると、アイテム価格情報はすべての顧客に対して適用されます。

11. [続行] をクリックします。[タイトル ブロック情報の入力] ページが表示されます。

a. [説明] フィールドに価格に関する説明をすべて入力します。



b. [所有者] フィールドのとなりの ボタンをクリックし、リストから所有者を選択します。



c. [認定サプライヤ] フィールドのとなりの ボタンをクリックし、リストから認定サプライヤを選択します。

d. サプライヤから提供されたアイテムまたは製造元部品の製造中止日を、[部品製造中止日] カレンダーのドロップダウン リストから選択します。

e. [最小発注数量] フィールドで、サプライヤからの最小発注数量を入力します。

f. [発注ロットサイズ] フィールドで、パッケージ内の個数を入力します。

g. [在庫] フィールドで、出荷可能な在庫数を入力します。

h. その他の情報を必要に応じて入力します。

12. [次へ] をクリックします。[価格ラインの追加] ページが表示されます。価格ラインの追加の詳細は、112 ページの「価格ラインを作成する」を参照してください。

13. [次へ] をクリックします。[添付ファイルの追加] ページが表示されます。

14. 必要に応じて添付ファイルを追加し、[完了] をクリックします。添付ファイルの追加の詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』をご覧ください。

[価格] ページタブ

[価格] ページのタブには、価格および条件の属性に関する情報、サプライヤ、顧客、プログラムに関連付けられたアイテムや製造元部品の添付ファイル、およびその他の情報が含まれます。

一般情報	このタブには、価格に関する基本情報が表示されます。これには、ワークフローにより管理されている情報、アイテムおよび製造元部品の属性、サプライヤにより提供された情報などがあります。[編集] をクリックし、このタブの情報を編集します。
------	--

変更	<p>このタブには、価格に影響を及ぼす保留中の変更およびこれまでの変更が表示されます。[対象価格] タブに価格が表示されている未リリースの価格変更是、[保留中の変更] テーブルに表示されます。[変更履歴] テーブルには、この価格が [対象価格] タブにあるリリース済みの PCO が表示されます。Agile PCM は、このタブのデータを自動的に入力します。</p> <p>表示される変更は、このページの上部にある [リビジョン] フィールドで指定されたリビジョンに適用される変更です。</p> <p>注意 名前は類似していますが、[履歴] タブには価格に対して実行されたアクションが表示され、[変更] タブの [変更履歴] テーブルには価格のリリース済み変更とキャンセル済み変更が表示されます。[変更] タブは、価格タイプが [見積履歴] の場合、表示されません。</p>
価格ライン	<p>価格ラインは出荷先の場所、出荷元の場所、有効開始日、有効終了日、価格に適用される数量の固有の組み合わせです。価格は、特定のコンテキストに基づき、複数の価格ラインを持つことができます。</p> <p>ある価格ラインの有効期間の全体または一部が別の価格ラインの有効期間に重なり、かつ両方の価格ラインで他のすべての属性が等しい場合は、価格ラインの重複が生じます。価格ラインの重複が許可されるかどうかは、Agile 管理者に問い合わせてください。</p>
添付ファイル	<p>このタブには、価格に添付されているファイルと URL が一覧表示されます。[履歴] タブには、価格オブジェクトに対して実行されたアクションの要約が表示されます。</p> <p>詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』をご覧ください。</p>

価格ラインを管理する

価格ラインには、アイテムに関する固有の価格情報が含まれています。価格ラインは、特定の数量割引に適用される価格および条件に関する情報を保存しています。

価格変更 (PCO) を通して価格ラインを公表した後、この価格ラインを変更することができます。PCO の詳細は、115 ページの「[価格変更](#)」を参照してください。また、価格情報をレッドラインすることもできます。この場合、変更された情報を使用する前に、価格はレビューおよびリリースのため送信されます。レッドラインの詳細は、119 ページの「[価格情報をレッドラインする](#)」を参照してください。

価格オブジェクトの [価格ライン] タブで、価格ライン情報を見ることができます。価格ライン情報は、[価格ラインの追加] ウィンドウで作成または変更することができます。

価格ラインを作成する

アイテムの [価格ライン] タブから価格ラインを作成することができます。

注意 [価格管理者] および [価格マネージャ] 役割を持つユーザーは、アイテムや製造元部品に対し価格ラインを作成することができます。[価格調整者] 役割を持つユーザーは、自らが供給するアイテムや製造元部品の価格ラインのみを作成することができます。

価格ラインを追加するには:

1. 価格オブジェクトを開き、[価格ライン] タブに移動します。
2. [追加] をクリックします。[価格ラインの追加] ウィンドウが表示されます。

3. 必須フィールドに入力します。
 1. ドロップダウン リストから [出荷先] の場所を選択します。
 2. [価格有効開始日] カレンダーから、日付を選択します。
 3. [数量] フィールドで、価格ライン情報を適用する数量を入力します。
 4. [通貨コード] ドロップダウン リストからサプライヤの通貨を選択します。
4. オプションのデータを入力します。
 1. 必要に応じて、[換算日] カレンダーで通貨換算日を入力します。
 2. [マテリアル価格] フィールドで、材料単価を入力します。
 3. [一時的コスト] フィールドで、一時的コストを入力します。
 4. [リード タイム] フィールドで、供給のリード タイムを入力します。
 5. ドロップダウン リストから [輸送条件] を選択します。
 6. ドロップダウン リストからアイテムの [原産国] を選択します。
 7. [価格ライン メモ] フィールドで、その他のコメントや情報を入力します。
5. [完了] をクリックします。

価格ラインを変更する

[価格ライン] タブで価格ライン情報を変更できます。

価格ライン情報を編集するには:

1. 価格オブジェクトを開き、[価格ライン] タブに移動します。
2. 変更する価格ラインの行を選択し、[編集] をクリックします。
3. [価格ライン] テーブルで、価格ライン情報を編集します。
4. [保存] をクリックします。

価格ライン情報を削除する

[価格ライン] タブから価格ライン情報を削除できます。

価格ライン情報を削除するには:

1. 価格オブジェクトを開き、[価格ライン] タブに移動します。
2. 削除する価格ラインの行を選択します。
3. [削除] をクリックします。
4. 確認のメッセージに対して、[OK] をクリックします。

価格ラインをインポートする

Excel ワークブックで提出された回答から価格ラインをインポートできます。ワークブック内の回答は、特定の価格オブジェクトに属しています。これらのインポート時、システムは、関連の価格オブジェクトを追加しますが、他の価格オブジェクトは追加しません。

Excel ワークシートをインポートするには:

注意 インポート プロセスの詳細は、『Agile インポートおよびエクスポート・ガイド』を参照してください。次の手順では、導入のみを説明します。

1. メイン メニュー バーで [ツール] ドロップダウン リストから [インポート] を選択します。[インポート ウィザード] の [インポート ソース] ページが表示されます。
 2. [参照] ボタンをクリックして、サプライヤ回答を含む Excel ワークブックを選択します。
 3. Excel ワークブックのラジオ ボタンをクリックして、[ファイル タイプ] を選択します。設定を変更する場合は、[設定] をクリックして変更できます。
 4. [次へ] をクリックします。[インポートするコンテンツを選択] ページが表示されます。
 5. [公表価格] および [公表価格ライン] ラジオ ボタンを選択し、[次へ] をクリックします。[設計変更とマッピングの選択] ページが表示されます。
 6. マッピング ファイルを選択または作成します。[完了] をクリックします。価格オブジェクトの [価格ライン] タブ ページが表示され、Excel ワークブックに含まれていたすべての価格ラインが表示されます。
-

注意 単一のインポート プロセスでインポートできる価格ラインの数は、システムまたはサーバの設定によって異なります。サーバ サイジングの詳細は、『Capacity Planning Guide』を参照してください。

重要 価格ラインの数が非常に多い場合、Agile はそれらを複数の Excel ワークブックに分割してインポートすることをお薦めします。各ワークブックに含める価格ラインの数は、オーサリング モードでは 5000 未満、レッドライン モードでは 1000 未満にしてください。

価格変更

扱うトピックは次のとおりです。

▪ 価格変更について	115
▪ PCO を管理する	115
▪ 価格情報をレッドラインする	119

価格変更について

価格変更 (PCO) を通して、価格に加える必要のある変更をすべて管理します。PCO はワークフローを通じて、[保留中] フェーズから [リリース済み] フェーズへと送付されます。PCO を通して、価格のリリース、価格情報のレッドライン、価格情報の履歴の追跡などを行うことができます。

価格オブジェクトに対してのみ、PCO を作成します。PCO には、異なるアイテムに関連付けられた複数の価格を含むことができますが、価格に含むことのできる保留中の PCO は 1 つのみです。

PCO を管理する

価格変更は、アイテムまたは製造元部品の価格に対する変更を管理します。価格管理者は PCO を作成し、価格調整者は見積依頼の回答からアイテムの価格を公表することができます。

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- PCO を作成する
- PCO に価格オブジェクトを追加する
- ワークフロー
- [関係] タブにオブジェクトを追加する

PCO を作成する

価格またはメイン メニュー バーの [作成] メニューから PCO を作成できます。価格の [アクション] メニューから PCO を作成する場合、デフォルトでは価格は PCO に関連付けられています。[作成] メニューから PCO を作成すると、手動で価格を PCO と関連付ける必要があります。

PCO を [作成] メニューから作成するには:

1. [作成] > [変更] > [価格変更] を順にクリックします。[価格変更の作成] ウィンドウが表示されます。
2. ドロップダウン リストから PCO の [タイプ] を選択します。固有の番号が自動的に生成されて、[番号] フィールドに入力されます。この番号は、必要に応じて変更できます。または、 をクリックして別のシステム生成番号を取得します。

3. [続行] をクリックします。[PCO 作成ウィザード] ページの [カバーページの情報を入力] ページが表示されます。
4. [変更カテゴリ] ドロップダウン リストからカテゴリを選択します。
5. [変更の説明] と [変更の理由] を、それぞれのフィールドに入力します。
6. [理由コード] と [ワークフロー] をそれぞれのドロップダウン リストから選択します。
7. [価格管理者] のとなりにある  をクリックします。オープンしたウィンドウのユーザー リストから、PCO を転送する必要のある価格管理者を検索し、選択します。
8. [作成者] のとなりの  をクリックします。オープンしたウィンドウのユーザー リストから、作成者を検索し、選択します。デフォルトでは、作成者は PCO を作成したユーザーとなっています。
9. 作成日が今日の日付とは異なる場合、カレンダーの [作成日] を変更して、PCO が作成された日付をスタンプします。
10. [製品ライン] のとなりの  をクリックし、対象製品ラインを選択します。
11. [次へ] をクリックします。[対象価格] ページが表示されます。
12. [追加] をクリックし、アイテムの価格を追加します。[対象価格の追加ウィザード] ウィンドウが表示されます。
13. 簡易検索または詳細検索を使用して、対象価格を検索して選択します。
14. [次へ] をクリックします。[添付ファイルの追加] ページが表示されます。
15. [追加] をクリックし、関連ファイルを PCO に追加します。添付ファイルの詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』をご覧ください。
16. [完了] をクリックします。

価格オブジェクトから新規 PCO を作成するには:

1. 価格オブジェクトを開きます。
2. [アクション]>[変更への追加]>[新規作成...] を選択します。[変更の作成] ウィンドウが表示されます。
3. [変更タイプ] ドロップダウン リストから PCO を選択します。固有の番号がシステムにより生成されて、[番号] フィールドに入力されます。
4. [続行] をクリックします。[PCO 作成ウィザード] の [PCO 情報の入力] ページが表示されます。
5. 「PCO を [作成] メニューから作成するには」の手順 4 から手順 16 までを実行します。

完了すると、PCO の [カバー ページ] タブが表示されます。[対象価格] タブに移動して、価格オブジェクトの現在の値を確認します。必要に応じて値を編集します。

[添付ファイル] タブでは、PCO に関連添付ファイルを追加できます。[履歴] タブでアクション ログを表示できます。詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』をご覧ください。

[カバー ページ] タブ

このタブには、PCO に関する一般情報が表示されます。その内容には、PCO の固有の ID 番号、PCO の現在のワークフロー ステータス、変更の説明、変更の理由などが含まれます。

[カバー ページ] タブは、[編集] ボタンをクリックして編集することができます。

[対象価格] タブ

[対象価格] タブには、PCO に関連付けられた価格に関する情報が表示されます。レッドラインを通して、価格情報に変更を加えることができます。このタブでは、レッドライン済み情報の履歴を見ることができます。

テーブルで [価格番号] をクリックすると、価格情報を表示できます。

このタブで、価格情報をレッドラインすることができます。レッドラインの詳細は、119 ページの「[価格情報をレッドラインする](#)」を参照してください。

PCO に価格オブジェクトを追加する

PCO に必要なだけ価格オブジェクトを追加することができますが、価格オブジェクトに含むことのできる保留中 PCO は 1 つのみです。一旦価格が公表されると、価格情報の小さな変更に対してでも、PCO を作成する必要があります。

既存の価格を PCO に追加できます。または、すべてのアイテムや製造元部品に対して新しい価格を作成し、これを PCO に追加することができます。さらに、アイテムや製造元部品に対し価格ラインを作成することができますが、これは必須ではありません。

既存の価格を PCO に追加するには:

1. PCO を開き、[対象価格] タブに移動します。
2. [追加] をクリックします。[対象価格の追加ウィザード] ウィンドウが表示されます。
3. 既存の価格について、検索方法を選択します。Agile オブジェクトの検索の詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』を参照してください。
4. 1 つ以上の価格オブジェクトを選択し、[OK] をクリックします。[新しく追加された行を編集します] ページが表示されます。
5. 必要に応じて [さらに追加] をクリックし、他の価格オブジェクトを追加した後、[完了] をクリックします。

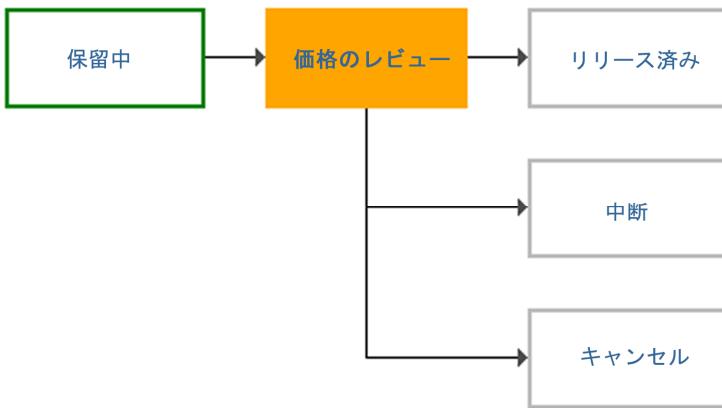
有効日を適用する

[有効日の自動入力] ウィンドウで、価格の有効日を適用することができます。

有効日を適用するには:

1. 価格オブジェクトの [対象価格] タブで、テーブルの価格行の行を選択します。
2. [有効日の自動入力] をクリックします。[有効日の自動入力] ウィンドウが表示されます。
3. [日付入力] カレンダーから、日付を選択します。
4. [すべてのアイテムに適用] をチェックすると、選択された日付は選択されたすべての価格オブジェクトに適用されます。
5. [日付設定] をクリックします。

ワークフロー



[ワークフロー] タブは、フローチャートの形式で、PCO のワークフローに関する情報を表示します。PCO は [保留中] フェーズから始まり、[リリース済み] フェーズで終わります。PCO の価格情報は、PCO が [リリース済み] フェーズになると有効となります。ただし、すべてのフェーズにおいて、PCO をキャンセルしたり、中断することができます。

適切な役割を持つユーザーは、PCO を提出し、価格レビューに通知して、これを次のフェーズに転送することができます。価格レビューは通知を受けた時点で、価格情報を確認し、必要に応じて変更を加え、さらに承認者、オブザーバ、およびその他の必要なユーザーに通知します。それぞれのユーザーが価格レビューから送信された価格情報を確認し、必要な変更を加えた後、これを実施するために次のステージへと転送します。

[ワークフロー] タブでは、[価格レビューのステータスのサインオフ要約] および PCO の [サインオフ履歴] テーブルを確認できます。[ワークフロー概要の表示] ボタンをクリックして、ワークフローを表示できます。このボタンは、表示を閉じるときには、[ワークフロー概要の非表示] に変更されます。

価格管理者（同時に承認者でもあります）のみが、PCO を承認または却下することができます。オブザーバは PCO を分析し、コメントします。PCO に関する通知は、サプライヤや顧客など、他のユーザーにも送信することができます。

[承認者/オブザーバの追加] または [承認者/オブザーバの削除] をクリックして、承認者とオブザーバを追加または削除できます。承認者は、[承認] または [却下] ボタンをクリックして PCO を承認または却下します。

ワークフローには、必要条件に応じて複数のフェーズがあることがあります。Agile 管理者は、ワークフローをカスタマイズすることができます。ワークフローの詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』を参照してください。

関係を追加する

[関係] タブでは、PCO ステータスに影響を及ぼすオブジェクトに関する情報の追加、およびそれらのオブジェクトに対するルールの追加を行うことができます。複数のオブジェクトを追加することができますが、[リリース済み] ステータスにあるオブジェクトは、どちらのテーブルにも追加できません。

オブジェクトは、新規作成するか、または検索を実行して追加できます。

検索によりオブジェクトを追加するには:

1. PCO を開いて [関係] タブに移動します。
2. [追加]>[検索] をクリックします。[関係の追加] ウィンドウが表示されます。
3. [検索用語] ドロップダウン リストからオブジェクト タイプを選択し、検索パラメータを入力して、オブジェクトを検索します。
4. 結果テーブルでオブジェクトを選択し、[選択項目の追加] ボタンをクリックします。下の列に、選択したオブジェクトが表示されます。
5. 追加したオブジェクトを変更する場合は、[追加後、行を編集] ボックスをチェックします。
6. [OK] をクリックします。[追加後、行を編集] をチェックすると、[編集] ページが表示されます。チェックしない場合は、[関係] タブに進みます。

関係ルールを適用する

関係オブジェクトを追加した後は、それらを 1 つずつ選択して、その関係ルールを追加できます。

価格情報をレッドラインする

価格情報は、2 つの方法で [アイテム マスター] へ公表することができます。[オーサリング] と [レッドライン] です。

- [オーサリング] モードを使うと、価格情報を直接 [アイテム マスター] に公表することができます。[オーサリング] モードでの価格公表は、ソーシング プロジェクトの [分析] タブから行います。
- [レッドライン] モードは、以前の価格情報をすべて追跡します。公表された情報に変更を加えたい場合は、価格情報をレッドラインします。公表された価格を変更するには、PCO を使用します。PCO には複数の価格オブジェクトが含まれており、同じように複数の価格ラインが含まれています。PCO のすべての価格オブジェクトの価格ライン情報をレッドラインすることができます。

また、[レッドライン] モードでは、価格ラインを価格オブジェクトに追加したり、削除したりすることもできます。[レッドライン] モードで価格ラインを追加することは、価格オブジェクトに価格ライン情報を追加することと似ています。

価格管理者はレッドラインされた価格情報を価格管理者に提出し、それが承認 ([価格レビュー] ステージ) され、リリースされます。価格管理者はレッドラインされた価格情報を確認し、変更を加えたり、またはそのままの状態で PCO をリリースします。

価格ラインをレッドラインするには:

1. PCO を開き、[対象価格] タブを選択します。
2. レッドラインする必要のある価格行で、[レッドラインを行う]  をクリックします。価格ラインは [価格リストレッドライン] タブに表示されます。
3. レッドラインする必要のある価格ラインの行を選択します。
4. [編集] をクリックします。チェックされた行が編集可能になります。
5. 必要に応じて情報を編集します。
6. [保存] をクリックします。

注意 価格ラインをチェックし、[レッドライン取り消し] ボタンをクリックすると、公表されたときのオリジナルの情報を表示することができます。

レッドライン モードで価格ラインを削除する

価格ラインを削除し、これを価格のレビューに送信することができます。承認者は削除を承認または却下します。

[レッドライン] モードで価格ラインを削除するには:

1. PCO を開き、[対象価格] タブを選択します。
2. レッドラインする必要のある価格行で、[レッドラインを行う]  をクリックします。価格ラインは [価格リストレッドライン] タブに表示されます。
3. [削除] をクリックします。
4. 確認のメッセージに対して、[OK] をクリックします。